

第一類 堅炭

堅炭ヲ分チテ左ノ十五種トス

- 第一種 太鼓倭別上一本撰炭
炭木ハアベマキ、樫、櫟、ノ三種ニシテ炭長サ五寸周リ二寸以上トシ倭丈ケ曲一尺二寸風袋六百目以下皆掛四貫二百目トス倭ハ両口トシ口ハ葉ノナキ枝ヲ以テ之ヲ造ル但兩口共口輪ニ限リ適宜ノ木葉ヲ用フルヲ得
- 第二種 太鼓倭一本撰炭
炭木ハ七葉樹櫟樺ノ四種ニシテ炭長サ倭丈ケ貫目其他倭拵等ハ第一種ニ全シ
- 第三種 太鼓倭大上口炭
炭木ハ松杉樺栗等其他柔カナル木種ヲ除キ炭長サ一寸以上トシ倭丈貫目其他倭拵等ハ第一種ニ同シ
- 第四種 太鼓倭上口炭
炭木ハ松杉樺等ノ木種ヲ除キ炭長サ一寸以上トシ倭丈、貫目其他倭拵等ハ第一種ニ全シ
- 第五種 太鼓倭撰下炭
炭木ハ第一第二第三第四ノ四種ノ餘屑ヲ用ヒ炭長サ一寸以下トシ倭丈貫目等ハ第一種ニ同シケ倭ノ口ハ葉ノナキ枝ヲ用ヒ底ハ松杉檜ヲ除クノ外適宜ノ木葉ヲ用ヒテ造ルモノトス
- 第六種 薦卷倭三河白別上一本撰炭
炭木ハ七葉樹櫟樺ノ三種トシ兩木口アル炭ニ限リ倭丈三尺二寸トシ薦卷ノ外部ニ割竹或ハ細キ木枝ヲ當テ倭拵ス風袋五百目以下トシ皆掛五貫目トス
- 第七種 叭入炭
炭木及炭ノ種類ハ第一種第二種第三種第四種第五種ニ同シケシテ叭ハ裏進ニツ折ニシ兩端ヲ綴リ口ニハ葉ノナキ木枝ヲ用ヒ風袋五百目以下トシ皆掛八貫目トス
- 第八種 白堅倭撰上炭
炭木ハ七葉樹櫟樺ノ四種ニシテ炭長五寸以上トシ倭丈曲尺二尺五寸片口ヲ折リ曲ケ上口ニハ葉ヲ當テ倭裝ス風袋一貫目以下皆掛十貫目トス
- 第九種 白堅倭上口炭
炭木ハ松杉樺栗等其他柔カナル木種ヲ除キ炭長サ一寸以上トシ倭丈ケ貫目其他倭拵等ハ第八種ニ同シ

- 第十種 白堅倭撰下炭
炭木ハ第八種第九種ノ餘屑ヲ用ヒ炭長サ一寸以下トシ倭丈貫目其他倭拵等第八種ニ同シ
- 第十一種 横袋別上一本撰炭
炭木ハ七葉樹櫟樺ノ四種ニシテ炭長五寸以上トシ倭丈曲尺二尺五寸トシ風袋六百目皆掛五貫目トス
- 第十二種 横袋一本撰炭
炭木ハ七葉樹櫟樺ノ四種ニシテ炭長倭丈貫目其他倭拵等ハ第十一種ニ全シ
- 第十三種 横袋大上口炭
炭木ハ松杉樺栗等其他柔カナル木種ヲ除キ炭長サ一寸以上トシ倭丈貫目其他倭拵等ハ第十一種ニ全シ
- 第十四種 横袋上口炭
炭木ハ松、杉、樺等ノ木種ヲ除キ炭長一寸以上トシ倭丈貫目其他倭拵等ハ第十一種ニ全シ
- 第十五種 横袋撰下炭
炭木ハ第十一第十二第十三第十四ノ四種ノ餘屑ヲ用ヒ炭長一寸以下トシ倭丈貫目其他倭拵等ハ第十一種ト全シ
- 第二類 黒炭
- 第一種 黒炭ヲ分チテ左ノ三種トス
 - 第一種 上口黒炭
炭木ハ松杉樺等其他柔カナル木種ヲ除キ炭長三寸以上トシ倭丈曲尺二尺五寸風袋五百目以下皆掛四貫目若クハ五貫目トス
 - 第二種 並黒炭
第一種ト概子同シケシテ稍下品ナルモノトス
 - 第三種 文庫倭黒炭
炭木ハ第一種ニ同シケ倭拵ハ三方ヲ薦卷トシ兩口及上面ハ木枝ヲ以テ覆ヒ風袋六百目以下皆掛八貫目トス
- 第三類 鍛冶炭
- 第一種 松堅倭炭
倭丈曲二尺二寸トシ風袋四百目以下皆掛四貫目トス
- 第二種 松炭
- 第三種 栗炭

第四種 雜 栗 炭
右三種トモ倭丈ク曲尺二尺二寸トシ一俵五斗ヲ入ル、モノトス
第四類 菊 炭
菊炭ヲ分チテ左ノ五種トス

第一種

炭木ハ樺(薄皮樺ニ限ル厚皮樺ニテモ皮ノ薄キモノハ之ヲ加フルヲ得)ノ一種ニシテ炭長サ一尺五寸トシ直徑三寸以下六分以上俵丈曲尺一尺六寸風袋四百目以下トシ皆掛三貫目若クハ四貫目トス倭ハ両口トシ只葉ノナキ枝ヲ以テ之ヲ造ル但両口トモ口輪ニ限リ適宜ノ木葉ヲ用ユルコトヲ得

第二種

炭木ハ樺ノ一種ニシテ炭長倭丈實目其他倭拵等第一種ニ全シ

第三種

炭木ハ樺厚皮樺ノ二種ニシテ炭長倭丈實目其他倭拵等第一種ニ全シ

第四種

雜木炭ニシテ炭長倭丈實目其他倭拵等第一種ニ全シ

第五種

撰下炭ト稱シ第一、第二、第三、第四、ノ四種ノ餘屑ヲ用ヒ炭長一寸以上トシ倭丈曲尺一尺六寸風袋四百目以下トシ皆掛三貫目若クハ四貫目トス

但底ハ松杉櫨ヲ除クノ外適宜ノ木葉ヲ用ユルモ妨ケナシ

第四十七條 組合員ハ役員書記検査員ノ職務ヲ拒ムルヲ得ス

第四十八條 製品ノ標準並ニ検査ノ方法ハ評議員會ノ議決ヲ經テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ頭取之ヲ定ム

第十章 仲 裁 判 斷

第四十九條 本組合ハ當事者ノ請求ニ依リ組合員間ニ生ジタル營業上ニ關スル紛議ノ仲裁判斷ヲナス

前項ノ請求ヲナシタル各當事者ハ係争ノ事實及理由ヲ明記シ證據書類ヲ添ヘ本組合ノ仲裁判斷ニ服從シ後日異議ナキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出スル

第五十條 評議員會ハ當事者ヲ招喚シ其辨明ヲ聞クヲ得

第五十一條 仲裁事件ニ關係ナシ又ハ親族等ノ關係アル評議員ハ該仲裁判斷ノ議決ノ數ニ加ハルヲ得ス

第五十二條 仲裁判斷ハ理由ヲ附シタル判斷書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第十一章 違 約 處 分

第五十三條 本組合同規約第六條中第二項第三項第四項第五項第六項第七項及第三十三條第三十四條後段ニ違背シタルモノハ貳拾錢以上貳拾圓以下ノ過意金ニ處ス

第五十四條 過意金ノ處分ハ通知ノ日ヨリ十日以内ニ組合事務所ヘ差出スル

前項期間内ニ差出サル片ハ更ニ期間ヲ定メ催告シ其所要費用ハ凡テ之ヲ負担セシムルモノトス

第十二章 規 約 變 更

第五十五條 本規約ヲ變更セントスル片ハ代議員會ヲ開キ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ議定シ主務官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

第十三章 解 散

第五十六條 本組合ヲ解散セントスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレバ之ガ議決ヲナスヲ得ス

第五十七條 本組合ヲ解散セントスルトキハ組合員中ヨリ四名ノ精算人ヲ選定スル

第五十八條 本組合解散ノ場合ニ於テ精算ノ結果財産ヲ有シ又ハ負債アリタル片ハ解散ノ際現ニ組合員タリシ者ノ總會ヲ開キ之ガ分配又ハ償還ノ方法ヲ定ム

又ハ償還ノ方法ヲ定ム

第五十九條 本規約ハ認可ノ日ヨリ七日ヲ經テ實施スルモノトス

三、東加茂郡炭業組合役員事務員

- | | |
|-----|-------------|
| 頭 取 | 金 田 喜 作 |
| 副頭取 | 成 瀬 直 六 |
| 評議員 | 柴 田 好 郎 |
| | 近 藤 常 四 郎 |
| 書 記 | 鈴 木 奥 右 工 門 |
| 検査員 | 森 田 磯 次 郎 |
| 代議員 | 原 田 六 三 郎 |
| | 近 藤 泰 三 |
| | 岡 本 信 次 郎 |
| | 林 乙 五 郎 |
| | 近 藤 宗 央 |
| | 嶋 田 小 市 |
| | 加 納 三 代 吉 |
| | 中 泉 清 七 |
| | 鈴 木 宗 十 郎 |
| | 後 藤 孝 光 |

顧問 鈴木藤八 鈴木久太郎 宇井健太郎 (一名欠員)
 監督 上野録二郎 (東加茂郡長)
 柴田善松 鈴木誠之 (東加茂郡書記)
 四十二年未現在組合人員
 一、壹千四百九十六人
 内 譯
 製造人 一千二百九十九人
 賣買人 一百九十七人

因ニ本組合ハ時代要求ノ然ラシムル所カ當業者間ニ之ヲ同業組合法ニ依リ組織ヲ變更セントスルノ議起リシガ前郡長菅政治氏ハ本組合顧問トシテ大ニ盡力セラレ衆議ノ熟スル所トナリ明治四十二年四月本縣知事ニ之カ發起人會開設ノ申請ヲナシタリシニ本年一月十九日認可セラレタルヲ以テ目下之ガ準備中ニテ近キ將來ニハ豫想ノ發達ヲ遂クルニ至ラン

第六本郡製炭業ノ將來

本郡製炭業ノ梗概ハ以上記述ノ如クナルガ由來本郡ハ山岳多クシテ氣候及土質ノ關係上樅育成ノ好適地ナルヲ以テ之ガ栽培ニ努メ以テ材料ヲ豊富タラシメ進ンテ技術ノ改良ヲ企圖スルアラバ本郡副業トシテ其利益ハ決シテ養蠶業ノ夫レニ下ラサルヘシ加之ナラス本事業ノ盛産時期ハ農閑ナル冬季ニアルヲ以テ勞力ノ均衡上モ至便タルニヨリ今后經營其宜キニ隨ヒ銳意以テ斯業發展ニカムルアラバ農家ノ經濟ヲ助長シ延テ本郡財界ニ多大ノ影響ヲ及ホスヲ決シテ疑ヲ容レサル所ナリ
 斯クノ如ク本郡製炭業ガ將來最モ好望ナル事業タルニ際シ本郡炭業組合ハ更ニ進テ同業組合法ニ則リ組織ヲ改更シ活躍スル所アラントス洵ニ機宜ニ適シタル施設ト云フヘキナリ爾后之ノ趨勢ヲ以テ漸進シ豫期ノ發達ヲ遂ケンカ其利益ヤ蓋鮮少ナラサルヘク亦事業ノ難事タラサルヲ信ス茲ニ欄筆セントスルニ當

リ薪炭林整理豫定表ヲ添付シ聊カ參考ニ供ス當業者幸ニ之ニ依テ協力以テ遂行シ斯業ノ發展ヲ期スルアラハ大ニ多トスル所ナリ

薪炭林整理豫定一覽

(一)造林地ト雜木林ノ種別

山林總面積	薪炭林面積	雜木林面積	計	摘	要
一四七、八、五	四二〇、〇	四一七、五	八八七、五	林造ノ見込アルハ全面積約二分ノ一トス殘余ハ從來ノ通り雜木林トシテ存在シ製炭ノ用材トス	

(二)造林方法

造林豫定地面積	植栽期間	一ケ年植	區反別	植栽樹種數量	全上一反歩ニ對スル數量	摘	要
四四、一〇〇	一三	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇〇〇	四〇〇	植栽初年ヨリ十三年目ニ至リ第一期伐採ヲ行ヒ爾後毎年三百四十町歩ツ、伐採ス	

(三)雜木林

雜木林面積	伐採年限	一ケ年伐採反別	摘	要
四一七、五	一五	二九四五		

年次	伐採反別	產額	價格	伐採反別	產額	價格	收入計
第一年	(第一年ヨリ第十三年ニ至ル毎年三百四十町歩ツ、造林ス)	六四五	四二四六〇〇	六四五	三四五、一六	三四五、一六	

町村名	製造戸數	産額	價	格
旭	三、六一八、二	一、二七〇、一	二〇一、〇	
阿摺	一、五九二、八	一、〇六一、七	八三一、二	
計	一八、三九三、九	八、八三七、五	四、四二〇、〇	

七 附 屬 書 類

- 一、明治四十二年各村別製炭戸數及産額價格一覽
- 二、最近五ヶ年間産額價格一覽表附既往十ヶ年間毎ノ消長一覽
- 三、製炭集地足助町ヨリ各需要地ニ至ル里程表

明治四十二年各町村別製炭戸數及産額價格一覽

町村名	製造戸數	産額	價	格
足助	七戸	七、〇〇〇	二、一〇〇、〇〇〇	
盛岡	二六七	八〇、一五〇	二五、六〇〇、〇〇〇	
松平	五	三、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	
下山	三七八	一、七、五五〇	三、六一、〇〇〇	
賀茂	四二	一、〇、五〇〇	三、〇〇、〇〇〇	
旭	一〇八	四〇、七〇〇	二、一三五、〇〇〇	
阿摺	一三四	五〇、〇〇〇	一、六、〇〇〇、〇〇〇	

計

一、二、七、六

四、四、一、九〇〇

一、四、九、三、五〇〇

製炭産額隔十年比較表

(明治十年以后)

年次	産額	價	格
明治十年	五九、八〇〇	二、九九〇、〇〇〇	
明治二十年	八八、六二九	八、八六三、〇〇〇	
明治三十年	九八、四二二	二〇、八九六、〇〇〇	
明治四十年	三六八、〇〇〇	一一二、〇〇〇、〇〇〇	

製炭集地東加茂郡足助町ヨリ各需要地里程表

地名	里	地名	里
名古屋	一二三四	新川(三海河)	一四〇七
岡崎(額田河)	七一七	平坂(幡豆河)	一三〇八
安城(碧海河)	一一〇〇	半田(知尾張多)	一五二八
矢作(碧海河)	八一八	明知(東那濃)	七三二
舉母(西加茂河)	五二三		

南設樂郡炭業ニ關スル方法成績

(南設樂郡炭業組合編述)

第十回府縣聯合共進會出品

目次

緒論	第一
沿革	第二
炭業組合	第三
組合規約	第一
區域	第二
組合人員、經費、生產	第三
製炭ノ販路	第四
事業	第五
炭材ノ蕃殖及伐採法改良	第一
植栽成績	(1)
收入比較	(2)
製炭改良	二
製炭傳習所開設	(1)
技術員ノ設置	(2)
製品検査員	(3)
製品會開設	(4)
製炭方法	(5)
在來窯ト改良窯トノ收支比較	(6)

第四
其其其其
附四三二一

組合ノ効果	第一號
炭質ノ改良ニ伴ヒ需用ノ増加	第二號
木材利用	第三號
粗製濫造ノ弊害ヲ矯正ス	第四號
製造者ト商人トノ關係	第五號
炭窯圖	第一號
組合規約	第二號
製品検査規程	第三號
検査員執務規程	第四號
明治四十三年度經費豫算	第五號



南樂郡製炭傳習所光景

第一 緒論

抑本郡ノ地勢タル山岳ヲ以テ圍繞セラレ南方豊川ノ流域ニ沿フテ僅ニ平坦ノ土地ヲ有ス而シテ其全面積ハ一萬二千余町歩ニシテ山林八千九百余町歩ヲ算シ殆ト全面積ノ三分ノ二以上ニ瀰レリ故ニ林産物ノ盛衰ハ郡ノ消長ニ多大ノ關係ヲ有スルヤ言フ俟タズ然ルニ其生産物タル木材ハ交通機關ノ設備甚ダ薄弱ナル地ニ於テハ却テ之ヲ副産物ニ利用スルヲ以テ優レリトナス故ニ製炭、改良發達ヲ計ルハ本郡必須ノ事業ニシテ敢テ等閑ニ之ヲ看過スル能ハザルナリ

第一 沿革

本郡山岳部ノ村落ニアリテハ古ヘヨリ製炭ノ業務ニ従事スルモノ多カリシガ何レモ其窯數ノ多キヲ誇リトナシ是ガ原料ノ徒費炭質ノ良否等ハ敢テ意ヲ用フルモノナク殆ンド粗製濫造ノ弊ニ陥レリ
本郡農會ハ茲ニ見ル處アリ明治二十八年田中長嶺翁ヲ招聘シ作手村大字高松ニ築窯シ黒炭製造方法ノ實地講習ヲ行ハレタリ此レ本郡製炭改良ノ嚆矢ナリ爾來此ノ製法ヲ則トシ之レガ製作ニ従事セシモノアリシガ其産額ノ少量ナルト俵裝ノ不備ナリシカバ恰當ノ販路ヲ得ル能ハズ從テ其利益モ又淺薄ナリシヲ以テ依然舊慣ヲ打破スルニ至ラズシテ經過セシガ本郡當局者大ニ感ズル處アリ明治四十年郡技員及斯業熱心者ヲ選拔シテ東加茂、八名等ノ各郡ニ派遣シ以テ製炭ノ實況ヲ調査セシメ銳意獎勵セラレタリ斯業者モ亦現況ニ安ンズル能ハズ同志ヲ糾合シテ斯業ノ改良發達ニ努メタリ然ルニ從來ノ惡弊ヲ一掃シテ一齊ニ良好ノ製品ヲ產出セシメント欲セバ汎ク團結シテ互ニ其非ヲ矯正シ以テ利益ノ増進ヲ劃策スルノ捷路ナルニ如カズト郡議忽チ茲ニ一決シ明治四十一年郡内同業者ノ會合トナリ組合ノ設置ヲ議シ二百六十二名ノ同志者ハ連署シテ規約ノ認可ヲ申請シ今年五月本組合ノ設立ヲ見ルヲ得タリ名ツケテ三河國南設樂郡炭業組合ト稱ス爾來日尙淺シト雖ドモ山林ノ整理及製炭事業着々改良ノ歩ヲ進メ傳習所ヲ開設シテ當

業者ニ其技能ヲ習得セシメ巡回教師ヲ招聘シテ遍ク現場ヲ巡回セシメ以テ指導誘掖シ検査員ヲ分置シテ製品ノ検査ヲ行ヒ品評會ヲ開設シテ製品ノ優劣ヲ試ムル等大ニ見ル可キモノアルニ至レリ

第三 炭業組合

- 其一 組合規約
- 其二 別冊之通
- 其三 南設樂郡一圓
- 其四 組合人員經費生產額

年次	人員	經費	生産額	
			數量	價格
明治四十一年	四三	四〇〇	三五,〇〇〇	一四,一五〇
全 四十二年	五四	四八〇	三五,五〇〇	三五,九二〇

其四 製炭ノ販路歩合
 名古屋 三〇%
 渥美半島 二〇%
 遠州 五%
 豊橋 二五%
 郡内 二〇%

販路歩合



其五 事業

一 炭材ノ蕃殖及伐採法改良

舊來ハ天然ノ雜木林中或ル生長ニ達シ炭材トナルベキ樹種ノミヲ極メテ不規則ナル擇伐法ニヨリ原料ヲ獲得シ來リシモ斯クテハ勞力多クシテ收穫少ナリ且ツ頗ル不經濟ナル作業ナルニヨリ現今ニアリテハ可成皆伐ヲ行ヒ伐採跡地ニ於ケル主要樹種即チ櫟枹儲等ノ存在スルモノハ坪一本ノ割合ヲ以テ手入保護ヲ加エ樹跡ヨリ萌芽ヲ闢リ或ハ其疎ナル部分ニ對シテハ櫟ノ補植ヲ施シ又一方ニ於テハ櫟ノ新植ヲナス等將來櫟ノ純林ヲ造成スルノ目的ヲ以テ漸次集約的作業ニ更新ノ方法ヲ促シツ、アリ然リト雖モ目下尙淺ク之ヲ具體的ニ調査ヲ爲スニ由ナシト雖モ其成績稍見ル可キモノアリ且近來各林主ハ自ラ進ミテ植林ノ計劃ヲ爲スモノ漸次増加スルノ狀況ナルヲ以テ將來ニ於テ其効果ヲ期スルヤ疑フ容レザル所ナリトス

(1) 植栽成績

年次	面積		樹種本數	苗木代		人夫賃		備考
	補植	新植		計	計			
明治四十一年	三、五〇〇	二、二〇〇	櫟 三、七〇〇	一八九、六〇〇	一〇六、六五〇	二九六、二五〇	補植ハ坪一本新植ハ坪二本苗木一本八圓八夫一人一日百本植一日ノ賃金四拾五錢	
全 四十二年	七、三〇〇	一、九〇〇	全 三、七〇〇	二二二、三〇〇	一四七、五五五	四四六、八五五	全 上	

(2) 收入比較

種目	一町歩ヨリノ收得		純益
	炭材製炭額	價額	
舊來ノ雜木林 (十五年生)	三、〇〇〇	三、四〇〇	一〇、〇〇〇
將來ノ炭材林 (十五年生)	一五、〇〇〇	二、一〇〇	一四九、五〇〇

備考 製炭額舊來ハ一割將來ハ一割四分ノ積リ

前表ニ示スガ如ク百四拾九圓五拾錢ヨリ舊來ノ拾參圓六拾錢ヲ扣除スレバ百參拾五圓九拾錢ノ增收アリトセバ郡内私有雜木林全面積八百三十余町歩ニ對シ林地更新ノ曉ニハ實ニ拾壹萬貳千七百余圓ノ增收ヲ見ルニ至ラン是只ニ第一回ニアリテノミ殊ニ私有針濶混合林中炭材ニ適スル林地四百余町歩公有、社寺有六百余町歩ヲ漸次施業スルニ於テハ將來豈有望ナルモノナラズヤ

二、製炭改良

(1) 製炭傳習所開設

明治四十一年度 三ヶ所(一ヶ所) 習得生 八十五人
全 四十二年度 一ヶ所(全上) 全 四十二人

(2) 技術員ノ設置

製炭巡回教師一名ヲ僱ヒ毎年製炭時期(十月ヨリ翌年三月ニ至ル)六ヶ月間現場ヲ巡回シテ實地指導セシム

(3) 製品検査員

十名ヲ置ク組合區域ヲ十部ニ分チ一部一名トシ製品ノ検査ヲ行フ

(4) 品評會開設

明治四十二年十二月開設セリ

出品點數 八十點

褒賞點數 三十一點

(5) 製炭方法

木炭ノ需用ハ近來養蠶事業ノ發達ニ伴ヒ白炭ノ良品ヲ最トス然ルニ之レガ供給力甚ダ薄弱ナリシヲ以テ本組合ハ先良好ナル白炭ヲ作製スルノ急ナルヲ認メ第一着トシテ之レガ改良ヲ實行セリ左ニ掲クルハ則

此白炭改良ノ方法ナリ

窯ノ構造 (附圖參照)

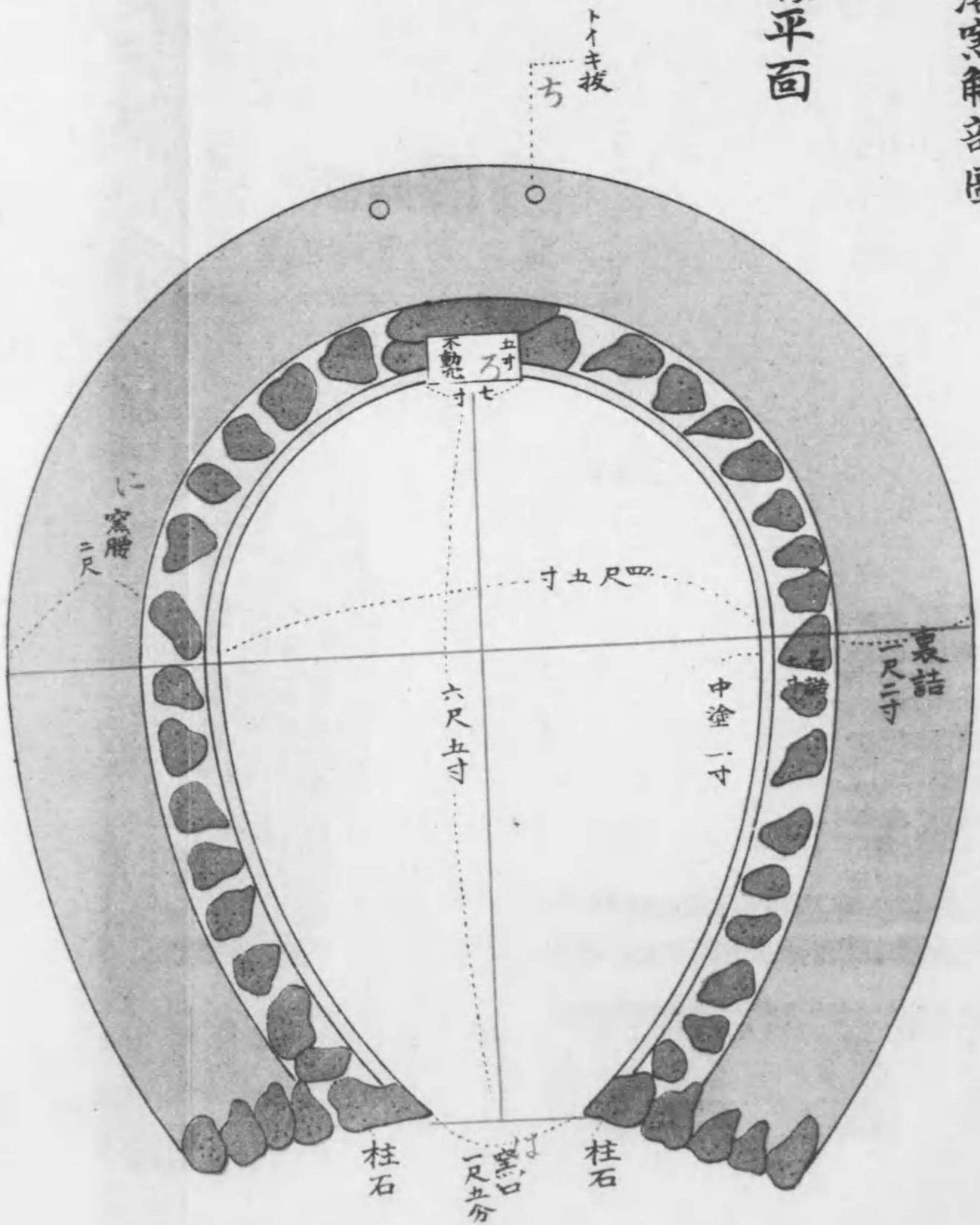
名稱	寸法	製作上ノ要點	特微
素掘	縱八尺五寸 橫六尺五寸	縱經八尺五寸ノ圓形ニ地平線以下一尺八寸ノ深サニ掘下ゲ水平ニス	炭材ノ兩小口ヲ灰化セズ俗ニ「兩口物」ト稱フル最上白炭ノ製品ヲ得ルニ至リタルハ本窯ヲ以テ嚆矢トナス
第一圖	縱六尺五寸 橫四尺五寸	平石ヲ用フ 厚サ平均セザレバ炭化不均ナリ	從來ノ窯ニアツテハ單ニ數石ノミナリ然ルニ本窯ハ特ニ一尺八寸ノ窯床ヲ設ケ其理由左ノ如シ
第二圖	縱二寸五分 橫二寸	粘土ニ 栗石ニ 粘土ニ	凡テ窯ハ其上部ニ熱度上昇シ下部ノ冷却急劇ナルヲ以テ下部ニ熱度ヲ保タシメ窯内ノ熱度ヲ平均ナラシムルト同時ニ土地蒸發氣ヲ發散(下イキ拔ヨリ)セシムルヲ以テ精煉上大ニ効アリ
床	厚一尺八寸	杉皮ニ 粘土ニ	蒸發氣拔(俗ニ「下イキ拔」ト稱ス)竹筒二本ヲ煙出ノ左右ニ挿入(第二圖)ス
第二圖	厚計一尺八寸	杉皮ニ 粘土ニ 栗石ニ 粘土ニ	縱數木ノ下窯ノ中央ヨリ庭外ニ向ヒ一本ノ竹筒ヲ伏セ込ミ以テ外氣ヲ通セシメ且排水用トナス(第二圖)ス
煙出	傾斜一尺五分 腰ヨリ五寸上リ	杉皮ニ 粘土ニ 栗石ニ 粘土ニ	傾斜一尺五分(廿一度)炭化作用ヲ調節シ真炭ヲ得ル爲ナリ角度鈍ナレバ燃焼速ニ角度急ナレバ燃焼遲シ故ニ燃焼遲クシテ炭化ヲ急ナラシメント欲セバ此傾斜ヲ適當トス尤モ土質粗ナレバ傾斜ヲ急ニシテ土質密ナレバ之ヲ緩ニス

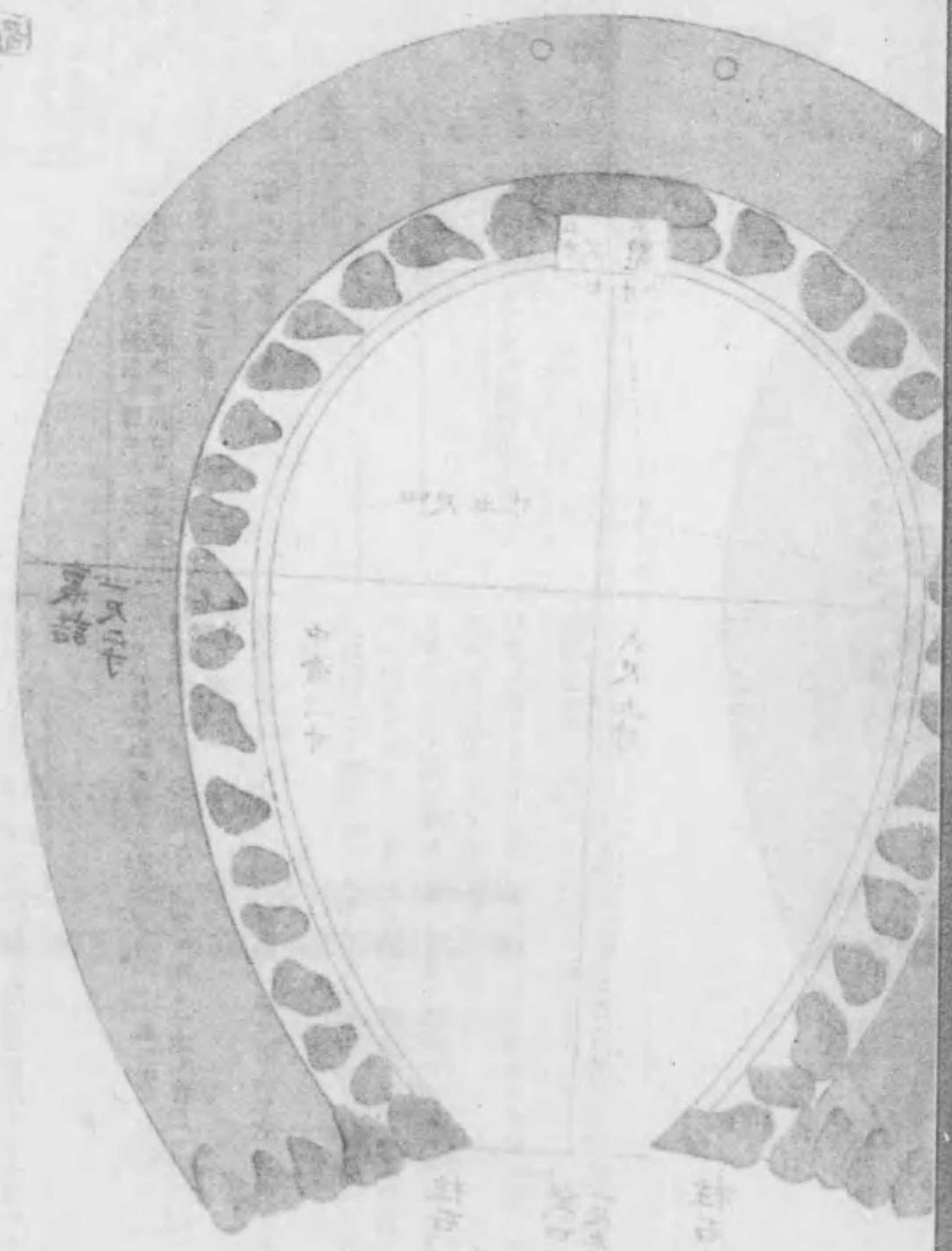
窯外消化法

改良
白炭
日落窯解剖圖

縮尺二十分一

第一圖
窯腰平面

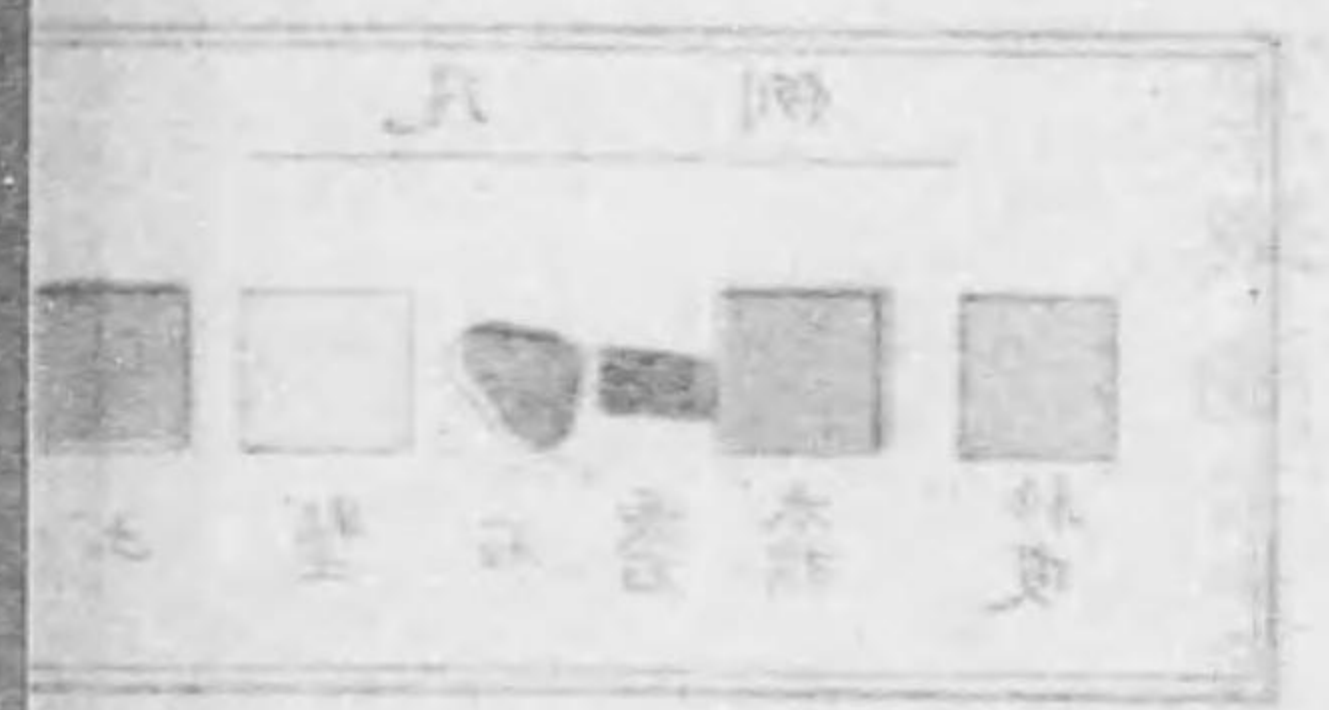




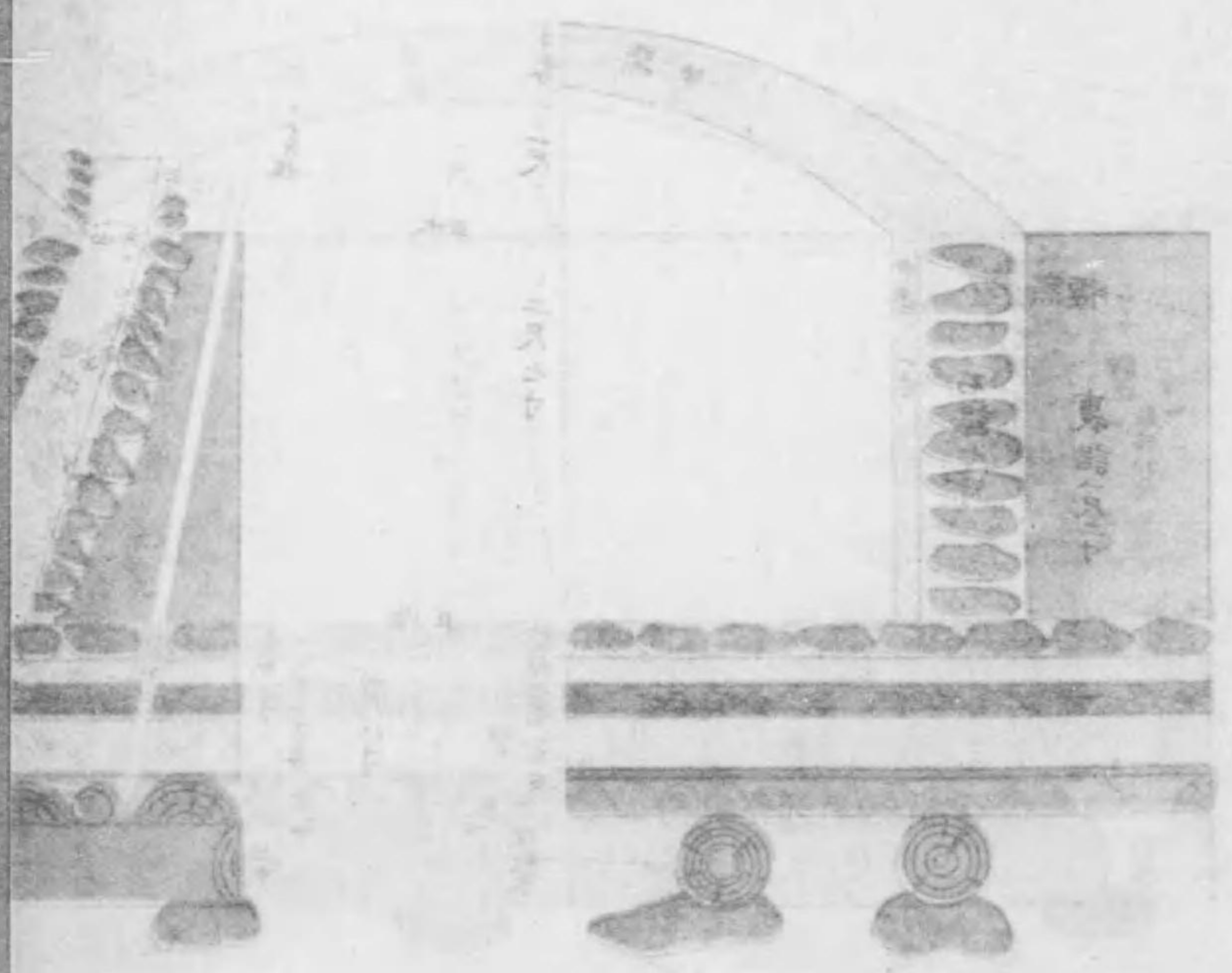
茶室平回
第一圖

此圖
日本茶室雜記
卷之三

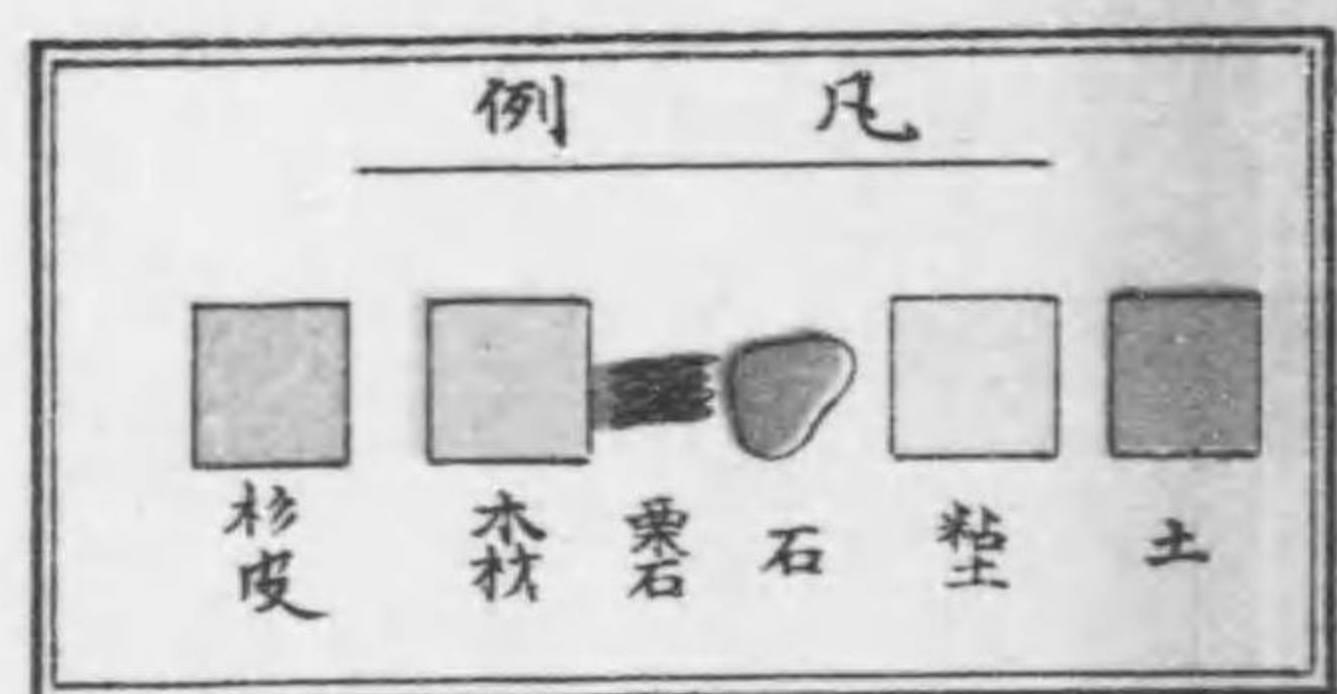
第百二十一



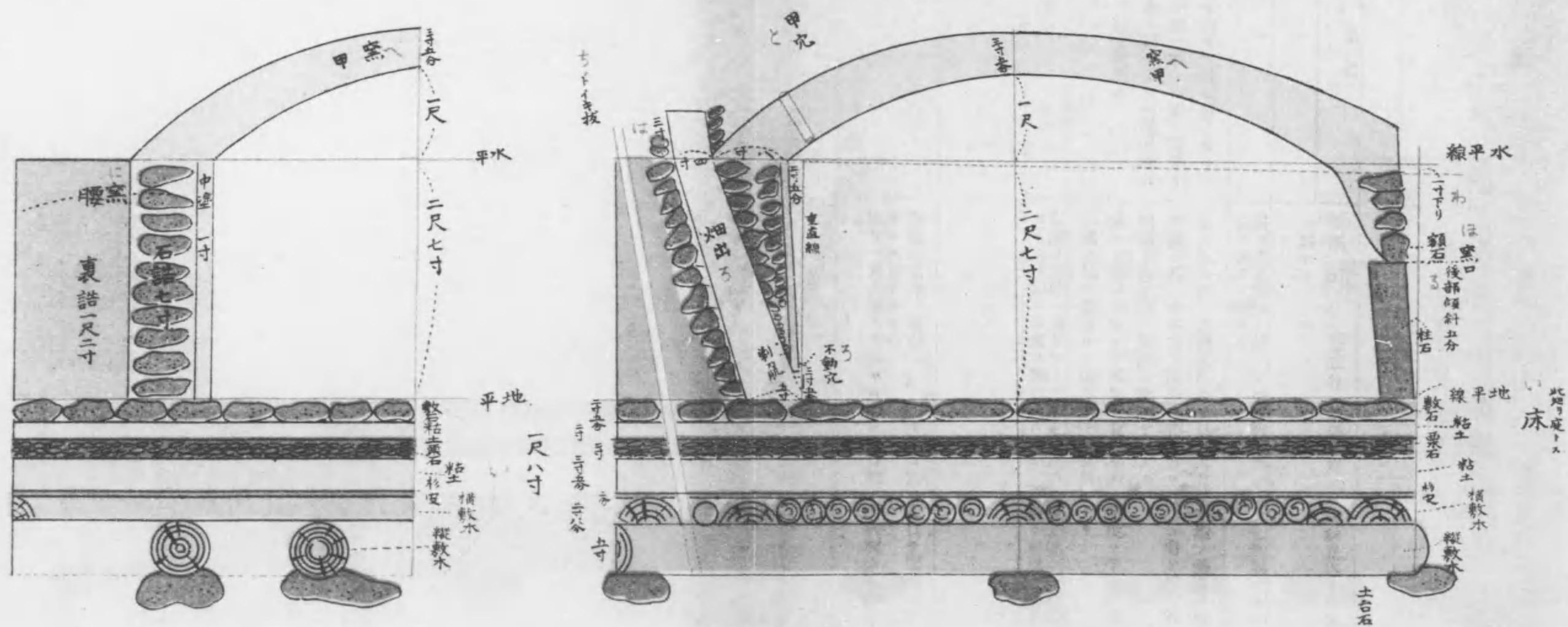
茶室第一圖
第二圖



第二圖
窯縱斷(中央部)



第三圖
窯橫斷(中央部)



セリ
 其二 木材利用
 同量ノ炭材ヲ費消シ比較的少量ノ製品ヲ得且價格ノ高貴ナルヲ以テ自然炭材ノ消費ヲ經濟的ナラシムルヲ得
 其三 粗製造ノ弊害ヲ矯正ス
 製造ノ原料タル木材ノ利用其宜シキヲ得ザレバ實收少キヲ以テ知ラス識ラス改良ノ方法ニ則トリ自然的粗製造ノ弊害ヲ矯正スルヲ得
 其四 製造者ト商人トノ關係
 本組合ハ商人ト製造業者ノ團結ナルヲ以テ相互不當ノ利益ヲ貪ル能ハズ且時價ニ據リ標準ノ一定ナルヲ以テ平等ニ利益ヲ收得スルノミナラズ外部ノ信用追日増進シテ販路益擴張セリ

三河國南設樂郡炭業組合規約

三河國南設樂郡炭業組合規約

第一章 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第一條 本組合ハ炭製造及仲買卸小賣人ヲ以テ組織ス

第二條 本組合ハ三河國南設樂郡炭業組合ト稱ス

第二章 組合地區及事務所位置

第三條 本組合ノ地區ハ南設樂郡一圓トシ便宜ノ爲メ左ノ十部ニ區畫スルモノトス

新城部(新城町一圓)千郷部(千郷村一圓)東郷部(東郷村一圓)長篠部(長篠村一圓)吹老勢部(鳳來寺村ノ内) 掃瀨部(鳳來寺村ノ内) 海老部(海老町一圓)菅沼部(大字善夫菅沼守義和田)巴部(作手村ノ内)大字玖老勢深川門谷布理只持) 作手村(作手村ノ内)大字保良) 清岳高里鴨ヶ谷岩波田原黒瀬) 田代部) 杉平大和田代荒原高松)

第四條 本組合ハ事務所ヲ新城町ニ設置ス

第三章 目的及方法

第五條 本組合ハ炭業上ニ於ケル弊害ヲ矯正シ之レガ改良ヲ圖リ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第六條 本組合ノ執行スル事業方法概テ左ノ如シ

一 炭材ノ蕃殖法及伐採法等ノ改良進歩ヲ圖ルコト

二 製品ノ標準ヲ定メ標準以外ノ製産ヲ禁スルコト

三 荷作ノ上ハ製造人ニ於テ本組合事務所ヨリ交付スル左式ノ荷票ニ炭ノ種類及製造者ノ住所氏名ヲ記入シ外部ニ拂付スベシ

但シ荷票ノ附着セルモノハ仲買卸小賣人ニ於テ賣買スルコトヲ得ズ

寸分

(原紙)

何炭	三河國南設樂郡何村大字何々
組合印章	
製造人氏名	

四仲買卸小賣人ハ本條第二號ニ違背シタル商品ノ取引ヲナスヘカラザルコト
五仲買卸小賣人ハ凡テ製造人ヨリ買取タル炭ニ惡品ヲ混淆シ又ハ規約ニ背キ改造變更スヘカラザルコト
六製品ノ検査ヲ行フコト

七營業上永遠ノ利害得失ヲ攻究シ信用ヲ欠クガ如キ行為ナカラシムコト

八商況ヲ調査シ販路ノ擴張ヲ圖リ新業ノ名聲ヲ振興スルコト

九事業ニ關スル講話會共進會傳習所等ヲ開設スルコト

十同業者間ニ於ケル紛議ニ關シ仲裁ヲナスコト

十一前各號ノ外代議員會又ハ評議員會ニ於テ必要ト認メタル事項

第七條

本組合ニ左ノ役員事務員及代議員ヲ置ク

一頭取 一名

二副頭取 一名

三評議員 五名

四部長 十名

五書記 一名

六検査員 若干名

七代議員 二十名

以上事務員

以上役員

以上事務員

以上役員

以上事務員

第八條

左ノ各號ノ一ニ觸ル、モノハ本組合ノ役員及代議員タルコトヲ得ス

一本組合ヲ組織スル營業ニ從事シ滿一ケ年ヲ經ザルモノ

但シ代議員會ノ議決ヲ以テ此制限ヲ特免スルコトヲ得

二未成年者及女子

三無能力者

四禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商工業及農業ヲ妨害スル罪財産ニ對スル罪風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處

セラレ滿期又ハ赦免後滿三ケ年ヲ經サルモノ

五公權剝奪者クハ停止中ノモノ

第九條

頭合ハ本組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ統理ス

第十條

副頭取ハ頭取ヲ補佐シ頭取事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第十一條

評議員ハ頭取ノ諮問ニ應ジ業務執行ノ狀況ヲ監査シ頭取副頭取事故アル場合ハ年長者ヨリ順次其事務ヲ代理ス

第十二條

部長ハ頭取ノ命ニ依リ部内一切ノ事務ヲ統理ス

第十三條

事務員ハ頭取ノ指揮ヲ受ケ左ノ區別ニ從ヒ各其事務ヲ擔任ス

第十四條

一書記ハ庶務會計ニ從事ス

第十五條

二検査員ノ製品ノ検査ニ從事ス

第十六條

役員代議員ノ任期ハ滿三ケ年トス

第十七條

但シ滿期再選セラレ、コトヲ得

第十八條

役員代議員ノ任期滿了其他ノ事由ニ依リ退職シ其職務ヲ行フモノアラサルトキハ後任者ノ就職ニ至ル迄前任者ニ於テ仍ホ其職務ヲ行フ

第十九條

但シ第八條ニ該當シ資格消滅ニ歸シタル場合ハ此限ニアラス

第二十條

頭取副頭取評議員ハ代議員會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ部長ハ第三條ニ定ムル各部ニ於テ部内組合員ヨリ之ヲ選舉ス

第二十一條

但シ役員ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ズ

第二十二條

事務員ハ有給トシ頭取之ヲ任免ス

第二十三條

代議員ハ部長ヲ以テ之ニ充テ尙第三條ニ定ムル各部ヨリ一名ツ、選出ス

第二十四條

役員代議員ノ選舉ハ無記名投票ヲ用ヒ有効投票ノ最多數ヲ得タルモノヲ當選トス若シ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會 議

第二十二條 會議ヲ別チテ代議員會議評議員會ノ二種トス

第二十三條 代議員會ハ代議員ヲ以テ組織シ分ツテ定時臨時ノ二種トス

第二十四條 定時會ハ毎年二月及四月之ヲ開キ臨時會ハ頭取又ハ評議員會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ代議員三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事件ヲ明示シ請求アリタルトキ之ヲ召集ス

第二十五條 代議員會ニ於テ議決スベキ事項左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムルコト
- 二 經費決算書ニ業務成績報告ニ關スルコト
- 三 組合費賦課徴收法ニ關スルコト
- 四 規約變更ニ關スルコト
- 五 官廳ノ諮問ニ對スル答申並ニ建議ニ關スルコト
- 六 其他炭業上必要ナル事件

第二十六條

評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ頭取ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ評議員二名以上ノ請求アルトキハ之ヲ開ク

第二十七條

- 一 代議員ノ權限ニ關スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタル事項
- 二 代議員會ノ議事ニ付スベキ議案ノ審査ニ關スルコト
- 三 同業者間ニ生ジタル紛議仲裁ニ關スルコト
- 四 違約處分ニ關スルコト
- 五 頭取ノ諮問ニ關スルコト

六 其他頭取ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十八條

會議ノ議長ハ凡テ頭取トス頭取事故アルトキハ副頭取ヲ以テ頭取副頭取共ニ事故アルトキハ代議員中ヨリ假議長ヲ選舉ス

第二十九條

會議ハ頭取之ヲ召集ス
召集ハ開會ノ日ヨリ少クモ五日前ニ議事ヲ明示シ之ヲ通知スベシ
但シ急遽ヲ要スル場合ハ此限リニアラズ

第三十條 役員事務員ハ議事ニ參與スルコトヲ得

第三十一條 會議ハ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外議員ノ半数以上出席スルニアラザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

第三十二條 會議ノ議事ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル

第三十三條 議長ハ書記ヲシテ會議ノ頭末ヲ議事録ニ記載セシメ出席員二名以上ト共ニ之ヲ署名スルモノトス

第三十四條 議事録署名者ハ會議ノ初ニ於テ之ヲ定ム

第三十五條 議長及議員ハ自己若ハ父子兄弟ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ會議ノ同意ヲ得ルニアラザレバ議事ニ參與スルコトヲ得ズ

但シ本條ノ場合ニ於テハ同會ノ定數ヲ缺クモ議決スルコトヲ得

第六章 加入及脱退

第三十六條 本組合ノ地區内ニ於テ本組合ノ組織ニ關スル營業ヲナスモノハ本組合ニ加入セシムルモノトス

第三十七條 本組合ニ加入シタルモノハ其業名住所氏名ヲ記載シ部長ヲ經テ頭取ニ届出テ左ノ証券及標札ヲ受ケ証券ハ携帶シ標札ハ店

頭見易キ場所ヲ選ミテ之ヲ掲揚スベシ

証券表

第何號	炭業組合員之証	裏	年月日下付	組合印章
何々業	氏名			
	何郡何町大字何々			

標札

第何號	炭業組合員印	何郡何町大字何字	氏名
	製造(卸小賣)業		

前項証券及標札ハ之ヲ賣買貸借スルコトヲ得ズ

第三十七條 本組合員ハ左ノ場合ニ於テ其都度事由ヲ具シ之ヲ願取ニ届出スベシ

一 廢業ヲナシタルトキ

二 相續又ハ改氏名ヲナシタルトキ

三 住所ヲ移轉シタルトキ

四 本組合ノ証券及標札ヲ紛失シ又ハ盜難ニ罹リタルトキ相續改氏名又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ証券及標札ノ書替ヲ請求スベシ

第三十八條 本組合ハ死亡廢業又ハ組合地區外ニ轉シタル場合ノ外組合ヲ脱退スルコトヲ得ス

第七章 費用ノ徵集及賦課法

第三十九條 本組合經費ハ証券及標札手数料其他ノ收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ之ヲ組合員ニ賦課ス

組合員割ハ徵收當時ノ現在組合員ニ對シテ議決シタル課率ヲ賦課ス徵集期後加入シタルモノニ對スル額モ亦課率金額トス

第四十條 組合員割ハ毎年四月之ヲ徵集ス

但シ中途加入ノモノハ其都度之ヲ徵集ス

第四十一條 証券及標札手数料ヲ左ノ通り之ヲ定ム

下付手数料各金拾錢

書替手数料各金五錢

第四十二條 証券及標札手数料ハ請求ノ都度之ヲ徵集ス

第四十三條 本組合指定期間内ニ經費ヲ納付セザルモノアルトキハ更ニ期間ヲ定メテ督促シ其所要費用ハ凡テ之ヲ負擔セシム

第四十四條 本組合ヲ脱退スルモノニ對シテハ組合經費ノ前納シタルモノアルモ之ヲ還付セザルモノトス

第八章 會計

第四十五條 本組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ據ル

第四十六條 本組合ノ金員ハ評議員會ノ指定シタル銀行ヘ預ケ置クモノトス

第九章 製品標準及検査

第四十七條 組合員製造品ノ種類ヲ堅炭黒炭鐵冶炭菊炭ノ四類トス

第一類 堅炭

堅炭分チテ左ノ十種トス

第一種 壹俵上一本撰炭

炭木ハアベマキ檜樫ノ三種ニシテ炭長サ五寸周リ二寸以上トシ俵丈ケ曲尺一尺二寸風袋六百目以下皆掛四貫二百目若クハ俵丈曲尺一尺七寸又ハ二尺五寸風袋六百目以下皆掛五貫二百目トス俵裝ハ壹二二本ツ、交互固ク密接シ四通編トナシ両口ハ葉ノナキ枝ヲ以テ之ヲ造ル

但シ両口トモ口輪ニ限リ適宜木葉ヲ用フルヲ得

第二種 壹俵一本撰炭

炭木ハアベマキ檜樫ノ四種ニシ炭長サ俵丈ケ實目俵裝等第一種ニ同シ

第三種 壹俵上白炭

炭木ハ松杉樅栗其他柔カナル木種ヲ除キ炭ノ長サ一寸以上トシ俵丈實目俵裝等第一種ニ同シ

第四種 壹俵中白炭

炭木ハ松杉樅等ノ木種ヲ除キ炭長サ八分以上トシ俵丈實目俵裝等第一種ニ同シ

第五種 壹俵撰下炭

炭木ハ第一第二第三第四ノ四種ノ餘屑ヲ用ヒ炭長八分以下トシ俵丈實目等第一種ニ同ク俵ノ口ハ葉ナキ枝ヲ用ヒ炭ハ松杉檜ヲ除クノ外適宜ノ木炭ヲ用ヒテ造ルモノトス

第六種 叭別上一本撰炭

炭木ハアベマキ檜樫ノ三種ニシテ炭長五寸以上トシ叭ハ裏蓋ニツ折ニシ兩端ヲ綴シ口ニハ葉ノナキ木枝ヲ用ヒ風袋五百目以下トシ皆掛八貫二百目トス

第七種 叭一本撰炭

炭木ハアベマキ檜樫ノ四種ニシテ炭長サ實目其他叭拵ヘ等第六種ニ同シ

第八種 叭上白炭

炭木ハ松杉樅栗其他柔カナル木種ヲ除キ炭長サ一寸以上トシ實目其他叭拵等第六種ニ同シ

第九種 叭中白炭

炭木ハ松杉樅等ノ木種ヲ除キ炭長サ八分以上トシ實目其他叭拵等第六種ニ同シ

第十種 叭撰下炭

炭木第六第七第八第九ノ四種ノ餘屑ヲ用ヒ炭長サ八分以下トシ實目其他拵ヘ等第六種ニ同シ
 第二類 黒炭
 黒炭ヲ分チテ左ノ三種トス
 第一種 上黒炭
 炭木ハ杉松樅等其他柔カナル木種ヲ除キ炭長サ三寸以上八寸以下トシ風袋五百目以下皆掛八實目二百目若クハ實目丈曲尺二尺五寸風袋六百目以下皆掛五實二百目トス
 第二種 中黒炭
 炭木實目共ニ第一種ト同シノ炭長サ一寸以上トス
 第三種 並黒炭
 炭木ハ樅樽等ヲ用ヒ其他第二種ト概テ同シク稍下品ナルモノトス
 第三類 鍛冶炭
 鍛冶炭ヲ分チテ左ノ三種トス
 第一種 松炭
 第二種 栗炭
 第三種 雜炭
 右三種トモ裏蓋徒入トシ風袋四百目以下トシ一俵五斗又ハ八斗入トス
 第四類 菊炭
 菊炭ヲ分チテ左ノ五種トス
 第一種 樺炭
 炭木ハ樺ノ一種ニシテ炭長サ一尺五寸トシ直徑三寸以下六分以上俵丈曲尺一尺六寸風袋四百目以下トシ皆掛三實目又ハ四實目トス俵口ハ葉ノナキ枝ヲ以テ之ヲ造リ底ハ松杉檜ヲ除ク外適宜ノ木葉ヲ用フルモ妨ナシ
 第二種 檜炭
 炭木ハ檜ノ一種ニシテ炭長サ直徑俵丈實目其他俵拵等第一種ニ同シ
 第三種 枹炭
 炭木ハ枹アヘマキノ二種ニシテ炭長直徑俵丈實目其他俵拵ヘ等第一種ニ同シ

第四種 雜炭

雜木炭ニシテ炭長直徑俵丈實目其他俵拵等第一種ニ同シ

第五種 撰下炭

第一第二第三第四ノ四種ノ餘屑ニシテ俵丈實目俵拵ヘ等第一種ニ同シク又ハ八寸トシ風袋五百目以下トシ皆掛八實二百目トス

第四十八條 組合員ハ役員及書記検査員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十九條 製品検査規定ハ評議員會ノ議決ヲ經テ取之ヲ定ム

第十章 仲裁判斷

第五十條 本組合ハ當事者ノ請求ニ依リ組合間ニ生シタル營業上ニ關スル紛議ノ仲裁判斷ヲナス

前項ノ請求ヲナシタル各當事者ハ係争ノ事實及理由ヲ明記シ證據書類ヲ添ヘ本組合ノ仲裁判斷ニ服從シ後日異議ナキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出スベシ

第五十一條 評議員會ハ當事者ヲ招喚シ其辨明ヲ聞クコトヲ得

第五十二條 仲裁事件ニ關係ヲ有シ又ハ親族等ノ關係アル評議員ハ仲裁判斷ノ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ズ

第五十三條 仲裁判斷ハ理由ヲ附シタル判斷書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第十一章 違約處分

第五十四條 本組規約第六條中第三號第四號第五號第六號及第三十四條第三十六條後段第三十七條第四十七條第四十八條ニ違背シタルモノハ貳拾錢以上貳拾圓以下ノ過怠金ニ處ス

第五十五條 過怠金ハ處分通知ノ日ヨリ十日以内ニ組合事務所ヘ差出スベシ

前項期間内ニ差出サ、ルトキハ更ニ期間ヲ定メテ催告シ其所要ノ費用ハ凡テ之ヲ負擔セシムルモノトス

第十二章 規約變更

第五十六條 本規約ヲ變更セントスルトキハ代議員會ヲ開キ代議員三分ノ以上ノ同意ヲ得テ議定シ主務官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

第十三章 解散

第五十七條 本組合ヲ解散セントスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意アルニアラサレバ之ヲ議決ヲナスコトヲ得ス

第五十八條 本組合ヲ解散セントスルトキハ組合員中ヨリ四名ノ精算人ヲ撰定スベシ

第五十九條 本組合解散ノ場合ニ於テ精算ノ結果財産有シ又ハ負債アリタルトキハ解散ノ際現ニ組合員タルモノ、總會ヲ開キ之レガ

分配又ハ償還ノ方法ヲ定ム

附則

第六十條 本規約ハ組合區域外ノ製産品ト認ムルモノニ對シテハ之ヲ適用セズ
第六十一條 本規約ハ認可後十日ヲ經テ實施スルモノトス

南設樂郡炭業組合役員

頭取	石原徳太郎
副頭取	筒井克三郎
評議員	東郷村大字八束樋 山内辰治郎
同	鳳來寺村大字玖老勢 今泉米作
同	海老町大字海老 加藤幸太郎
同	作手村大字岩波 西村牛三郎
同	作手村大字荒原 榎田金四郎
同	新城町 榎田金四郎
同	新城部長 坂部萬吉
同	千郷村大字稻木 淺井傳治郎
同	千郷部長 東郷村大字富澤 金澤喜助
同	東郷部長

長篠村大字富保	長篠部長	丸山勘七
鳳來寺村大字玖老勢	玖老勢部長	今泉房吉
鳳來寺村鹽瀬	鹽瀬部長	河合久松
海老町大字海老	海老部長	加藤伊平
作手村大字菅沼	菅沼部長	荻野文彌
作手村大字田原	田原部長	權田熊治郎
作手村大字田代	田代部長	大田定造

第一條 規約第七條ニ依リ本組合内ニ左ノ検査員ヲ置キ組合員ノ製産品ニ對シ臨時検査ヲ執行ス
但シ検査上ノ都合ニ依リ其一部ハ製品ニ付検査ヲ行フアルベシ組合内ニ名新城及千郷部内ニ名海老部内ニ名其他各部内一名ヲ、

南設樂郡炭業組合製品検査規定

第二條 製品検査事項ハ規約第六條第三項ノ荷票及規約第四十七條ノ製品標準ニ依ルモノトス

第三條 検査シタル製品ハ其荷票ニ検査員認印スルモノトス

第四條 検査ノ上製品規約ニ違背スルモノアルトキハ之ガ手直シ又ハ改造ヲ命ズルモノトス
但シ其行為詐欺ノ目的ヲ以テ故意ト認ムルモノハ規約第五十四條ニ依リ處分スルモノトス

南設樂郡炭業組合検査員執務規定

第一條 検査員ハ製品検査規定ニ依リ担當區域内ノ製品検査ニ従事スルモノトス

第二條 検査ヲ行フヘキ事項ノ概要左ノ如シ

一 荷票挿付の有無
 二 製品ハ標準ニ基クヤ否
 三 製品ト荷票ト記入ト符合スルヤ否ヤ
 第四條 検査員ハ前條検査ノ外左ノ事項ヲ調査報告スベシ
 一 同業者ニシテ組合ヘ加入セザルモノ
 二 組合規約ニ違背ノ行爲ト認ムルモノ
 三 地方ニ於ケル炭取引直段
 第四條 検査員ハ日誌ヲ備ヘ検査ニ従事シタル月日出張先其他検査及調査ノ要項ヲ記録シ置キ毎月一回以上其狀況ヲ本組合事務所
 へ報告スルモノトス

南設樂郡炭業組合明治四十三年度經費收入豫算書

科 目	本年度豫算高	前年度豫算高	比 較		附 記
			増	減	
第一款 組合費	115,000	100,000	15,000	0	
一、組合員負担金	115,000	100,000	15,000	0	組合員一人金貳拾五錢五百八分
第二款 雑收入	18,000	130,000	0	112,000	
一、證票及標札手数料	6,000	10,000	0	4,000	證票及標札下付手数料一枚拾錢五十六枚全書換手数料一枚五錢八枚分
二、荷票手数料	12,000	120,000	0	108,000	荷票下付手数料一枚五厘三萬五千枚
第三款 補助金	100,000	100,000	0	0	
一、郡費補助	100,000	100,000	0	0	
第四款 繰越金	10,000	10,000	0	0	
合計	243,000	240,000	3,000	0	

南設樂郡炭業組合明治四十三年度經費支出豫算書

科 目	本年度豫算高	前年度豫算高	比 較		附 記
			増	減	
第一款 事務所費	15,000	12,000	3,000	0	
一、事務員俸給	6,000	6,000	0	0	書記給料
二、役員俸酬	36,000	36,000	0	0	頭取五圓副頭取參圓評議員貳圓、五入部長貳圓、十人分
三、旅 費	10,000	10,000	0	0	事務員拾圓役員參拾圓
四、雇 人 料	10,000	10,000	0	0	一日五拾錢二十日分
五、備品及消耗品費	50,000	60,000	0	10,000	備品費五圓消耗品費四拾五圓
六、通信運搬費	10,000	10,000	0	0	通信費五圓運搬費五圓
七、雜 費	5,000	5,000	0	0	諸 雜 費
第二款 會議費	17,000	13,000	4,000	0	
一、代議員會費	18,000	18,000	0	0	代議員手當一日參拾錢、六十日分
二、評議員會費	6,000	6,000	0	0	評議員手當一日參拾錢、二十日分
三、雜 費	3,000	3,000	0	0	諸 雜 費
合計	243,000	240,000	3,000	0	

第三款事業費	110,000	115,000	0	5,000
一、製炭傳習所費	50,000	50,000	0	10,000
二、技術員費	115,000	110,000	0	5,000
三、品評會費	5,000	5,000	0	0
四、共進會出品費	0	110,000	0	110,000
第四款豫備費	5,000	5,000	0	0
一、豫備費	5,000	5,000	0	0
合計	120,000	125,000	0	15,000

縣下種苗業ニ關スル組合規約

種苗業組合ノ規約ヲ左ニ掲グ

丹羽郡種苗組合規約

- 第一條 本組合ハ丹羽郡ノ種苗賣買業者並生産者ニシテ本規約ノ主旨ニ賛同シタルモノヲ以テ組織ス
- 第二條 本組合ハ丹羽郡種苗組合ト稱シ事務所ヲ丹羽郡役所内ニ置ク
- 第三條 本組合ハ組合員信義ヲ守リ互ニ氣脈ヲ通シ營業上ノ弊害ヲ矯正シ地方特産ノ種苗ノ改良發達ヲ圖リ信用ヲ増進シ聲價ヲ博クシ以テ販路ノ擴張ヲ計ルル目的トス
- 第四條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク
組長 一名 副組長 二名 評議員 若干名
- 第五條 組長ハ組合諸般ノ事務ヲ總理ス副組長ハ組長事故アルトキ之ヲ代理スルノ外組長ヲ補ケ事務ノ一部ヲ分掌ス評議員ハ總會ヲ開クノ暇ナキトキ總會ニ代テ議決スルノ外組員ニ對シ發スル書面ノ取次ヲナシ且常ニ組員ノ舉動ヲ探査シ不都合ノ廉ア

ルトキハ直ニ組長ニ申告スルモノトス

第六條 役員ハ總會ニ於テ選舉ス

第七條 役員ハ名譽職トシ其任期ハ壹ケ年トス

第八條 本組合ハ第三條ノ目的ヲ達セシメ左ノ事項ヲ恪守スルモノトス

一、營業ニハ誠實ヲ旨トシ善買ノ物品ヲ取扱フコト

二、營業ニハ前途永遠ノ利害得失ヲ考ヘ漫リニ競賣ヲナシ又ハ販賣價格ニ變動ヲ生スルコトアルモ暫テ不都合ノ行爲ヲ爲サ

マルコト

三、栽培者ハカメテ善買ナル種苗ノ生産ニ注意シ地方ノ利益ヲ計ルコト

第九條 種苗賣買仲立手数料ハ毎年評議員會ニ於テ之ヲ定ム

第十條 左ニ該當スル種苗ハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス

一、長サ廻リ等當事者間ノ賣買契約ニ相違スルモノ

二、採掘不親切ニシテ根ノ切レタルモノ及日光ニ晒シタルモノ

三、病蟲害ニ罹リタルモノ

四、發育不良ニシテ生育ノ見込ナキモノ又ハ枯死ノ虞レアルモノ

五、發芽力ナキ種子

第十一條 種苗荷造料ハ左ノ標準ニ依リ買受人ヨリ賣買者申シ受クルモノトス

第十二條 種苗賣買代金手数料荷造料等ハ總會ヲ現金トス但シ止ムテ得サル事情ニ依リ特ニ證書ヲ取換シ延期ヲ承諾セシ場合ハ此ノ限リニアラス

第十三條 苗木ノ賣買證書ハ本組合ニ於テ定ムル様式ニ依ルモノトス

第十四條 苗木代金ノ支拂ヲナサハルモノアルトキハ其旨速ニ組長ニ通知スベシ

第十五條 組長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ記載スヘキ事項ヲ組合員ニ通知シ組合員ハ直ニ自己ノ店頭ニ掲出スルモノトス

第十六條 本組合ニ加入セントスルモノハ組長ニ其ノ旨申出テ本規約ニ署名捺印シ入會金五拾錢ヲ納ムルモノトス

第十七條 前條ノ入會金ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ正副組長保管ノ責ニ任ス

第十八條 本組合ヲ脱會セントスルトキハ組長ニ申出承認ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ入會金ハ還付セス

第十九條 總會ハ通常總會臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年一月一回之ヲ開キ臨時總會ハ組長ニ於テ必要ト認ムルトキ之ヲ開ク
第二十條 總會ノ招集ハ開會ニ日前ニ其ノ日時ヲ組合員ニ通知ス
第二十一條 會議ニ於ケル議長ハ組長ノ任トス組長事故アルトキハ副組長之レニ代リ若シ正副組長欠席スルトキハ評議員中ヨリ臨時ニ選
舉ス

第二十二條 本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トス
第二十三條 本組合ノ會計年度ハ曆年ニ依ル
第二十四條 經費ノ收支決算ハ毎年通常總會ニ報告スルモノトス
第二十五條 組合員ニシテ本規約ニ違背スルモノハ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ除名ス
第二十六條 除名シタルトキハ之ヲ新聞紙ニ廣告シ且入會金ヲ沒收ス
第二十七條 組合員ハ如何ナル事情アルモ除名シタルモノト賣買取引ヲナスコトヲ得ス
第二十八條 本規約中加除修正セントスルトキハ總會ニ請リ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス
右各條項ヲ必ス遵守スルコトヲ約シ之ヲ證明スル爲メ茲ニ署名捺印ス

農商務省林務主任會議

明治四十四年四月開催ノ主任會議ニ於ケル次官訓示、諮問事項、

注意事項ヲ掲グレバ左ノ如シ
府縣林務主任會議ニ於ケル次官訓示

近年地方一般林政ノ稍作興セルハ各位ノ力ニ負フ所大ナリ將來益々奮勵ヲ要ス地方林政中今日最モ重要ナルモノハ公有林野ノ開發ト治水ニ關係アル治山ノ事業ナリ是等ニ就テハ屢訓令通牒ヲ以テ地方長官ニ其ノ要領ヲ指示サレタリ各位各地方廳ニ於テ直接ニ此ノ重要ナル林野行政ノ任ニ當ルモノナレバ其ノ責任極メテ大ナリトス宜シク慎重ナル調査ヲ遂ゲ精密ノ注意ヲ以テ事ヲ行ヒ自治行政ノ河川ノ經營各種産業ノ發達ト相呼應シ國民利福ヲ増進スルニ努メザルベカラズ
地方林務主任會議諮問事項

一 部落有林野ノ統一公有林野ノ管理區分及ビ入會整理ニ付キ明治四十三年林發第四九二七號內務農商務
兩次官通牒實行ノ狀況

二 保安林ノ未調査部分ニ對スル調査計劃
三 林野火入ヲ特定ノ場合(例へハ造林地被害虫驅除ノ如キ)ニ關シテノミ許可スル事トセムトス其ノ許可
スベキモノ、種類及ビ之レヲ決定スルニ必要ナル準備ニ關スル意見
四 急斜地ノ既墾地ヲ保安林ニ編入シ其ノ耕作ヲ禁止セムトス其ノ補償ノ程度及ビ方法如何
五 林地住民ノ副業ニ適當ナル事項及ビ之ガ獎勵方法ニ關スル意見
六 畜産業ト林業ノ管理施設トノ關係ニ付イテノ意見

愛知縣砂防森林課ノ設置

本縣廳内ニテ從來普通森林事務ハ農務課内ニテ取扱ヒ、砂防工事務ハ砂防課ニテ處理シ來レルガ四十四
年九月砂防森林課ヲ獨立シ治水及林業一般ニ關スル事務ヲ掌理スルコト、ナレリ
其ノ事務分掌左ノ如シ

注意事項

一、治水事業ニ關スル件
明治四十四年度ヨリ同六十一年ニ至ル十八ヶ年計劃ヲ以テ着手シタル森林行政上ノ治水事業ニ付キ本年
度以降ニ於テ各府縣ニ配付シ又交付スル標柱建設費荒廢地復舊費補助金公有林野造林獎勵金森林組合設
立獎勵金及ビ調査及ビ監督費ハ固治水事業費ナルニ依リ各關係規定通牒等ニ依リ治水ニ關係アル事項ニ
對シ支出セラルヘキモノナルモ治水關係ハ必スシモ特定ノ大川ニ關スル場合ノミニ止マラス小河川小
溪流ト雖モ其治水ヲ必要トスルモノアルベク從ツテ此種ノ關係アル地域ニ於ケル森林行政上ノ施設ハ殆
ド皆治水ニ關セサルモノナシト云フヲ得ヘシ故ニ各關係規定通牒等ニ於テ特ニ示サレタル場合ノ外ハ總

テ此ノ趣旨ニ依リ取扱ヒ森林行政ニ關スル施設上遺憾ナキ様注意セラルヘシ

二、保安林及ビ開墾禁止制限地ノ取締ニ關スル件
保安林及ヒ開墾禁止制限地ノ取締ニシテ周到ナラサレハ處分ノ目的ヲ達スル能ハサルノミナラス却犯罪ノ素因ヲナシ地方民心ヲ紊ルノ虞アリ故ニ之レガ取締ニハ一層ノ注意ヲ加ヘ監視ヲ嚴ニスルノミナラス保安林立木竹ノ伐採ニ使用スル極印ノ制定各警察署又ハ市町村役場等ニ臺帳ノ備付其他取締上有効ナル方法ヲ講セラルヘシ

本年度ヨリ各府縣ニ配付スル標柱建設費モ本項ノ目的ヲ達スルニ必要ナル手段トシテ企劃セラレタルモノナレバ標柱建設個所ノ調査ヲ精密ニシ且建設後ノ保護監理ニ付イテハ特ニ注意ヲ用ヒ標柱建設ノ目的ヲ達スル様留意セラルヘシ

三、荒廢地復舊事業補助ニ關スル件

荒廢地復舊事業補助ニ付テハ本年四月農商務省令第十六號荒廢地復舊費補助規則及之ニ關スル通牒ニ明示セル如ク砂防指定地及公有林野造林獎勵規則ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ事業以外ノ民有保安林ニ於ケル荒廢地復舊事業ノミニ適用スヘキモノナルニ依リ治水上荒廢復舊ノ必要ナル土地ハ保安林ニ編入ノ土地盤保護植樹又ハ工事ヲ施行セシメ又補助スヘキ事業ノ撰定ニ付ハ治水上重要ノ程度ニ鑑ミ且事業ノ施行ニ付テハ監査ヲ嚴ニシ其ノ効果ヲ著大ナラシメン事ヲ望ム

四、森林組合設立獎勵ノ件

森林組合ハ林業開發上有益ナル団体ナルニ拘ラズ其ノ設立數今尙極メテ少キハ遺憾ニ堪ヘズ殊ニ森林組合中森林法第六十二條第一號ニ該當スル事業ヲ施行スルモノ設立ハ最モ有益ナルニ依リ本年四月農商務省令第十五號ヲ以テ此ノ種ノモノニ對シ獎勵金ヲ交付スルコト、ナレリ之レ此ノ種ノ組合ガ公益上極メテ重要ナルニ拘ハラズ經費ノ關係ヨリシテ其ノ設立ノ困難ナルヲ慮リ特ニ之レニ對シテ獎勵金ヲ與フルモノナルニ依リ熱心指導誘掖ヲ加ヘ之ガ設立ヲ獎メ以テ所期ノ目的ヲ達セラルヘシ又本年三月法律第二

十六號ヲ以テ日本勸業銀行法第十五條及法律第二十七號ヲ以テ農工銀行法第七條第三中ノ森林組合ヲ加ヘラレ森林組合ニ對シ日本勸業銀行及農工銀行ヨリ無担保低利資金ノ融通ヲ得ル途拓カレ不日低利資金取扱ニ關スル手續定メラル、豫定ナレハ改正法律施行ノ上ハ森林組合事業施行上多大ノ利便ヲ受クヘキ事ト信ス然レモ平素組合ニ對スル指導監督宜シキヲ得サル爲ニ組合ノ信用一般ニ確認セラレサルニ於テハ有益ナル法律ノ改正モ何等實益ナキニ終ルヘシ殊ニ組合數ノ少キ現時ニ於テハ最モ此ノ點ニ留意セサルベカラス尙ホ現ニ森林組合ノ組織ニ依ラズシテ同種ノ目的ヲ以テ共同ノ事業ヲ施行スル団体各地方ニ少カラサルカ如シ是等ノ団体モ特別ノ事由ナキ限りハ事業施行上諸種ノ便宜ヲ得セシムル爲メ可成之レヲ森林組合ノ組織ニ改メシメ以テ統一の監督指導上便宜ヲモ得ルニ努メラルヘシ

五、公有林野造林補助ノ件

公有林野ノ荒廢回復ハ林政上最大急務ナルニ依リ客年度ヨリ之レカ補助事業ヲ開始シタルモ同年度ハ事業革新ニ屬シ爲メ各府縣ヲ通ジテ事業施行上多少ノ困難アル結果國庫補助金ノ約三分ノ一弱ハ四十二年度ニ繰越ルヘキ模様ナリ然レモ各位ノ熱心ナル指導獎勵ニ依リ幸ニモ公有林野造林ニ對スル一般ノ注意ヲ喚起シ年ヲ遂テ其ノ發展ヲ見トスルハ洵ニ喜ニ堪ヘサルナリ而シテ斯ノ如キ機運ト治水ニ關スル根本的ノ施設ノ必要ヨリシテ本事業ハ益々之レヲ擴張セザル可ラザルニ至リ本年度以降ハ更ニ豫算ヲ増額シ從テ各府縣配付豫定額ヲ増加セリ唯各府縣ニ對スル國庫補助額ノ均衡ヲ保シガ爲メ補助金額ニ新ナル些少ノ制限ヲ設ケタルノミ今後一層各位ノ奮勵努力ニヨリ本増額ノ效果ヲ完フセンコトヲ望ム尙補助事業ノ效果如何ハ當ニ事前ノ調査ノミニ俟ツヘカラス造業事業ノ施行及事業實施後ノ狀況如何ヲ監査シ

六、森林法中主務大臣ノ職權ヲ地方長官ニ委任スルノ件

不日森林法改正セラレ同法第三章ニ規定スル主務大臣職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任シ得ルコトナリ次テ委任ニ關スル命令發セラレ保安林ノ編入解除及開墾禁止制限等ニ關スル事務ハ大部分地方長官委任セラ

ル、ニ至ル可ク從テ直接其事務ノ衝ニ當ル各位ノ職責益々重ヲ加フル次第ナルガ右委任ニ依ル處分ノ場
合ニ於テモ尙大臣ノ處分具申ノ場合ニ於ケルガ如ク必要ナル調査及手續ノ正確ヲ期セテレ調書、圖面通
知書等ハ勿論保安林臺帳其ノ他ノ關係書類ハ間然スル處ナキ様完備セラレタシ

七、土地使用ニ關スル件
現行森林法第五十條及第五十六條ノ改正條項ヲ含ム森林法中改正法律ハ不日施行セラレ土地ノ使用又ハ
收用ニ付キ當事者間ノ協議調ハサル場合ニ於テモ地方森林會ノ裁決ダニアラハ直チニ土地ヲ使用シ得ル
コト、ナリ現行法ノ下ニ於テ森林利用上必要ナル土地ノ使用ヲナスニ在苒長日子ヲ費シ土地所有者占有
者等ノ壓迫ヲ蒙ルコトアルノ缺点ハ矯正セラレ森林開發上多大ノ便宜ヲ得ルコト、信ス
然レトモ地方森林會ノ裁決ニシテ迅速正確ナラサラシカ改正法律ノ目的ヲ達スル能ハサルノミナラス却
ツテ補償等ニ付キ煩累ヲ後日ニ貽スコト無キヲ保セス宜シク此等ノ点ニ注意シ法律改正所期ノ目的ヲ達
スルニ努メラルヘシ

八、林政ト他部行政トノ聯絡ニ關スル件
林政ハ道路河川警察產業社寺教育公共團體等ニ關スル行政機關ト聯絡ヲ通ズルニ非サレバ其發展ヲ見ル
能ハス付テハ特ニ郡役所ノ如キ直接行政機關トノ聯絡ニ注意セラレハク尙民政ニ關係アル小學校教員在
郷軍人會青年會消防組家庭會小作人組合地主組合其他ノ者ヲ林政上ニ利用シ指導宜シキヲ得ハ其ノ効果
ハ獨リ林政關係ニ止マラズ民政上亦裨益スル所尠カラサルヘシ

九、森林思想並ニ國土保安ニ關スル思想喚起ニ關スル件
林業講習度漸次増加シ來リ森林思想ノ啓發ニ多大ノ効果ヲ與ヘタルハ悦ヒニ堪ヘサル所ナリ將來一層
之レニ意ヲ用ヒ林野ノ巡視力ハ他ノ用務ヲ帶ヒテ出張ノ際ハ出來得ル限り綜合セ講習ヲ試ミ一般ニ造林
思想鼓吹スルト共ニ保安林開墾禁止制限地等所在ノ住民ヲシテ國土保安ノ念慮ヲ喚起セシムル様努メラ
レ又之等ノ土地並ヒニ其他ノ土地ニ於ケル林政ニ關スル秩序ヲ維持スル爲メ青年會在郷軍人會消防組ヲ

鼓吹スル等適切ノ方法ヲ執ラルヘシ尙小學校教員又ハ師範學校生徒等ニ對シ森林思想ヲ注入シ教習中ノ
巡查ガ森林警察ノ事項ヲ講習スルガ如キハ林政上多大ノ効果アルヘキニ依リ此点ニ付テモ又相當ノ計劃
アラン事ヲ望ム殊ニ今後一大林区署ニ於テハ森林主事ノ講習ニ際シ出來得ル限り地方吏員ノ聽講ノ便宜
ヲ與フル筈ニ付努メテ之ヲ利用セラレヘシ

十、森林火災防止ニ關スル件
森林ノ火災ハ別表ノ如ク其被害面積太ダ廣大ニシテ年年有用ノ國產ヲ烏有ニ歸セシムルハ遺憾ニ堪ヘス
宜シク防火線及消防組織ノ改善ヲ行ヒ且ツ消防器具ノ完備ヲ圖ルニ努力セラレヘシ

十一、森林盜伐取締リノ件
森林取締リノ弊風尙熾マサル所有ルハ遺憾ニ堪ヘス宜シク民政ノ局ニ當ル者ト戮力シ產業組合ノ設置
薪炭材ノ共同購入等ノ方法ヲ講ジ以テ此ノ弊風ヲ矯ムルニ努メ且一面森林組合請願巡查共同山番等ノ設
置ヲ獎勵シ又林產物ニ付スル記號印章ノ取締ヲ嚴密ニシ犯情重キ者ニ對シテハ假借無ク之ヲ嚴罰シ再ビ
犯行無カラシムル様當局者ト協議シ其ノ成績ヲ舉ケラルヘシ

十二、產物採取制限ニ關スル件
產物採取制限ニ關スル森林法第十三條ノ規定ハ保安林編入ヲ要セサル土地ニシテ土地ノ利用及ヒ國土保
安ノ關係ヨリシテ產物ノ採取ニ付キ相當ノ制限ヲ付シ得ルノ規定ニシテ其ノ適用ノ範圍頗ル廣キヲ以テ
其ノ運用宜シキヲ得ハ土地ノ利用ヲ増進シ國土ノ安寧ヲ保持スル上ニ多大ノ効果アルヘシ殊ニ土砂ノ採
取ノ如キ國土ニ危害ヲ及ホスモノ其例尠カラス斯クノ如キハ相當ノ制限ヲ要スルヤ論ヲ俟タス然ルニ其
ノ實例比較的甚ダ尠キガ如キ尙後一層留意ヲ望ム

十三、公有林濫伐ノ弊害矯正ノ件
公有林ノ賣拂ヲ受ケ市町村有ニ期シタル森林ガ濫伐セラレガ如キハ賣拂ノ目的ニ反スルノミナラス市町
村有財産ノ管理上適當ノ所置ニアラサル場合尠カラス中ニハ往々犯罪ノ素因タル事アラリ宜シク森林

取得ノ狀況ヲ審ニシ管理ノ方法ヲ確守セシムルト共ニ郡參事會町村會等ノ議決ニ付テモ一層ノ留意ヲ望ム

十四、公有林、寺寺有林監督ニ關スル件

公有林、寺寺有林ノ施業ニシテ豫定ノ如ク實行セサレハ施業接施業要領ハ勿論管理方法、管理區分等ハ何等實益無キニ至ル以テ其ノ監督ヲ周到ニシ殊ニ造林事業ノ如キハ必ず豫定ノ進捗ヲ圖リ遺漏ナキヲ望ム

十五、種苗下付事業監督ニ關スル件

種苗ノ下付事業ニ付テハ種苗ノ撰擇下付ノ方法及ヒ適地ノ調査等充分ノ調査ヲ要スルカ尙下付又ハ補助ノ後造林地ノ取扱方良好ナラズンハ事業ノ目的ヲ達スル能ハス宜シク爾後ノ監督ヲ嚴ニシ其ノ狀況ヲ審ニセンコトヲ望ム

十六、産業組合設置獎勵ノ件

林業ニ關スル産業組合ハ別表ニ示スガ如クニシテ僅カニ總數ノ三十分ノ一ニ過ギス林産物ニ關スル生産組合販賣組合ハ林産物ノ改良又ハ販路擴張上最モ有益ナルノミナラス林地住民間ニ信用組合又ハ購買組合ヲ組織セシムルガ如キハ林業ノ發展上ニ利益アル外住民ノ生活上ニモ其ノ効益多大ナルヲ以テ之レガ設立ノ獎勵ニ付キ一層留意セラルヘシ

十七、種苗ノ改良ニ關スル件

良種苗ノ供給ハ林業發達上最モ重要ナル事項ナリ宜シク種苗商ノ弊害ヲ矯正シ苗圃ノ設置苗木ノ檢査其他ノ方法ニ依リ且ツ其ノ目的ヲ達スルニ努メラル可シ

十八、森林施業改善ニ關スル件

民有林中其ノ施業方法巧ニシテ他ノ模範タルモノ無キニ非サルモ其ノ施業方法ノ秩序調ハサルモノ又ハ造林後ノ手入危害防止ニ關スル施設不充分ナルモノ勘カラス又天然林ノ利用方法ノ如キ更新ニ際シテハ

特ニ考慮ヲ要スヘキモノナルニ甚ダシク不利益ナル方法ヲ取ルモノアリ之等ハ相當改善ノ途ヲ講ジ尙林種伐期ニ付テモ自ラ各地方ニ最モ有利ナルモノアルベキニ依リ此点ニ關シテモ亦指導上充分ナル考慮ヲ望ム

十九、適期獎勵ニ關スル件

地方ノ風土ニ適應スル樹種ヲ調査撰擇シテ之レヲ獎勵スルハ植樹獎勵上最モ必要ノ事項タリ又各地方特有ノ特種林業ハ産業上益々之ヲ助長スルノ必要アリ之等ノ点ニ付キ一層將來ノ注意ヲ望ム

二十、森林ノ副産物ノ利用及ビ林産製造獎勵ニ關スル件

廣大ナル林地ヲ最モ有益ニ利用スル方法トシテハ副産物ノ利用ヲ圖リ林業ノ利益ヲ一層多大ナラシムル爲メニハ各種林産製造ノ改善ヲ圖ラサルヘカラス然レトモ之等ノ事業現時ノ狀況ヲ見ルニ他ノ産業ニ比シ其進歩ノ程度甚ダ振ハザルモノ有ルガ如シ宜シク一層ノ努力ヲ望ム

廿一、林産物取引改良ニ關スル件

林産物ノ取引方法不完全ナル爲メ商人ノ爲メ徒ラニ利益ヲ壟斷セラル、場合勘カラス之等ニ付テハ宜シク改善ノ方法ヲ講シ林業者ノ收益ヲ一層高カラシムル必要アリ相當ノ施設ヲ望ム

廿二、風致、防風、防火、防熱等ノ目的ヲ以テスル樹木植栽ニ關スル件

樹木ガ場所ノ關係上風致ヲ備ヘ又ハ防火、防風ノ作用ヲナシ若シクハ防熱用ニ供セラル、事ハ言フ俟タズ而シテ之等ハ又一定時期ニ於テ木材トシテ効用ヲナスモノナルニ依リ宜シク之レガ植栽ヲ教育又ハ民政ノ方面ヨリ獎勵シ又伐採ニ付テモ充分注意ヲ用ユヘキ事ヲ一般ニ周知セシムル方法ヲ講セラレタシ

廿三、山林會設立獎勵ノ件

山林會ハ林業上必要ナル團體ニシテ之レガ活動ノ如何ハ林政ニ至大ノ影響アルヘキニ依リ益々之レヲ獎勵シ有益ナル事業ヲナサシムルト共ニ未設置ナル所ハ速カニ之レガ設立ヲ計劃サレン事ヲ望ム

廿四、篤業家表彰ニ關スル件

地方ニ於テ模範トナル可キ林業家又林業團體林業ノ發展ニ盡瘁シタル篤志家等ノ事蹟ハ林業改良上最モ
着目ヲ要スル事項ナルニ依リ其ノ顯著ナルモノハ報告セラル故勿論出來得ル限之レガ推勵ニ努メラル可
シ

五、林務調査ニ關スル件

林政ニ關スル事項ハ幾多改良ノ餘地アルモ改善ニ關スル方針ヲ確立スル爲メニハ林野林產物其他之レニ
關係アル事項ニ關スル諸種ノ調査ヲ遂ケ其ノ趨勢ヲ知ラサル可ラス即チ將來當局ヨリ指示スルモノハ勿
論其他各地方ニ於テ參考上必要ナル事項ニ付テハ着々其ノ調査ヲ實行セラレムコトヲ望ム

庶務會計ニ關スル件

- 一文書物件ノ收受發送及文書淨書ニ關スル事項
- 二文書編纂ニ關スル事項
- 三官報公報諸規程ニ關スル事項
- 四課印管守ニ關スル事項
- 五出張命令ニ關スル事項
- 六課員名簿及進退ニ關スル事項
- 七豫算決算ニ關スル事項
- 八仕拂ニ關スル事項
- 九物品購入及保管ニ關スル事項
- 十備品臺帳ニ關スル事項
- 十一會計帳簿ニ關スル事項
- 十二契約ニ關スル事項
- 十三法律命令其他諸規則ノ加除訂正及編纂保存ニ關スル事項
- 十四前各號ノ外他ノ主掌ニ關セサル事項

砂防工事ニ關スル件

- 一砂防設備地ノ設計ニ關スル事項
- 二砂防工事ノ施行及監督ニ關スル事項
- 三砂防工經費ノ調査ニ關スル事項
- 四砂防設備地ノ測量
- 五砂防指定地ノ制限及解除
- 六砂防工事用材料調査ニ關スル事項
- 七水利上ニ係ル防禦調査ニ關スル事項
- 八既成砂防工事維持調査ニ關スル事項
- 九砂防指定地内ノ作業ニ關スル事項

砂防地整理ニ關スル件

- 一砂防指定地ニ關スル縣有地ノ境界調査及測量
- 二砂防既成地ノ分合
- 三立木竹ノ調査
- 四部分林ニ關スル調査
- 五砂防設備地ノ臺帳整理ニ關スル事項
- 六砂防設備地内砂防植付ニ關スル件
- 七砂防設備地内土石土地處分調査

公有林野ニ關スル件

- 一部落有林野整理ニ關スル町村行政及個人經濟上ノ豫察調査ニ關スル事項
- 二部落有林野統一及處分ニ關スル事項
- 三町村有林野ノ營業按編成及實施ニ關スル事項
- 四入會權ノ整理ニ關スル事項
- 五公有林野作業ノ監督ニ關スル事項
- 六公有林野ノ臺帳整理ニ關スル事項
- 七其他公有林野管理ニ關スル一切ノ事項

保安林ニ關スル件

- 一 保安林ノ編入解除ニ關スル事項
 - 二 保安林ノ調査ニ關スル事項
 - 三 地方森林會ニ關スル事項
 - 四 地方森林會ニ關スル經費ノ調査
 - 五 保安林調査ニ關スル經費ノ調査
 - 六 保安林整理ニ關スル事項
 - 七 保安林施業案ニ關スル事項
 - 八 保安林監督ニ關スル事項
 - 九 保安林伐採及植栽ニ關スル事項
- 社寺有林ニ關スル件
- 一 社寺有林ノ處分ニ關スル事項
 - 二 社寺有林ノ施業ニ關スル事項
 - 三 社寺有林伐採及植栽ニ關スル事項
 - 四 社寺有林整理ニ關スル事項
 - 五 社寺有林監督ニ關スル事項
- 補助造林ニ關スル件
- 一 補助造林ノ測量計畫事項
 - 二 造林補助ニ關スル經費ノ調査
 - 三 補助金ノ交付ニ關スル事項
 - 四 公有林野造林監督ニ關スル事項
 - 五 植樹臺帳ニ關スル事項
- 開墾及作業ニ關スル件
- 一 開墾制限地ノ調査ニ關スル事項
 - 二 開墾制限地及砂防指定地ノ開墾ニ關スル事項

林野產物處分ニ關スル件

- 三 指定造林ニ關スル事項
 - 四 山野火入其他林野ノ取締ニ關スル事項
 - 五 害虫驅除及豫防ニ關スル事項
 - 六 流木竹ノ作業ニ關スル事項
 - 七 林道及防火線設置ニ關スル事項
 - 八 水利ニ係ル森林技術上ノ調査ニ關スル事項
 - 九 礦業ニ係ル森林技術上ノ調査ニ關スル事項
- 林野產物處分ニ關スル件
- 一 林野實却處分ニ關スル事項
 - 二 木竹下草處分ニ關スル事項
 - 三 土石ノ掘採處分ニ關スル事項
 - 四 極印保管ニ關スル件
 - 五 森林產物ニ使用スル記號印章ニ關スル事項
 - 六 土地ノ使用及收用ニ關スル事項
 - 七 林野ノ名稱地種目ニ關スル事項
 - 八 測量標柱建設及保管ニ關スル事項
 - 九 林野官民有區別調査ニ關スル事項
 - 十 木材市場ニ關スル事項
 - 十一 狩獵ニ關スル事項
 - 十二 森林警察ニ關スル事項
- 縣有造林ニ關スル件
- 一 縣有造林地ノ施業按編成ニ關スル事項
 - 二 縣有林野ノ造林ニ關スル事項
 - 三 特種樹木ノ植栽ニ關スル事項
 - 四 苗圃事業ニ關スル事項

- 五縣有造林ニ關スル經費ノ調査
- 六縣有造林ノ保護及撫育ニ關スル事項
- 七縣有造林地ノ臺帳整理ニ關スル事項

組合及講習ニ關スル件

- 一 森林組合ニ關スル事項
- 二 講習講話ニ關スル事項
- 三 組合及講習會ノ經費ニ關スル事項
- 四 森林組合補助ニ關スル事項
- 五 低利資金ノ融通ニ關スル事項
- 六 林産物共進會展覽會品評會ニ關スル事項
- 七 木材苗木商同業組合ニ關スル事項
- 八 森林視察ニ關スル事項
- 九 林業試驗場ニ關スル事項
- 十 森林測候ニ關スル事項
- 十一 森林副産物獎勵ニ關スル事項

調査報告及統計ニ關スル件

- 一 森林及砂防ノ學術的調査ニ關スル事項
- 二 森林及砂防ノ統計ニ關スル事項
- 三 報告編纂ニ關スル事項
- 四 地質及土性調査ニ關スル事項
- 五 木竹工藝品ノ調査ニ關スル事項

愛知縣山林會ノ活動

○明治四十四年十月十七日第二回總會ヲ東加茂郡足助町尋常高等小學校ニ開ク有功章授與式ヲ舉グ午後

講演アリ、出席者一千餘名、各種ノ協賛事業アリ、頗ル盛會ヲ極ム、翌十八日森林視察旅行ヲナス、人員五百餘名、本縣有林、東加茂郡有林、岡崎電燈株式會社發電所等ヲ視察セリ

○會報ヲ發刊シ會員ニ頒布セリ

○郡部會ハ總會及講演會、講習講話會ヲ開催シ又視察員ノ派遣ヲナシ活動シツ、アリ

林業講話講習會開催

本縣林業講話規定ニ由リ本年度中縣下各地ニ於テ開催セラレタル林業講話及講習會ハ左ノ如シ

郡	町村	場所	時	日	期間	聽講生數	開催主	講師	備考
中島	稻澤	中島郡役所	明治四十四年	九月廿八日	一日	五三	苗木組合	沖手忠吾	造林上ニ及ボス苗木商ノ責任
南設樂	新	城南設樂郡役所	自明治四十四年	十月廿五日	至全	二〇	山林部會	三溝謹平	國土ト森林トノ關係 其他林業ニ關スル講話
渥美	田原	町會議事堂 北部尋常小學校	自明治四十五年	一月廿一日	至全	四〇	田原町	三木壯太郎	森林保護及一般林業ニ付テ
全	伊良湖	堀切尋常小學校	自明治四十五年	一月廿四日	至全	一四〇	伊良湖村	技手小柳津佐名義	一般林業ニ付テ
全	野田	野田村尋常小學校	自明治四十五年	一月廿三日	至全	八一	野田村	依田貞種	一般林業ニ付テ
全	全	全	明治四十五年	一月廿六日	一日	一〇〇	全	小柳津佐名義	竹ノ栽培
全	高	大字豊南 四寺	明治四十五年	一月廿五日	一日	二六	高豊村	沖手忠吾	荒廢山林ノ造林、森林組合 ノ大要竹林養成ノ大要
全	赤羽根	赤羽根村尋常高等小學校	自明治四十五年	一月廿六日	至全	四五	赤羽根村	沖手忠吾	林學大意 魚附林

全	東加茂松	丹羽城	全	愛知長久手	全	全	全	全	全	全	全	南設樂長
全	平尋常小學校	東觀音地	天	安	千	作	海	全	全	全	全	篠寺
尋常小學校	大字豐松	大字塔ノ地	白	大字岩作	尋常高等小學校	大字鴨谷	大字海老	大字愛郷	大字玖老勢	大字長篠	大字長篠	院
明治四十五年二月廿五日	明治四十五年二月廿四日	自明治四十五年二月十九日至全 年全月廿三日	明治四十五年二月二十日	明治四十五年二月十九日	明治四十五年二月廿五日	明治四十五年二月廿四日	明治四十五年二月廿三日	明治四十五年二月廿一日	明治四十五年二月廿二日	明治四十五年二月二十日	明治四十五年二月十九日	明治四十五年二月十九日
一日	一日	五日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日
五〇全	七四松	四五城	九〇天	七〇長久手	四〇千	六〇全	二五作	九〇海	二〇全	二〇鳳來寺	二〇長篠	二〇長篠
吉田又造	吉田又造	黒田莊治郎	關手伊助	關手伊助	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木師
竹林栽培	竹林栽培	造林法	松毛虫驅除法	松毛虫驅除法	公有林經營	雜菌驅除法	推草採取ノ制限	造林ニ付テ	造林ニ付テ	森林利用ニ付テ	森林作業ノ方法	森林作業ノ方法

全	全	東加茂旭	全	全	全	八名八	全	南設樂千	全	全	全
全	全	尋常小學校	七	山吉田	舟	名	新	千	下	費	盛
尋常小學校	尋常小學校	大字太田	寶珠	大字下吉田	大字日吉	大名郡會議事堂	新城町	尋常高等小學校	山	茂	岡
明治四十五年三月一日	明治四十五年二月廿九日	明治四十五年二月廿八日	明治四十五年一月十一日	明治四十五年一月十日	明治四十五年一月九日	明治四十五年一月八日	明治四十五年一月廿七日	自明治四十五年二月四日至全 年全月十日	自明治四十五年二月廿二日至全 年全月十九日	自明治四十五年二月十八日至全 年全月十九日	明治四十五年二月廿六日
一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	七日	二日	二日	一日
七三全	九〇全	八一旭	八五七	七二山吉田	三一舟	七〇八	五〇新城	六三青	六八下	六六下	五一盛
吉田又造	吉田又造	吉田又造	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	三木壯太郎	齋藤和雄	吉田又造	吉田又造	吉田又造
竹林栽培	竹林栽培	竹林栽培	一般林業ニ付テ	一般林業ニ付テ	一般林業ニ付テ	一般林業ニ付テ	一般林業ニ付テ	林學大意	竹林栽培	竹林栽培	竹林栽培

全全全事務員

濱三社岡二久藤久樋日堀加山神前松川手波伊清
島輪本本宮永井住口高田野崎谷田本合島多藤水
乙又鉞重之小乙幸稻之治輝照次良明新
平郎郎造郎助十吉亮作彦助郎重賢三郎務一忠八

全全全全全工全全全全全林全全全全全全全全全全
手 業 履

村森木奧不有水遠三榎和西水高佐橫伊城小宮吉
井 村 村 破 坂 谷 藤 宅 津 田 澤 谷 橋 藤 井 東 戶 池 地 田
權 茂 之 次 五 平 米 仲 次 茂 塔 三 繁 貫 三 德
郎 幸 助 郎 郎 月 吉 繁 吉 次 郎 作 一 郎 馨 吉 一 郎 秀 一 章

郡町村其他林業技術員調査

本縣下公有林ノ整理及各種公共團體林業ノ發達ニ伴ヒ森林經營ニ從事スル技術員ノ設置セラルコト漸次多キヲ加ヘタルカ其現在員左ノ如シ

全盛岡村	竹波順之助
全松平村	毛受密二
全下山村	岡崎武治
全加茂村	伊奈直三郎
全旭村	塚田信一
全阿摺村	岡田勝治郎
南設樂郡	福岡太郎右衛門
北設樂郡	久保才三郎
額田郡	大野惣之助
東加茂郡	井上龍夫
全屬	波多野 熙
	鈴木銀次郎
	川村好男

林務彙報

(明治四十四年四月) 農商務省ニ於テ開催セラレタル各府縣林務主任會議列席ノ爲メ技師三溝謹平上京ス

(明治四十四年五月) 大日本山林會第二十二回總會へ列席ノ爲メ
技師三溝謹平 技手沖忠吾 林業技手加藤理三郎及縣下林業家十數名出張ス

(明治四十四年八月) 京都府ニ於テ開催セラレタル農商務省主催第一回林野講習會ニ講習員トシテ屬字野鐘太郎 林業技手加藤理三郎出席ス

(明治四十四年十一月) 二十日ヨリ三日間本縣林務ニ關スル協議會ヲ縣廳ニ開催ス

(明治四十四年十二月) 岐阜縣山林會第四回總會へ列席ノ爲メ林業技師三木壯太郎 全吉田又造出張ス

(明治四十五年三月) 愛知地方森林會ヲ開ク

(全年) 静岡縣山林會總會へ列席ヲ兼ネ全縣下林況視察トシテ出張ス

(自明治四十四年九月至全四十五年三月) 林業講話及林業講習會ヲ縣下三十三ヶ所ニ於テ開催ス

全宮崎村 吉川義雄
 明治用水々利組合 北御門儀四郎
 孫實用水々利組合 石田好之

第七章 法 規

縣令第八號
火入及焚火取締規則左ノ通り定ム

明治四十四年十一月二十二日

愛知縣知事代理
愛知縣事務官 深町鍊太郎

火入及焚火取締規則

- 第一條 森林法第七十八條第一項ニ依リ林野原野山岳又ハ荒蕪地ニ於テ火入ヲ爲シ得ル場合左ノ通り之ヲ指定ス
 - 一 造林地拵ノ爲メ障害物除去ノ必要アルトキ
 - 二 害虫驅除ニ關シ火入ノ必要アルトキ
 - 三 森林開墾許可地ニシテ火入ノ必要アルトキ
- 第二條 森林法第七十八條第二項及森林法施行規則第四十三條ニ依リ火入ノ許可ヲ受ケントスルモノハ別記様式ノ申請書ニ圖面並ニ隣接地ノ所有者又ハ占有者管理者ノ連署若クハ承諾書ヲ添付シ火入期日十日以前ニ所轄警察署ニ差シ出シ許可ヲ受クベシ
 - 第一條第三號ノ場合ニ於テハ開墾許可書ノ寫ヲ添付スベシ
- 第三條 森林法第七十八條第二項及森林法施行規則第四十三條第一項ニ依リ森林官吏ノ許可ヲ受ケタルモノハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄警察署ニ届出ツベシ
- 第四條 森林法第七十九條ニヨリ森林ノ所有者又ハ占有者管理者ニ發スベキ通知ハ火入期日五日前ニ之レヲ爲スベシ

- 第五條 森林法第七十九條ニ依ル設備トシテ防火線ハ巾五間以上トシ柴草ヲ刈取り落葉塵芥等ヲ除去シ延焼ノ虞ナカラシムベシ
 - 第六條 火入着手ノ場合ハ警察官吏ノ立會ヲ得テ之ヲ施行シ森林法施行規則第四十六條ニ依リ申請者ハ火氣ノ存スル間其ノ場所ヲ立去ルコトヲ得ズ
 - 前項申請者ノ外向其ノ地區ニ應ジ相當番人ヲ配置スベシ番人ハ火氣全ク消滅スルニ非サレハ其ノ場所ヲ立退クコトヲ得ズ
 - 第七條 火入時間ハ日ノ出ヨリ日没マデトス
 - 但風勢穩ナラサルトキハ火入ヲ爲スヘカラズ
 - 第八條 森林原野山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ濫ニ焚火ヲシテ若クハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ズ
 - 但シ止ムヲ得サル場合ニ於テ焚火ヲ爲シタルトキハ火氣全ク消滅スルニアラサレバ其ノ場所ヲ立退クコトヲ得ズ
 - 第九條 森林原野ニ於テ木炭若クハ燒灰製造ノ目的ヲ以テ焚火ヲ爲ントスル者ハ相當ノ防火設備ヲナシ豫メ警察官ニ届出ヘシ
 - 前項ノ場合ニ於テハ第八條但書ノ規定ニ遵フヘシ
 - 第十條 第三條第六條第二項第七條第八條第九條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 - 第十一條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治三十六年九月愛知縣令第六十八號森林原野火入手續ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(様式)

火入許可申請書

所在地番目 何郡何市何町村大字何字何々番山林(原野)

所有者又ハ占有者住所氏名	何郡何市何町村大字何々番戸何某
全 面 積	何町何反何畝歩
火 入 面 積	何町何反何畝歩
火入ノ目的並其ノ事由	造林地障害物除去(害虫驅除)(開墾許可地)
火 入 期 日	何年何月何日何時
防火線並ニ防火ノ設備	防火線幅何間延長何百間防火線内可燃物ハ之ヲ除去ス又ハ何々
保 安 林 ノ 關 係	保安林ニアラズ又森林法第十八條ノ告示ナシ (保安林ナリ又ハ森林法第十八條ノ告示アリ)
砂防指定地ノ關係	砂防指定地ニアラズ(砂防指定地)
接續地ノ地種目及林況	東ハ何々何某所有西ハ何々急傾斜地何某
地況並ニ其ノ所有者	所有南ハ何々何某所有北ハ何々何々某所有

右御許可相成度別紙圖面(及所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ証スル書面)相添此段申請候也

年 月 日

何郡市何町村大字何々番戸 氏 名 (又ハ管理者氏名)

警察署(分署)長殿
訓令第三十四號

警 察 署
分 署
全

火入及焚火取扱規則左ノ通り定ム

但明治三十六年九月訓令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年十一月二十二日

火入及焚火取扱規則

愛知縣知事代理

愛知縣事務官 深町鍊太郎

第一條 火入及焚火取締規則ニ依リ火入ノ申請ニ對シ之レヲ許可シタルトキ交付スベキ森林法施行規則

第四十四條ノ火入許可証ハ幅一寸五分長サ三寸ノ硬質白紙ヲ以テ調製スベシ

第二條 前條許可シタルトキ又ハ取締規則第三條ニ依ル届出又ハ縣、郡、市、自ラ火入ヲ爲スノ通知ヲ

受ケタルトキハ火入ニ際シ警察官ヲ現場ニ派遣シ他ニ延焼ノ虞ナシト認メタル後點火セシムベ

シ火入ノ許可地ガ帝室林野管理局所轄地ニ接近スルトキハ當該森林官吏ニ左記ノ事項ヲ通知ス

ベシ

一 火入箇所及面積

二 火入ノ目的

三 火入ノ日時

四 火入者ノ住所氏名

前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ノ許可ヲ爲シタルトキ又全ジ

第三條 所轄警察署長又ハ分署長ハ火入終了後五日以内ニ左ノ報告ヲナスヘシ

一 申請書又ハ謄本

二 隨撞警察官ノ官氏名

三 火入ノ概況

第四條 保安林及森林法第十八條ニ依リ告示ニ係ル森林原野山岳又ハ荒蕪地ノ火入許可ハ經伺ノ上處理スヘシ

第五條 森林原野ニ於テ木炭若クハ燒灰製造等ノ目的ヲ以テ焚火ノ届出ヲ爲シタルトキハ臨檢ヲ爲スベシ

但シ其ノ作業ニシテ延燒其他危險ノ虞アリト認ムルキハ之レヲ禁止シ其ノ他相當ノ處置ヲ命スベシ

縣令百九號

公有林野造林補助規程中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月六日

知事

第一條中 第三號ヲ「縣郡町村組合又ハ大字其他部落ニ屬スル土地ニ地上權又ハ賃借權ヲ有スルモノ」ト改ム

第三條 左ノ通り改ム

「市町村又ハ町村組合ニシテ第一條各號ノ土地ニ對シ防火線ヲ設ケタルトキハ其費用ノ三分ノ一以內又ハ造林ノ爲メ地盤ノ保護工事ヲナシタルトキハ其費用ノ十二分ノ十一以內ノ補助金ヲ交付スルコトアルベシ」ト改ム

(參考)

林第四九二七號

公有林野整理開發ニ關シテハ從來屢々訓示相成候次第モ有之一日モ之カ企畫ヲ緩ウスヘキモノニ無之特

ニ部落有財產ノ主要部分タル林野ヲ市町村ニ統一歸屬セシムルコト整理開發ノ捷徑トシテ之カ遂行ヲ圖ルハ最モ必要ノ事ト存シ候尤モ是等ニ就テハ貴官ニ於テモ種々御配慮ノ上既ニ夫々獎勵ノ方法ヲ講セラレ漸次實績ノ見ルヘキ向モ有之候モ本件林野ノ整理統一ハ實行上困難ノ点少カラスシテ之カ完成ヲ得ルハ容易ノ義ニ無之ト存候就テハ各地ノ實況ニ應シ大体別紙ノ方法御斟酌ノ上一層御配意相成度依命此段及通牒候也

明治四十三年十月十三日

農商務次官 押川 則吉

內務次官法學博士 一木 喜徳郎

愛知縣知事 殿

追テ林野事業ノ經營ハ團體ノ財政ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ市町村行政監督ノ事務ニ當ル者ト勸業ノ事務ニ從事スルモノトハ常ニ相互共同研究ヲ盡シ齊一方針ノ下ニ指導獎勵ノ途ヲ講スル様致度右ハ當然ノ義ニハ候ヘ共爲念併セテ申進候

第一部落有林野ヲ市町村ニ統一歸屬セシムルコトハ林野ノ整理開發上緊要ノコトニ屬シ兼テ自治ノ圓滿ト財政ノ安固トヲ得セシムルモノニシテ之ニ關シ市町村民ノ自覺ヲ要スルハ勿論ナルモ之ヲ勸奨スルニ當リテハ弘ク一般人民ヲシテ自治ノ本旨ヲ体シ部落割據ノ觀念ヲ斐除セシムヘク其統一方法ニ關シテハ大体左ノ方法ニ依リ地方ノ狀況ト沿革トニ應シ宜シキニ從ヒ措置セシムルコト

(一)從來部落有林野ノ管理當ヲ失シ其甚シキニ至リテハ舉ケテ之ヲ部落民ノ自由ニ放任セルカ爲メ權利義務ノ明確ヲ缺クニ至リ若ハ内實負債ノ担保ニ供シ其他賣却分割貸渡等ノ豫約ヲ爲シ或ハ正當ノ手續ヲ得スシテ事實處分シタルモノアリ是等諸種ノ事情纏綿シ部落有林野ノ全部ヲ舉ケテ之ヲ市町村有ニ提供スルコト能ハサル事情ノナキヲ保セス如此ハ篤ト其實事ヲ精査シ速ニ之カ匡正ノ手段ヲ講シ此際市參事會町村長ノ管理ニ移シ一層之カ監督ヲ嚴ニスルコト

(一) 部落有林野ヲ市町村ニ統一歸屬セシムルニ當リ事ノ容易ナランコトヲ慮ルノ結果統一ヲ名トシテ林野ノ大部分ヲ部落民ニ分割又ハ賣却シテ唯其一部ノミヲ市町村ニ提供スル等本表ノ主旨ヲ没却スルカ如キコトナカラシムルコト

(二) 統一シタル林野ハ市町村ノ基本財産トシテ適法ノ管理ヲ爲サシムルハ勿論ナリト雖モ從來部落民カ受ケツ、アリシ緣故ニ基ノ利益ハ之ヲ無視セス緣故部落民ニ產物ヲ特賣シ若ハ產物ノ一部(副產物ノ如キ)ヲ交付スル等ノ特權ヲ與ヘ之ト同時ニ其林野ニ對スル保護其他特定ノ義務ヲ負擔セシムル等地方ノ事情ニ應ジ適當ノ處置ヲ取ルヲ要ス

(三) 部落カ曾テ植林シタル土地ヲ統一スルニ當リテハ可成其植林ノ効績ヲ尊重シ部落民ヲシテ之レカ利益ヲ失ハシメサル爲メ適當ナル方法ヲ講シ以テ先覺造林ノ効果ヲ空フセシメサルコト

(四) 從來部落ノ負擔又ハ協議費ノ名義ヲ以テ部落有林野ノ收入ニ依リ費用ヲ支辨シタル道路堤防用水路溜池等ノ修築維持ハ林野ノ統一ト共ニ實際不便ヲ感スルモノ、外之ヲ市町村ノ經濟ニ移サシムルコト

(五) 各部落ノ提供面積又ハ其價格カ部落間ニ權衡ヲ得サルモノアルヘシト雖モ(二)乃至(五)ノ方法宜シキヲ得ハ之カ調和ヲ計ルコトヲ得ヘク尙ホ多少ノ懸隔ハ免レサルヘキモ統一ノ自治上ニ及ボス利益ヲ悟ラシメ公共心ニ依リ可成全部ノ統一ヲ爲サシムヘシ將又全然無財產ノ部落ニ對シテハ其部落ノ實力ニ堪フル相當範圍ニ於テ或ル期間特別ノ賦課ヲ爲サシメ以テ調和ノ方法ヲ講セシムルコト

第二部落有林野ノ統一ト林業經營トハ自ラ問題ヲ異ニス統一シタル林野ハ必スシモ凡テ森林トシテ普通林業ヲ經營スルモノニアラスシテ第五項第六項所記ノ管理區分ヲ爲スヲ要ス而シテ其區分ニ依リ農用地ト査定シタル土地ハ開墾牧場採草地等トシテ適當ノ利用方法ヲ立テ、整理スルモノトス然レモ此等農用地ハ特ニ整理ノ不便ナルモノ、外ハ可成之ヲ市町村ノ所有トシテ經營スルカ又ハ市町村住民ニ賃借權若ハ地上權等ヲ設定セシメテ適當ニ利用セシムルノ方針ニ依リ市町村ヲシテ土地ヲ失ハシメサルコト

第三公有林野ノ内事實上社寺ノ所有タルヘキモノアリ又ハ個人有若ハ共有ノ名義ニシテ其實公有タラサルヘカラサルモ勘カラサルカ如シ如此モノヲ此儘放置スルハ遂ニ所有權ノ明確ヲ欠キ延テハ公有林野整理上障礙ノ因ヲ爲スニ依リ改租當時ノ取扱者ノ生存其他沿革証跡等ノ亡滅セサル今日ニ於テハ速ニ訂正ヲ加ヘ名實相稱ハシムルコト

第四公有林野ノ管理區分ハ各市町村ノ當事者ヲシテ其地ノ事情ヲ斟酌シ必要ニ應ジ適當ニ之ヲ按排セシムルハ當然ノ事ニ屬スト雖モ或ハ技術上ノ智識ニ乏シク或ハ徒ラニ情弊ニ束縛セラレ、ノ虞アルヲ以テ府縣郡ノ官吏々員ヲシテ數ヶ所ノ摸範的管理區分ヲ行ヒ以テ一般ノ參考ニ資セシムル等凡テ市町村ノ自覺經營ト地方官衙ノ指導誘掖トヲ併行スルコト

第五公有林野ノ內將來農用地(開墾豫定地、芝草採取地、牧場、放牧地等)トシテ利用スルノ適當ナリトスルモノ勘カラス但シ既往ノ實蹟ニ徴スレバ往々ニシテ國土保安上危害ヲ醸スヘキ場所ヲ開墾セルモノアリ又綠肥牧草等ノ採取ノ爲メニハ漫然廣漠ナル山野ヲ占領シ濫採ノ弊ニ堪ヘサルモノ勘カラス此等ハ左ノ標準ニ據リ査定シ農業ト林業トノ調和ヲ計ルヘシ

(一) 農用地ト林業地トノ區別ヲ立ツルハ國防其他ノ公益上特別ノ必要アル場合ハ格別トシ其以外ニ在ツテハ經濟上最モ有利ナル方法ニ依リ土地ヲ利用スルコトヲ原則トシ若シ之ニ反スル永年ノ慣行アリテ俄カニ變更シ難キモノハ漸次此原則ニ近カシムルノ方針ヲ採ルコト

(二) 開墾豫定地ハ開墾(田畑開墾)外桑、茶、漆、櫨、楮及柑橘其他果樹植栽地ヲ包含ス)ノ目的ヲ持續シ得ヘキ見込ノ地域ヲ畫定スルコト

(三) 前項開墾豫定地ヲ畫定スル場合ニハ特ニ國土保安ノ關係ヲ精査シ開墾ノ爲メ國土ノ安寧ヲ害スルノ虞アルモノハ一切豫定地ト爲サ、ルコト

(四) 芝草採取地ハ芝草ノ生産量及需用額ヲ調査シ尙ホ將來ニ於ケル肥料飼料等改良ノ能否ヲ考察シテ必要ナル地域ニ査定スルコト

(五) 牧場及放牧地ハ牧畜業ノ現状ヲ調査シ尙ホ將來ニ於ケル牧畜業ノ發展及飼料ノ改良等ヲ考察シテ必要ノ地域ニ査定スルコト

(六) 前兩號ニ依リ書定シタル芝草採取地、牧場、放牧地等ハ舊慣ヲ參酌シ適當ナル方法ヲ定メテ利用セシムルコト

第六公有林野ニ於テ地元住民カ燃料トシテ小柴ヲ採取スルノ慣行ハ前項芝草採取ノ慣行ト同シク概ネ濫採ノ弊之ニ併フヲ以テ之ヲ整理スルコト必要ナリト雖モ此種之ヲ禁止スルコトハ從來ノ關係上困難勘カラルヲ以テ芝草採取地ノ例ニ倣ヒ左リ標準ヲ以テ整理セシムルコト

(一) 小柴採取地ハ小柴ノ生産量及需要額ヲ調査シ尙ホ將來ニ於ケル採取法改良ノ能否他方面ヨリスル供給變遷等ヲ考察シテ必要ナル地域ニ止ムルコト

(二) 前項ニ依リテ書定シタル小柴採取地ハ舊慣ヲ參酌シ適當ナル方法ヲ定メテ利用セシムルコト
第七公有林野中入會權等ノ爲メ共同使用ニ供セラル、モノハ舊慣及事情ヲ調査シ之カ解除又ハ制限若ハ使用區域割當等ノ方法ヲ取り前各項整理ノ目的ヲ完成スルニ努ムルコト

第八從來ヨリ市町村有ニ屬スル森林ハ勿論部落有林野ヲ統一シテ第四項乃至第五項ノ趣旨ニ依リ其管理區分ヲ了シ市町村トシテ經營スヘキ林野ハ速ニ相當計畫ヲ定メ團體財政ノ狀況ヲ斟酌シテ適當ノ施設經營ヲ爲サシメ荒廢ノ虞ナカラシムルコト

第九公有林野ニ於テ芝草採取ノ慣行アル地方ニアリテハ今尙ホ年々火入ヲ爲スノ弊風存スルモノアリ此弊習永ク行ハル、キハ逐ニ地表ヲ敗殘シ恐ルヘキ國土ノ危害ヲ誘起シ或ハ火災ノ原因トナリ成林ノ障害ヲ爲ス等國土ノ安寧ヲ害シ又林業ノ發達ヲ阻害スルコト勘カラルニ依リ開墾及造林地拵等特種ノ事情アル土地ノ外ハ公有林野ニ於テ火入ヲ爲サシメサルノ方針ヲ取ラシムルコト

第十部落有林野ノ整理統一ニ併セテ其他ノ財産モ亦之ヲ統一セシムルハ適切ノ措置ナルヲ以テ速ニ之カ處分方法ヲ講シ遂行ニ努メシムルコト

第十二部落有財産ノ處分ヲ府縣郡參事會ニ於テ許可スルニ當リテハ統一ヲ避クル爲メ之ヲ處分スルカ如キ弊ナキヤ充分ニ調査シ監督上遺憾ナキヲ期セシムルコト

第十三既設府縣模範林ハ比較的利便ナル地域ヲ撰定シ單ニ財産林トシテ最モ有利ナル施業計劃ヲ定ムルヲ以テ主眼ト爲スノ傾向アリ此ノ如キハ往々ニシテ模範林ノ本旨ヲ没却スルニ至ルナキヲ保セス加之地方ニ依リテハ比較的利便ナル所多カラサルモ寧ロ公有林野ノ如キ從來荒廢ニ委棄シ顯ミラレサリシ土地ノ内造林ニ適スル地域ニ於テ部分法其他ノ方法ニ依リ府縣模範林ヲ設置シ以テ荒廢地恢復利用ノ範ヲ示スハ蓋シ公有林野開發ヲ誘導スルニ於テ裨益スル所勘ラサルヘキニ依リ將來地方模範林ハ右ノ方針ニ基キ可成模範林ノ實績ヲ收ムル樣計劃スルコト

附錄

溫古知新

(四)

目次

土砂打止ニ要スル樹種ニ就テ (明治三十二年二月)	林學博士	丹羽嘉六
林業講話 (全三十二年十一月)於知多郡	林學博士	本多靜六
移栽シタル植物ニ於ケル人工的根壓ノ應用 (全三十三年二月)	武田總七郎	武田總七郎
本縣ニ於ケル市町村有林ノ整理ニ就テ (全三十三年二月) 愛知縣技師	三溝謹平	三溝謹平
我國ニ適當ナル外國樹種ヲ紹介ス附林學博士本多靜六君ノ栽培談 (全三十三年三月)	東京	早稻田農園
基本財産トシテ森林ノ價值 (全三十三年五月)	愛知縣技師	三溝謹平
共有山及私有山林ノ整理 (全三十三年八月)	愛知縣技師	禾田樵夫寄稿
森林ノ開墾ニ就テ (全三十三年十二月)	愛知縣技師	禾田樵夫寄稿
市町村有林野ノ整理 (全三十四年三月)	愛知縣技師	禾田樵夫寄稿
瀬戸ノ陶磁器及燃料ノ調査 (全三十四年六月)	愛知縣技師	三溝謹平
牧草栽培談 (全三十七年六月)	愛知縣技師	三溝謹平
三河國寶飯郡ノ東南部松ノ平坦林ニ就テ (全三十六年十月)	愛知縣立農林學校教諭	北村正夫
種樹ヲ實行セラレヨ (全三十七年六月)	愛知縣立農林學校教諭	北村正夫
苜蓿栽培法 (全三十七年十月)	愛知縣立農林學校教諭	北村正夫
牧草ニ就テ (全三十七年十一月)	愛知縣立農林學校教諭	北村正夫
學校栽樹ノ訓令ニツキ栗樹栽培ノ必要ヲ述ブ (全三十七年十月)	衣斐鐵次郎	衣斐鐵次郎
林業年中行事 (全三十七年十月)	谷垣信太郎	谷垣信太郎

挿木ニ適スル樹種 (全三十八年六月)
樟樹造林及製腦 (全三十八年六月)
東加茂郡有林造林經營ノ概況 (全四十月五月)

愛 山 本 技 手 深
竹 波 須 之 助

土砂扞止ニ要スル樹種ニ就テ

丹 羽 嘉

土砂扞止林木トシテ或林學士ハ「ヤシヤブシ」程ノ良樹ハ他ニアラザルモノ、如ク大日本山林會報第九十一號ニ登載シ、發表セラレタルヲ見ル、彼ノ土砂扞止ニ付キテハ其工事ト云ヒ、植栽物ト云ヒ、世間未ダ良工法及ビ好植物アルヲ發見セザルモノ、如シ、大ニ講究セザルベカラザルナリ、今ヤ幸ニモ「ヤシヤブシ」ハ有効卓絶ナル植物トシテ紹介セラル、乍併此「ヤシヤブシ」ガ果シテ良植物トシテ用ヒラル、ナラバ苦心搜索スルノ必要ハナカラシ、何トナレバ之レト同等位ノ植物ハ數多アレバナリ、因テ余ハ茲ニ實地上多少効アル、一二樹種ヲ吹聴セン、尤モ單ニ土砂扞止上ニ就キテナレバ余ガ曾テ本縣農界報告第十四號ノ一端ヲ借汚シ又其レヨリ大日本山林會報第八十一號ニ轉載ノ榮ヲ賜リタル「山橙」目下之レニ匹敵スル植物ハ他ニアルヲ見ズ、因テ該「ヤシヤブシ」ト其兄弟位ノ「楊梅」トヲ比較列記シ、大方識者ノ評垂ヲ乞ハン、

一、「ヤシヤブシ」ハ或ル林學士ノ表示ノ如ク瘠地ニモ生育シ得テ、植栽其年ヨリ成長迅速、而シテ成長後樹幹ハ普通ノ薪炭材トナリ、果實ハ染色ノ原料ニ供ス、本樹ハ落葉樹ノ陽樹ニシテ一度植栽スレバ次回ヨリハ萌芽ニテ造林シ得ラル、便宜ノ植物ナリ、枝根モ相當ニ擴張シテ土地ヲ緊結シ且ツ其肥沃ナラシムルノ力アリ其生育帶ハ本邦植物帶ノ第二乃至第三ヲ定在トスルモノ、如シ

一、楊梅ハ瘠地瘠惡地ハ勿論陰地陽地ノ嫌ナク生育ス、植栽シテ二三年間ハ成長稍々遲鈍ナレトモ時々伐採スルニ於テハ其株ハ順次巨大トナリテ遂ニハ一株ヨリ新芽數十本ヲ生ズルニ至ルノミナラズ、成長速カナル木樹ハ常綠樹ニシテ樹幹ハ之又普通ノ薪炭材トナリ、果實ハ兒童嗜好シテ之レヲ喰ス、又樹皮ハ染色ノ原料トシテ用ヒラル而シテ根張モ前項樹種ニ劣ルコトナシ、其生育區ハ予ニ帶ヲ重トシ前後ノ帶ニモ多少跨リアルモノ、如シ、

兩樹種ノ生育區域、土地保護力、生木後ノ收益等概要斯ノ如シト雖モ土砂扞止上ノミニ要スル目的ハ其

收益ハ別問題タルベシ、及其他赤楊ノ如キ有効ノ差ハアルモ適地ナレバ多少好果アルヲ見ルベシ、又土砂打止ニハ常緑樹ト落葉樹トヲ混植スルヲ妙用トス、序ニ該楊梅苗ノ仕立法ヲ掲ゲオカシ

楊梅苗仕立法

種實ノ採收、五月中種實ノ熟シタルヲ採取シ、乾キタル砂ヲ之ニ混和シ、風ノ流通ヨキ所ニ薄ク廣クオキ時々攪拌スルコト三四週間ニ至レバ種實ハ水分ヲ砂及ビ空氣ニ吸收セラレ、遂ニ乾燥シテ堅粒トナル
苗床ノ拵方、濕氣アル肥沃ノ畑地ヲ幅三尺長適宜、高サ三寸乃至五寸ニ盛揚ゲ其上部ヲ平坦ニナシ、人糞ヲ施シ、耕耘シテ之レヲ床トス

播種ノ仕方、前ノ如ク整理シタル床ヲ鍬ニテ少ク押壓シ、直チニ堅粒トナリタル種子ヲ地坪一步ニ五合乃至七合ヲ播下シ、而シテ細土ヲ一寸位振りカケ亦鍬ニテ壓へ、其上ニ藎ヲ以テ一本列位ノ蔽ヲナシ置キ時々除草ス、斯クシテ翌年ノ春ニ至レバ必ラズ發生ス

發生後ノ保護方、五六分通り發生スルヲ俟チ、藎蔽ヲ撤去ス、除草ハ始終怠ルベカラズ、暑中若シ乾燥甚シクレバ時々水ヲ撒與スベシ、肥料ハ熟練者ニアラザレバ播種前ニ澤山施シオキ、發生後ハ成ル可ク施ササルヲ可トス(水尿ヲ施肥スルハ惡シ)暑中ノ日覆冬季ノ霜降等ハ更ニ要セズ

床替ノ仕方、發生シタル翌年ノ春、苗木ヲ掘採リ幹先及ビ根先キヲ半部即チ一尺ノモノナレバ五寸宛ヲ切捨テ耕耘シオキタル畑地ニ苗木ノ大小ニヨリ三寸乃至五寸隔テ、丁寧ニ植付クベシ、除草ハ是亦怠ルベカラズ、斯クスルトキハ、長サ一尺以上徑二分以上ノ苗木トナル而シテ其年ノ冬季ヨリ翌春ニ山地へ移植スルモノトス、若シ其内ニ極小苗アリタルトキハ尙ホ之レヲ一回床替スベシ、山地へ移植方法ハ「山檀」ト同様ニシテ宜シクシテ之レヲ費セズ

附言、本苗仕立法ニ就キテハ該種實ヲ採取シタルトキ一二日間水ニ浸シ能ク洗滌シテ其柔軟ナル皮肉ヲ取去リ清麗ニナシ陰干シテ貯藏シオキ、翌年ノ春ニ至リ播種シテモ宜シ、然レモ此方法ニテハ前方法ニ

テ仕立テタル苗木ヨリハ劣ルコト數等ナリ (明治三十二年二月)

林業講話 於知多郡 林學博士 本多 靜 六

抑森林ハ實ニ國家命脈ノ繫ル、處ニシテ其盛衰ハ實ニ個人ノ利害休戚ニ關スルノミナラズ、一般國土保安上ヨリ延テ國家ノ存廢ニ影響スベシ、故ニ有名ナル熊澤蕃山先生ノ如キハ既ニ二百年以前ノ昔ニ於テ大ニ之レヲ唱導シテ云ク、山川ハ國家ノ基礎、百工ノ根源ナレバ士農ト工商トニナク、宜シク協心戮力斯業ノ發達ニ務メザル可カラズト至言ト云フベシ、而シテ山林ノ荒廢ヤ荒廢ノ日ニ荒廢スルニ非ズシテ在并歲多ノ歲月ヲ累ネテ茲ニ始メテ世俗ノ眼ニ映ズルモノナルヲ以テ世人動モスレバ之レヲ等閑ニ附シテ更ニ顧ザルノ嫌ナキ能ハズ、獨リ先覺者ノ僅ニ戒懼スルニ過ギザルナリ

顧フニ山林濫伐ノ弊害トシテ單ニ造營建築ノ材料ニ欠乏ヲ訴フルカ若シクハ薪炭燃料ノ供給ニ不足ヲ告グルガ如キニ止マラバ未ダ甚ダ憂フルニ足ラザルナリ、何トナレバ木曾材ノ不足ハ紀伊吉野ノ材ヲ以テ補フベク、名古屋知多ノ如キ一地方ノ需用ハ東京木場ヨリ供給シ得ラルベク且ツ薪炭燃ノ如キニ至リテハ石炭ヲ用フルトシテ汎ク之ヲ世界各國ニ仰グモ敢テ不可ナキニアラズヤ、現ニ一例トシテ大坂難波橋ノ原料ハ米國産ノ松材ヲ用ヒタリ、而レモ奈河セン山林ノ荒廢ハ到底斯ル些末ノ事ニ止マラザルヲ、今ヤ本郡ノ如キ海濱ニハ漁魚ノ利、田野ニハ耕種ノ益アルノミナラズ、麥酒、清酒ヲ釀シ、味噌、醬油ヲ造リテ、年ニ巨額ノ收入アルモ之皆間接森林ノ實ニアラザルハナシ、而レモ一朝之レガ荒廢ニ飯センカ漁業ニ農業ニ工業ニ各種ノ事業ニ莫大ノ障害ヲ與へ、其甚ダシキニ至リテハ吾人人類ヲシテ棲息シ能ハザルニ至ルベシ

山林ト漁業トノ關係

山林ノ荒廢ガ漁業ニ影響シテ不漁ヲ來サシムルハ掩フベカラザル事實ニシテ業ニ既ニ吾人ノ祖先ハ周密ナル觀察ヲ以テ此点ニ向ツテ深ク注意セシモノ、如シ彼ノ魚附林又ハ魚寄林ト稱シ海邊ノ森林ニ就テ種

々ノ名稱ノ下ニ規定ヲ制定シテ濫伐ノ虞ニ備ヘタルノミナラズ猶進デ一般森林ノ保護増殖ニモ畫策ヲ怠ラザリシハ吾人ノ大ニ多トスルトコロナリ、降テ維新以來此等ノ規定モ漸ク弛廢シテ遂ニ濫伐ノ弊ヲ演ジ、漁業上ニ大影響ヲ波及セリ、阿波鳴門附近ナル土佐伯ノ如キハ著シキ例證ニシテ維新以前ト今日トハ大ナル變動ヲ來セリト云フ、之レ森林ノ濫伐ハ明ニ不漁ノ根源タル所以ナリ

鬱蒼タル森林ハ大雨ノ際ト早魃ノ時ト水量ヲシテ激變ナカラシムルト雖モ不幸ニシテ荒廢ニ就カンカ、大雨傾注セバ土砂ヲ流出シ、濁水河海ニ漲溢シ、直接ニハ洪水ノ慘害ヲ被ラシメ間接ニハ河海ヲ淺クシテ水底ヲ明カナラシメ土砂堆積シテ河口ノ瀬ヲ變ズルヲ以テ魚群來遊セズ茲ニ於テカ漁場ヲ荒廢セシムルモノ蓋シ尠ナラザルベシ、之レニ反シテ森林ニシテ沿岸ニ繁茂センカ昆虫、花果若シクハ嫩芽等種々ノ有機物質ノ何時トナク水中ニ落下シテ魚類ノ餌食トナリ、大ニ之レヲ來遊ノ誘介トナルベシ、而モ森林ナクンバ斯ル自然的ノ養魚法ハ到底期望スベカラズ

尙今日學術上森林ト魚類トノ一大關係ハ其暗綠色ナルコトニアリ、今茲ニ海岸ニ青々タル森林アリト仮定セヨ日光ノ反射ニヨリテ必ラズヤ海面ニ暗緑ニ映帶スベシ、故ニ苟モ海面ヨリ見得ベキ凡テノ山林ハ漁場ニ至大ノ關係ヲ有スルコトヲ知ルニ足レリ、是等ノ事ニ關シテハ先年予ガ北海道ニ於テ實驗ヲナシタルコトアリキ、一同船ニ乗ジテ沖ニ漕ギ出デタルニ蒼翠蒙密ナル森林ニ對スル海面ハ暗緑ナレバ兀々タル緒山若シクハ沙濱ニ向ヘル海濱ハ明白ナリ、由來魚類ハ暗黒ナル方面ヲ望テ來集スル性アリ、之レ一ハ休憩ノ爲メニシ一ハ産卵ノタメニス、産卵ニ海濱ノ暗靜ナル箇所ヲ撰擇スルハ他ナシ害敵ノタメニ容易ニ其産卵ヲ發見セラレザルノ戒心ナリ、斯クノ如キハ魚類ノミノ偏性ニアラズシア一般ニ仇敵ノ襲來ヲ恐ル、ハ動物ノ通性ニシテ彼ノ家鶏ノ如キモ産卵ノ際ニハ可成外物ノ眼ニ觸レザル庭内ノ一隅若クハ器物ノ蔭影ニ於テスルモ全一ノ理由ナリ、今試ニ一木板ヲ海中ニ投ジオカシカ其周邊ニ魚類ノ群集スルヲ認メン、之レ予ノ屢々實驗シテ疑ハザル處ナリ

其以前松前江差北海道等ハ元、山林鬱蒼ノ地ナリシヲ以テ魚類能ク群來シ隨テ漁業盛大ナリシガ近年濫

伐ノ結果魚類ハ多ク北方ナル北見宗谷等ノ蔭林鬱蒼タル土地ニ轉シ現時ニテハ北方ヲ以テ漁場ノ中心トナスニ至リタリ、是ヲ以テ今ヤ全地ノ漁民ハ如何ニ森林ガ魚類ニ至大ノ關係ヲ有スルカラ覺知シ、爾來海ニ面スル凡テノ建物ハ其漁屋タルト厩舎タルト問ハズ、周邊ヨク屋上ニ至ル迄悉ク黒色ニ塗抹スルニ至レリ、前項陳ベ來リシ如ク今ヤ各地一般ニ這般ノ注意ヲ喚起セルニモ拘ラズ、本郡ノ如キ水産ノ事業ニハ重大ナル關係ヲ有スル山林ヲ斯ノ如キ哀レ無慘ナル状態トナシ、少ク極端ニ云ヘバ、砂漠然タル觀アリ、想フニ之レガタメ將來農業上漁業上大ナル損害アルコトヲ忘レタルハ本郡ノ爲メ將タ邦國ノ爲メ一大恨事ト云ハザルベカラズ諸君宜シク奮發シテ幾多ノ經營アラン事ヲ望ム、事實ガ吾人ニ教ユル一ノ屢々學術ニ優ルコトアリ、曾テ琵琶湖ノ浮島ニ於テ濫伐ノタメ一時其處ノ漁場ヲ荒セシガ後間モナク松樹ヲ繁殖セシメ今ハ全々舊ニ復セシト云フ、特ニ河流ヲ浜ル、魚類ニ對シテ山林ハ大ナル關係ヲ有スルモノナリ、彼ノ獨乙ニテハ山林ノ保護能ク行キ届キテ河流ノ通ズル處兩岸鬱樹密植、片山里ノ與猶鮮魚ノ供給ニ不足ナシ、近ク我北海道ニテモ根室、北見地方ノ山林鬱々タル地方ハ魚類ノ蕃殖夥シク意外ナル山間ニテモ漁獵盛ナリ、前年予ガ調査ノタメ全地ヘ出張セシ時北海道廳林務課長田中讓氏ト同行セシ際毎時晚餐ノ馳走ニトテ釣具ヲ行李中ヨリ取り出シ綸ヲ垂タル、小時ニシテ數多ノ鱒魚、ヲ携ヘ歸ルヲ常トセリ、尙此他ニ面白キ小話アリ、以前北海道廳初メテ札幌ニ設置セラレシ戶警部長官舎（今モ尙存在セリ）ノ前ニ一小流アリ、偶々客來ニ臨デ魚類ノ要アルキハ早々竿ヲ垂レテ鮮魚ヲ膳ニ上セシトカ又或時下婢ガ洗濯ニトテ流ニ下リシニ群魚襲來シテ洗濯ヲナスノ空間ナク僅ニ手ヲ以テ鮭ノ頭ヲ押シ退ケ辛フジテ仕事ヲナシ了セリト、話柄稍誇大ニ渉ルノ嫌ナキニ非ズト雖モ而モ當時魚類ノ如何ニ夥多ナリシカ想像スルニ余リアルベシ

山林ト農業トノ關係

山林ノ荒廢ハ農業ニ密着ノ關係アリ、夫レ森林ニシテ荒レンカ大雨早魃ニ伴ヒテ洪水乾涸ノ慘害立ロニ至リ其結果地方ヲ薄弱ナラシメ終ニハ砂漠ノ如クシ農作物ノ收穫ヲ減ジ、氣候ノ調和ヲ失シ、衛生ヲ害

シ人畜ヲシテ永ク其土ニ居住スルコト能ハザラシムルニ至ル豈恐ルベキニアラズヤ

山林ト洪水

抑山林ニシテ繁茂センカ如何ニ覆盆ノ急雨モ其二割五分ハ樹木ノ枝葉ニ止リ地上ニ落下スベキ残余七割五分モ葉若ハ苔蘚等ニ吸收セラレテ直ニ河海ニ注瀉スルコトナク緩々流出シテ洪水ノ虞レヲナスガ如キ事決シテアルナシ、今日迄ノ實驗ニ徴スレバ樹葉ガ水ヲ含ム分量、松葉ニアリテハ自己ノ重量ニ五倍スル水(松葉一貫目ニ付五貫目ノ水)ヲ含ムベク櫻、梅、櫻、樟等其他ノ雜木ノ落葉ハ七倍ノ水ヲ含ミ、樹下ノ苔蘚類ニ至リテハ殆ト十倍ノ水ヲ含ムベシ、故ニ非常ノ大雨ニテモ彼は吸收セラレテ一時ニ流出スルコトナシ、是洪水汎濫ノ憂ナキ所以ナリ、予ハ本年七月十九日吉野地方ニテ豪雨ニ遭遇セシガ、徑路、瀧畝泥濘甚シク、所謂行路難ヲ感ゼシモ森林鬱葱ノ地ニ入ルニ及デハ溪水潺湲々涓滴ノ洋傘ヲ叩クアルノミ翌晨山ヲ下ル偶々一水アリ源ヲ近傍ノ禿山ニ發シ吉野川ニ至リテ合ス、衝激濁流ヲ吐キ水量漲溢ス而シテ本流ハ滾々岸ヲ洗フテ更ニ異觀ナシ、此如キハ要スルニ森林ノ有無ニ關ス、獨乙ノ林學者ダンケルマン氏曾テキノベル河ノ出水ニヨリテ試驗スル處ニヨレバ樹木ノ繁茂セルタメ洪水ノ高サノ五割五分ヲ減ゼリ、即チ森林ナキトキハ一丈ノ高サニ出水スベキ所森林ヲ仕立テシタメニ四尺五寸ニ減ゼルヲ實驗的ニ證セリ、然ルニ緒山ニテハ最早ヤ枝葉ノ上ニ雨量ノ二割五分ヲモ支フルコトナク、降雨ノ際水ハ地上ニ直瀉シテ土砂ヲ流シ、濁水暴漲所謂地肉ヲ剝ギ山骨ヲ露ハシ遂ニ下流ノ流勢稍緩ナル所ニ至レバ茲ニ土砂ヲ沈澱シテ河底ヲ淺クス、是レヲ以テ旱天ニハ水源乾涸シテ一滴ノ水ナク急雨一度降レバ忽チ洪水ノ禍害ヲ被ル、世未ダ之レガ根本的改良策ヲ講ゼズシテ徒ラ二年々巨萬ノ金額ヲ投ジテ宛然城壁ノ如キ土堤ヲ築クモ遂ニ河泊ノ災ノ免ル、コト能ハズ、元來河流ハ地ノ底所ヲ流レシモ今ハ河底ノ遙ニ地平ヨリ高キモノ多シ即チ神戸市ニ於ケル港川ノ如キモ川下ヲ流車ノ横ギルノ奇觀アリ又淀川ノ如キモ二百年来少クモ一丈二尺五寸以上ヲ埋没セリト云フ、斯ノ如キ例證ハ枚舉ニ暇アラズシテ維新以來洪水ノ慘害瀕々ニシテ近ク明治二十五年ヨリ二十八年ニ至ル四ケ年間ニ於ケル本邦水害ノ狀況ヲ調査セシニ洪水

ノタメ生命財産ノ損害頗ル夥シ、就中土砂ノ田圃ヲ埋没シテ荒廢ニ皈セシメシモノ概密、八十三萬四千六百町步余ニシテ其損害額六千參百八拾萬圓ニ降ラズ、豈驚クベキノ巨額ナラズヤ

山林ト旱魃

既ニ前ニ述ベタル如ク森林繁茂セバ雨水ハ樹木又ハ苔蘚ノタメニ支ヘラレテ一時ニ瀉出スルコトナク、雨後十日モ二十日モ經テ除々ニ流出スト雖モ一旦荒廢ニ皈セバ旱天ニ遇フヤ水源ノ涵養ナキト日光ノ直射酷烈ナルヲ以テ一層蒸發甚シク地上地下忽チ乾涸スルニ至ルベシ、今無立木地ノ蒸發力ヲ百ト仮定セバ開墾地ハ百分ノ九十森林鬱蒼ノ地ハ百分ノ四十乃至五十ニ過ギズ、此ニ由テ此レヲ觀レバ森林ノ有無ハ水分蒸發ニ大ナル差異アルヲ知ルベシ、嗚呼旱魃ハ必ズシモ天ニ非ズ、水源乾涸ハ決シテ命ニ非ラザルナリ、恐ルベキハ森林ノ荒廢ナルカナ

山林ト降雨

更ニ進テ論ゼンガ山林ハ降雨ヲ屢々ナラシムルノ働アリ、是レ他ナシ森林鬱然タル土地ハ溫度常ニ低キヲ以テ海上其他ヨリ多量ノ水蒸氣ヲ含有セル温風ノ此ヲ通過スルニ方リ俄然涼氣ニ催サレテ凝結シテ雨滴トナリ遂ニ降下スルモノナリ、彼ノ雨雲雷氣ガ常ニ鬱葱タル山林ノ梢頭ニ宿スルモ亦此理ニ外ナラズ、而ルニ山林ニテ繁茂セザランカ適々山嶺雨雲ヲ以テ蔽ル、モ下界炎熱ナルタメニ此多量ノ水蒸氣ヲシテ凝結セシムルコト能ハズ反テ之レヲ上昇發散セシム、惜シムベキ事ナラズヤ、曾テ阿波地方巡回ノ際擔夫ヲ備ヒテ鄉導セシメタルコトアリ、行々連日、旱天ノ愁苦ヲ訴フ、故ヲ問ヘバ則チ遙ニ里ノ一隅ヲ指シテ曰ク往年彼ノ雲邊寺後ノ深林ニ雷公ノ住ミシガ維新伐木ノ際逐電シテ行ク處ヲ知ラズ、爾來降雨鮮シト匹夫ノ言固ヨリ一笑ニ資セズ而モ玩味シ來レバ理ナキニアラズ且ツ飯合山林其モノハ直接ニ雨ヲ降ラス能ハズト雖モ旱魃ノ際地下ノ深層ヨリ漸々水ヲ吸收シテ地上近ク濕潤セシムルノ力アリ

山林ト氣候

獨乙ノ如キハ聯邦中普魯西一國ニ尙ホ十六ヶ所ノ森林觀測所ノ設アリテ日夕森林ト氣候トノ關係ヲ調査

シテ夏季ノ炎暑モ之レガタメニ清涼トナリ、嚴寒ノ風霜モ之レガタメニ温和トナリ殊ニ衛生上大ナル關係アル事ヲ確メ得タリト云フ

山林ト衛生

元來植物ハ其生育ニ當リテ動物ノ吐出セル炭酸瓦斯ヲ分解シテ炭素ヲ吸收シ以テ吾人ニ最モ必要ナル酸素ヲ放出ス、其分解力頗ル強大ニシテ一町歩ノ山林ハ能ク五千五百立方メートルノ空氣ヲ清淨ナラシメ得ベシ故ニ一個人ノ吐出セル炭酸瓦斯ヲ分解スルニハ三畝歩ノ森林ヲ要ス
森林既ニ斯ノ如キ有益ナル機能ヲ具フルヲ以テ其中ニ存在セル空氣ハ清涼ニシテ殆ド塵芥ナリ又有毒性微菌ノ浮遊スルコトナシ、然レモ市街ノ如キ繁劇熱鬧ノ場裡ニハ四周塵芥ヲ以テ包マル故ニ吾人ガ一晝夜ニ五十石ノ空氣ヲ呼吸スル者トスルモ自然多量ノ汚物ヲ吸入セザルヲ得ズ、殊ニ山林ノ鬱葱タル中ニハオゾント稱スル一種ノ氣體ニ富メリ而シテ此オゾンハ殺菌ノ力ヲ有スルヲ以テ呼吸器病患者ハ持効アリ、是レヲ以テ獨乙ノ如キ邱樹鬱然タル地ニハ保養院ノ建設アリテ新鮮清涼ナル空氣ヲ呼吸センタメ都人士女ノ來遊スルモノ四時絶ヘズト云フ、以上陳ブルガ如ク樹木ハ獨リ空氣ヲ清淨ナラシムルノミナラズ亦土地ヲモ清潔ナラシムルノ効アリ、微菌學者マザーメット氏ノ說ニ援レバ樹木ノ繁殖セル地ト否ラザル地トノ土中ニ於ケル微菌ノ等差ハ甚ダシキモノニシテ前者ニアリテハ微菌ヲ發見スルスラ稀有ニシテ偶々之レアルモ病源微菌タルモノアルコトナシ、是レ樹木ニ之レヲ驅除スル機能ヲ有スレバナリト云フ、彼ノ市街ニ住スル人ノ庭園内ニ種々ノ樹木ヲ栽フルモ街路ニ楊柳ヲ並植スルモ皆衛生上偉大ノ効力アルハ疑フベカラザルノ事實ナリ、多ク圃ノ周邊ニ樹木ヲ密植スルモ是又至當ノ方法ニシテ樹木ハ其臭氣ヲ吸收シテ空氣ヲ清淨ニスレバナリ、羅馬ノトレフォンタンハ昔時ニ於テマラリヤ熱病ノ夥シク流行セシ土地ニシテ年々蔓延シテ大ニ猖獗ヲ極メ爲メニ居民ノ多クハ其苦ヲ厭フテ他ノ地ニ移住シ一時殆ド無人ノ境土ニ化セントセシガ幸ニ今ヲ去ル三十年前市街ノ空地ニ悉ク樹木ヲ植シカバ惡疫ノ病菌何時シカ消滅シテ今ハ只一片ノ話柄ヲ殘スノミナリ又獨乙ノバ、リア國ゲルメルスハイム、ト云フ

處アリ佛國ニ對シテ極メテ要害ノ地ナリ、鎮台アリテ數多ノ衛戍兵ヲ駐ムルトコロナルガ疫病蔓延シテ今ヲ去ル五十年前(西曆千八百五十九年頃)一萬人ノ兵員中此熱病ニ罹リテ死亡セシモノ五千九百人ノ多キニ及ベリト而シテ西曆千八百五十四年ヨリ千八百六十三年ニ至ル十年間ニ此地ニ二年交迭ニテ派遣セラレタル兵員ノ病没セシモノ平均約三割五分ナルコトヲ知り其國ノ有名ナル博士等研究討論ノ末空地ハ固ヨリ城壁ノ間石垣ノ逼隙迄樹木ヲ挿植セシカバ爾后七八年ヲ經テ患者漸ク減少シ遂ニ西曆千八百七十七年ヨリ千八百八十六年ニ至ル間ニハ益々病勢衰退シテ平均零下一以下ニ至ルノ幸運ヲ得タリ、誰レカ種樹ノ効少シト謂ハン、其他佛國オルエアンズ、ブラグン等ニハ惡疫久シク流行セシカバ是亦樹木ヲ栽植セシヨリ殆ド其跡ヲ絶ツニ至レリ

右ノ如ク山林ノ國土保安上ニ於ケル間接ノ利益ハ夥多ナリト雖モ吾人ガ直接ニ感受スベキ利益ハ一層大ニシテ其要項ニ付更ニ一言セザル可ラズ

山林ト工業トノ關係

今現ニ家屋ノ構造ヨリ造作、建具其他ノ椅子、卓ヨリ凡百ノ器具一トシテ林產物ニアラザルナク加フルニ近年社會ノ進歩ニ伴隨シテ頼ニ林產物ノ需用ヲ廣メタリ、彼ノ鐵道ニ要スル枕木ノ如キハ從來主トシテ栗材ヲ用ヒシモ漸ク欠乏ヲ告グルト共ニ價格暴騰シ檜、松、明檜等ヲ用ユルニ至レリ、此枕木ハ長七尺巾七寸厚四寸ナルモノ一哩即十四町四分六厘毎ニ千九百三十六本ヲ要スベシ、現今本邦軌道ノ長概路三千六百哩アリトスルモ猶ホ之レニ複線並ニ停車場内ニ於ケル多クノ線路ヲモ計算スルトキハ殆ド四千哩以上ナルベシ、果シテ然ラバ之レニ要スル枕木ノ全數ハ七百七十萬四千本ヲ降ラザルベシ、而モ雨露ノ爲メニ朽蝕シテ永久ニ保持スルモノニアラズ、栗材ハ九年松材ハ三四年ニ過ギズ、故ニ鐵道局ニテハ五ヶ年毎ニ遞次新材ト交換スルニ際シ軌道ヲ現今ノ儘トスルモ猶毎年平均百五十四萬八千八百本ヲ要スベシ

願ミテ歐洲諸國鐵道事業ヲ見ヨ、甲都乙市行ク處トシテ此設アラザルハナク、一見蛛網ノ觀アリ、我帝

國又永ク現時ノ状態ニ安ンズベキニアラズ、開明度ヲ進ムルニ從ヒ愈々益々斯業擴張スベク、サスレバ少クトモ現在ニ倍徒スル枕木ヲ要スル際トシテ明カナリ、此巨多ノ材料需用ニ對シテ將來能ク自國ノ木材ノミテ供給シ得ラルベキヤ大ニ疑ナキ能ハズ、且西比利亞地方ノ鐵道布設ニ際シ一時ニ五十萬本以上ノ枕木ヲ屢々我國ニ仰ギシ事アリシモ如何セン一人ノ能ク之レヲ供給スルノ負擔者アルナシ我國ノ如キ山林國ニシテ此ノ如キ抑モ何ゾヤ且又清國ノ如キモ時今漸ク鐵道布設ノ計畫アリテ是レ又多數ノ用材ヲ要求セラル、ニモ拘ラズ、東隣ノ我國ヲ超ヘテ遙ニ米國ヨリ輸入スルガ如キ長大息セザラント欲スルモ豈得ベケンヤ、更ニ一步ヲ讓リテ海外輸出ノコトハ暫ク措テ我國電信ノ柱ハ如何一昨年(三十年)末調査ニヨルニ總テ三十萬本之ニ電話、電燈、電氣鐵道等ニ要スベキ材料ヲ加入スルトキハ莫大ナル需用ナルベシ況ンヤ其保續期限ノ七ケ年ヲ出デザルニ於テオヤ

今ヤ世界各國互ニ雄ヲ爭フノ時其製艦造船ノ必要ヲ感ズルト同時ニ其原料ニ要スベキ木材ノ亦非常ニ巨額ナルヲ想像セズンバアラズ過般三菱造船所ノ新設ニ係ル河波丸(常陸丸ノ姉妹ニテ六千噸)ニ付テ吾人ハ能ク其一般ヲ推測スルニ足ルベシ、何トナレバ該船一艘ニ要スル木材ハ角尺二間材二千三百本ヲ要セリ、此價格凡ソ我五萬四千圓ナリ其ノ内我國產ノ木材トテ些細ニシテ大部分ハ例ノ米國ヨリ輸出セルオレゴンバイン及ビサイアム、ビルマ地方ヨリ輸入セル、チーク(樺ニ似タル材)等ニシテ價格上ヨリ打算スレバ其百分中ノ大部分ハ皆外國ノ輸入ニ係レリ又橫須賀造船所ノ調査ニヨル巡洋艦一艘ニ尺角二間以上長ノ木材少クトモ三千本ヲ要シ、内二千本ハ外國產ノモノニシテ半數ハ彼ノチーク、オレゴンバイン等ナリトス、而シテ殘余ノ千本ヲ幸ジテ我國内ニ求ムト云フ、其状態ニ至ラシムルモノ抑モ執レノ責カ返々返スモ遺憾ノコトナリ

船材トシテ用ユル外軌近隣寸ノ原料トシテ益々其需用ヲ高メタルガ如シ現今我國ノ之レニ從事スルモノ凡テ二百六十九ヶ所一ヶ年ノ製造高二億八千八百萬ダース、其價格六百五拾四萬圓ナリト云フ、曩ニハ專ラ柳、白楊ヲ用ヒシモ今ハ供給盡タルニ垂ントスルヲ以テ漸ク松其他ノ材料ヲ用フルニ至レリ

此他大ニ世人ノ耳目ニ新タナルモノハ木材ヨリ紙及ビ絹糸ヲ製出スルコト是ナリ、元來此製紙ノ業タルヤ未ダ本邦ニテ盛大ノ域ニ達セズシテ唯僅ニ富士、王子等二三製紙會社アルノミ、今一例トシテ其製紙法ノ概畧ヲ說シニ富士製紙會社ヲ以テセンカ、富士製紙會社ハ富士ノ山麓ニ工場ヲ設置シ山腹ヨリ木材ヲ伐リ出シ、直ニ之レヲ鐵索器械ノ作用ニテ工場ニ送り、此處ニテ適宜ノ大サニ截斷シ粉碎シ藥品ヲ加ヘテ更ニ漂白シ最後ニ漉場ニテ紙ニ精製スルナリ、此器械ノ裝置ニテハ一分時間ニ巾五六尺長二百七十尺ノ紙ヲ製シ得ベシト云フ、此有望ナル會社ニシテ將來益々擴大セラレンカ、木材ノ欠乏ハ眼前ニアルヲ以テ今ヤ銳意專心ニ種樹造林ノ計畫ヲナシツ、アリ、尙遠州天龍ノ沿岸ノ山奥ニ氣田工場アリ、御料林ノ縱梅等ヲ截リ出シテ既ニ數年前ヨリ、製紙ノ緒ニ就ケリ、日夕吾人ノ手ニスル新聞紙ヲ始メ種々ノ洋紙類ハ主トシテ此等ノ松、樅、梅ヨリ精製セシモノニシテ原料ノ不足ノ場合ハ之レヲ外國ニ仰ゲリ、而レモ、此原料ヤ一瞥綿絮ト誤認セラレテ未ダ世人ノ注意ヲ惹クニ至ラズ、歐州中殊ニ獨乙ノ如キハ我富士製紙會社ノ十倍大ナルモノモ六十二ヶ所アリテ之レニ從事スル人員ハ一萬人ヲ超過セリ、其等ノ器械ノ裝置ニテハ一ヶ年間間斷ナリ製出セバ三億片以上ノ紙ヲ得ベク其價參千萬圓ヲ下ラズ、而シテサクセン國官林ノ如キハ其山林ヨリ伐出セル木材ノ大部ハ悉ク皆此製紙業ニ用フト云フ盛大驚クニ堪ヘタリ次ニ又木材ヨリ人工絹糸ヲ製スルコト佛人シャルトン氏ニ依テ發明セラレタリ、氏ハ之レヲ世界ノ專賣ニ附セント保シテ之レガ藥品製造法ヲ一切秘シテ世ニ泄サレバ今精細ニ知悉スルコト能ハザレモ其製糸ハ極メテ纖巧ニシテ光澤伸度共ニ蠶糸ト異ル處ナク、人ニ向テ之レガ人工絹タルコトヲ說クモ容易ニ信ズルモノ少シ唯一ツノ欠点トシテハ火氣ニ焦ゲ易シト云フ事ノミ、然レモ彼ノ歐人ヤ欠点ヲ永久ニ欠点トシテ捨テオクコトヲ好マズ、日夜寢食ヲ廢シテ之ガ改良ノ道ヲ講究セザレバ措カザルヲ以テ該人工絹糸モ近來漸ク其品質ヲ改善セリト云ヘバ或ハ遂ニ完全ノ期ニ達センヤモ知リ難シ、佛國ヨリ近着ノ新報ニヨレバ彼ノシャルトン氏ハ頃日貳千貳百萬法ノ巨資ヲ投ジテペーリソン街ニ製絹會社ヲ設出シテ益々此人工絹糸業ヲ盛大ニナスト云フ、今ヤ絹糸ノ需用極メテ廣クシテ之レヲ供給スベキ養蠶國極メテ

狹シ、之レヲ以テ其價日ニ月ニ昇騰スト雖モ此業ニシテ擴張セラレンカ宇内養蠶社會ニ如何ナル影響ヲ與フルカ斷言シ難シト雖モ兎ニ角識者ノ一顧ヲ要スベキ問題ナリ

以上列陳セシ者ノ外原料ヲ煮沸シテ水飴ノ如クシ再ビ凝結セシメテ各種ノ煉物ヲ製作ス、人工象牙、洋傘ノ柄、小刀ノ柄、餅鈕、管、玉、烟管筒等ヨリ今現ニ諸君ガ頸及ビ手ニセルカラー、カフスノ象牙マガイノモノハ皆此木製ノモノナリ、其他往古理學思想ノ欠乏セシ時代ニハ彼ノ燒竈ノ煤烟ヲ空中ニ飛散セシメテ敢テ顧ルモノナカリシニ今ハ種々應用的ノ方法ヲ用ヒテ、タール醋酸、酒精瓦斯等ノ藥品ヲ製スルニ至レリ從テ木材ノ用途モ愈々多キヲ加フト云フ

人文ノ開明ノ度幼稚ナル間ハ一國ニ於テ偶々一ノ發明ヲナスモノアレバ莫大ナル利益ヲ專有スルノ傾アリキ、然ルニ交通ノ利便開クルニ伴フテ各國民ノ智識モ著シク進歩シテ今日ニ在リテハ其發明ヲ以テ永ク其利益ヲ壟斷スルコトヲ得ザルニ至レリ、近來經濟學者ノ唱道スルトコロヲ聞クニ絶ヘズ製造品ノ原料ヲ供給シ得ラル、國コソ最大ノ利益ヲ收得スル富強國ナリト簡ナリト雖モ善ク言フ得タリト云フベシ例セバ紡績器械ノ始メテ英國ニ發明セラル、ヤ、盛ニ印度地方ヨリ綿花ヲ輸入セシメテ紡績糸トナシ年々莫大ノ利益ヲ收メシガ近時原料生産地ニ紡績事業ノ勃興セシタメ本國ノ收入ハ非常ニ減殺セラレタリ此一事ヲ以テ見ルモ國ノ富強ハ粗製品ノ產出ニアリト云フモ敢テ失當ノ言ニアラザルベシ、常ニ外國人ガ未開ノ國民ニ着眼スルモ蓋シ此点ニアルナラン、本邦ハ先天的木材ニ富ミ氣候土質等皆亦之レガ繁殖ニ適ス宜シク之レヲ利用シテ將來大ニ粗製品ヲ製出シテ益々富強ノ基礎ヲ確立センコトヲ鼓舞セザルベカラズ

近來木材價格ノ暴騰ハ何ニ原因スルカ要スルニ需用ニ對スル供給ノ欠乏ナルガタメノミ故ニ早ク森林繁殖ニ着眼シテ之レガ經營ヲナセシモノハ今日ニ及ンデ非常ノ利益ヲ獨占スルニ至レリ則チ吉野地方ノ如キ百五十年前ノ昔ニ於テハ燒畑ト稱シテ年々山ノ一部ヲ燒キ拂ヒテ畑トナシ蕎麥、粟、稗等ノ雜穀ヲ作リテ食料ニ供シ、白米ノ如キハ時ニ病者ニ供スルニ過ギズ、今ヲ距ル百數十年前先覺者アリテ頻リニ其不得策ナルヲ唱ヘ多ク杉ヲ植ヘシメ爾來潛心殖林ニカメシカバ今ヤ全地方ノ一部ニハ非常ノ巨額ナル森林ヲ所有スルモノアリ或ル富豪家ノ森林ノ如キハ立樹數三千萬本以上ナリト云フ以テ其一般ヲ窺フニ足ルベシ、此實例ニヨリ試ニ調査セシニ年五朱ノ利ニテ資本ヲ借り受ケ一ノ山林ヲ仕立シガ百五十年ノ後ニハ地代租稅造林費、是ノ總テノ費用ヲ引去リテ一町歩ニ付優ニ五六千圓ノ純益ヲ得ベシ即チ一年平均一町歩ヨリ得ル純益參拾八圓ニ當ルベシ鬪テ之ヲ本郡ノ上ニ看察スルニ氣候風土又甚ダ林業ニ適ス然ルニ幸ニシテ未ダ曾テ之レガ劃策ノ聲ヲ聞カズ、此好土ヲシテ荒廢ニ委シテ顧ミザルハ慨歎ニ堪ヘザル處ナリ

本郡ト林業トノ關係

夫レ本郡ハ深山ナク幽谷ナク唯一帶ノ丘陵起伏シテ蜿蜒海ニ斗出シ大魚ノ海中ニ浮游スルガ如シ、今此大魚ヲ鯨魚ニ譬ヘンカ鯨ハ扁平肉少シト雖モ其味頗ル美ナリ本郡ハ又扁平ノ土地ノミ其農產物ノ如キ海產物ノ如キ未ダ以テ多シトセズ而モ品質ニ至リテハ頗ル佳良ナリト云フベシ、而シテ其脊骨ノ部分ハ山林ニシテ腹部胸部ノ肉アル部分ハ即チ耕種ノ田圃ニアラズヤ、聞説、此脊骨部タル山林ノ内民有林四千三百九十六町歩余、官有林、六千四百三十四町歩余合計壹萬八百三十餘町歩ノ大部分ヲ占メテ胸部腹部タル耕地ハ一萬五千三百七十七町歩余ナリト、予ノ見ル所ヲ以テスレバ氣候風土共ニ將來ノ山林事業ヲナスニ最モ適スルヲ信ズ、試ニ其收益ノ憶測ヲ打算センカ、一反歩ノ土地ニ松苗六百本(一步ニ二本ノ割)ヲ栽培シ適當ノ手入ヲ加ヘテ、十五年目ニ至リ二百本ノ拔キ伐リヲ爲サバ一本平均六錢トシテ拾貳圓得又十年(初メヨリ二十五年目)ヲ經テ更ニ二百本ノ拔キ伐リセンニ少クモ一本平均貳拾五錢トシテ五拾圓ヲ得ベシ、最後ニ又十五年ヲ經テ(最初ヨリ四十年目)殘リ二百本ヲ伐ラバ平均一本ノ周リ二尺内外徑六七寸トナルベシ、此價壹圓五拾錢トシテ參百圓ヲ得、前後四十年ヲ通シテ總計金參百六拾貳圓余ノ收益ニシテ毎年一反ニ付キ九圓強ノ利益ニ相當スベシ、故ニ今茲ニ一町歩ノ土地ヲ有シテ山林ヲ仕立テンニハ毎年平均九拾圓余ノ收入アルコト必常ナルベシ、併シ此内苗木植込、番人及ビ肥料等種々ノ費用ヲ

要スレ是等ハ皆枝打等ヨリ得ルトコロノ收入ヲ以テ償フテ尙余リアリトス吉野地方ニテハ森林地一町歩ニ付キ一年參拾八圓ノ純益アルコト前説ノ如シ、故ニ本郡ニテモ適當ノ方法ヲ以テ之レガ植栽ヲ計リ吉野ト同一ノ純益ヲ得ルトセバ一萬八百三十町歩ニ對シテ四拾壹萬五千五百四拾圓ノ純益ヲ擧グルコト敢テ難カラザルベシ、之レヲ試ニ五朱利ノ公債價格ニ換算スレバ八百貳拾參萬圓余ノ公債ヲ所持スルト同一ナリ、殊ニ其交通運輸ノ便ヲ論ゼバ吉野地方ノ比ニアラザルナリ、若シ之レガ畫策ニシテ適法ナラバ其收益ノ大ナルコト思半ニ過グルモノアラン（本郡地租拾七萬八千五百五拾六圓余ニ過ギズ）而シテ今日本郡ノ山林ハ如何ナル狀態ナルヤト云フニ實地ニ踏査スレバ一モ山林ト名ヅクベキモノナク唯矮松、疎條、僅ニ其餘息ヲ存スト云フノミ殊ニ御料地ノ如キハ比較的多ク面積ヲ有シナガラ其收入ヲ問ハハ殆ド有ルナク、枯損木下草等ヲ拂ヒ下ゲテ微々タル收益アルノミ、若シ斯ノ地ニシテ鬱葱タル山林地ナラシメバ必ラズヤ四拾壹萬圓ノ收入アルベキヲ今捨テ、顧ミズ却テ損害ヲ流サシムルニ至ル何トナレバ降雨至ル毎ニ土砂ヲ流出シテ溝渠ヲ埋メ田圃ヲ荒スコト少ナカラザレバナリ

地勢地味ノ上ヨリ之レテ古ニ溯リテ考フレバ本郡ハ疑モナク椎、檜、樟等ノ植物帶ニ屬セリ、今試ニ武豐ノ武雄神社、内海ノ淨海寺、及ビ野間神社等ヲ見ルトキハ樟、椎、椿、藪肉桂等鬱茂シオレリ、是レ明カニ古ミリ斧斤ヲ加ヘザルニ依リテナリ、其雜樹蒙密ノ中一ツノ松樹ナキヲ見テモ松林ハ古來本郡古有ノモノニアラザルヲ知ルベシ、想フニ古此地一帶雜樹密林繁茂セシヲ後世濫伐ノ結果荒廢シテ地味瘠薄トナリ、松樹漸々繁延シ來リテ茲ニ新林ヲナスニ至リシモノナリ何トナレバ松ハ如何ナル瘠地ニ於テモ比較的善ク生育スルモノナレバナリ

一宮ノ森林亦維新後濫伐セシタメ地力頗ル衰ヘタリ、彼ノ久米ノ官林等ハ土地ノ交通不便ナリシタメ却テ斧鉞ノ禍ヲ免レ舊ニ依テ鬱葱タルヲ見ル其他交通ノ便アル處ニシテ維新前後此濫伐ニ罹ラザリシハ殆ド稀ナリ彼ノ有名ナル雌雄松、涼松等ノ古木喬々挺々其生長大ニ良ロシキハ古昔地味ノ沃饒ナリシ故ナリ、本郡御料林ノ如キ此儘ニ放棄シテ顧ミザランカ假令、幾十年ヲ經過ストモ益々地力ヲ薄弱ナラシムルノミニテ到底完全ノ生育ヲ見ル能ハザルベシ、此地方ヲシテ肥沃ナラシメント欲セバ將來須ラク落葉ノ拾收下草採收、枝打等ヲ禁止スベシ、喻ヘバ稻ヲ作ルニ苗秀デ三尺ニ至ルモ尙ホ施肥スルコトナクシテ收穫シ連年豐作ナルコトヲ望マバ如何地瘠セザラント欲スルモ豈得ベケンヤ、枝葉ト樹木トノ關係ハ猶衣服ノ如ク將タ食料ノ如シ、故ニ彼ノ獨乙ニアリテハ極メテ沃饒ノ地ニアラザレバ落葉下草等ノ採收ヲナサシメズ而モ三年一回トカ四年一回トカニ制限スルヲ普通トス山林保護ニ注意スルモノハ概ネ斯ノ如シ、殊ニ兀山ノ松樹ニアリテ落葉下草ノ採收ヲナストキ日光地上ヲ直射シテ水氣ヲ蒸發セシメ地力ヲシテ一層薄弱ナラシメ終ニ本郡ノ如キ慘狀ヲ呈セシムルニ至ル

或ハ曰ク枝ヲ伐採セザレバ樹木生長セズト是惑ヘルノ甚シキモノナリ、猶角力者ノ丈ケ高カラザルガ如ク見ユルト同ジク仔細ニ比較セバ寧ロ枝多キモノ長大ニ發育スベシ、殊ニ樹木ノ幼稚ナル際ハ下枝左右前後ニ擴ガリテ自ら根部ヲ掩護シ以テ地上ノ水分ヲ保持シテ自衛ノ方ヲナスモノナレバ妄リニ伐ルベキニアラズ且ソ生理上ヨリ論ズルモ樹木ノ枝葉ハ吾人ノ胃ノ如シ、今植物生理ノ作用ヲ概論センニ初メ根部ニアル白根ヨリ水液ヲ吸收シテ之レヲ葉端ニ輸シ此ニテ消化シ再ビ上方ヨリ營養ヲ給シツ、除々ニ下降スルモノタルハ動物ノ消化作用ト異ラズ彼ノ樹木ノ莖葛ニ纏絡セラレツ、アル者ヲ見ヨ其上部ノミ膨太肥滿シテ部下ハ憂カニ縮少セルモノ此理ニ外ナラザルベシ、是ニ由テ之レヲ觀レバ白根ヲ損ズルハ吾人ノ口ヲ傷フガ如ク、枝葉ヲ伐ルハ胃ヲ損ズルガ如シ、口休胃腸ニ欠点アリテ世ニ肥滿スルノ人アランヤ、枝葉ヲ下スコト頗ル慎マザルベカラズ、然ラバ枝葉ハ如何ナル場合ニモ伐採スベカラザルカ、否次ノ條項ニヨリテ或ル條件ノ下ニナスコトヲ得

- (1) 本末一様ナル用材ヲ造ラントスルトキ
- (2) 十年乃至二十年ヲ經過シテ下枝ノ將ニ朽蝕ニ垂ントシテ生力ノ漸ク衰フルトキ、下層ヨリ隔年毎ニ二枝宛順次ニ伐ル、是等ノ場合ト雖モ枝ノ中途ヨリ伐採セズ、善ク注意シテ其ノ幹部ヨリ伐ルベシ、然カスルトキハ遂ニ卷キ込ミテ無節ノ良材ヲ得ラルベシ

維新前ニ於テ河内ヨリ内海ニ至ルノ間深林蔽翳畫尙ホ暗カリシハ諸君ノ未ダ忘レザル所ナルベシ、而モ今ハ楮山兀然タリ又矢田ノ官林蒙條タルアルモ概シテ二十年以下ノ樹木ノミニテ地方亦大ニ衰ヘタレバ恐ラク三尺以上ノ高サニ及ベルモノ隻手ノ中ニ屈シ得ラル、ニ過ギザルベシ、要スルニ民林官林共其保護仕立方等ニ不完全ナルハ論ナシトス元來農業ト林業トハ車ノ双輪ノ如クシテ偏廢スベカラザルモノナリ、故ニ林業ヲ等閑ニ附センカ農業ハ一時或ル程度迄進行シ得ラルベシト雖モ忽チ荒廢ニ歸シテ恢復スベカラザルニ至ル

以下ノ數例ハ大ニ吾人ニ警戒ヲ促セリ波斯ハ早クヨリ人文開ケ農業盛大ニシテ國民開墾事業ニ熱注シ山巔水崖到ルトコロ殆ド耕地ナラザルハナク、一時旺盛ヲ極メタリシガ惜シイ哉山林保護ニ注意ヲ加ヘザリシカバ旱魃洪水ノ害瀕々トシテ起リ田圃ヲ埋没シ人畜ヲ損傷シ遂ニ其四分ノ三ハ荒涼寂寞ノ境ニ化シタリ

小亞細亞ナルバヒロンハ元有名ナル都府ニシテ街衢整齊四通發達ノ要路ナリシニ是又山林ニ注意スルコトナク一意開墾ニノミ盡力シテ農事頗ル盛ナリシガ山岳崩壞土砂流出シテ今ハ寒村渺茫タル光景ト化シ去リテ見ルモ哀レナリトゾ、先年予ノ外友某氏此地ノ歴史ノ現況ヲ視察探究セントセシニ一週間ノ飲食物ヲ携帶シ駱駝ニ跨リテ出發スルニアラザレバ到達シ難カリシト聞ケリ其零落ノ狀想見スルニ余リアリト云フベシ

シ、リー島ハ地中海ニ横ハリ最多ク小麥ヲ產出シ一時以太利ノ寶庫ト謠ハレシ地ナリシガ山林保護ヲ怠リシカバ水源乾涸河水暴漲ノ災ヲ破ルコト數次可惜田圃ハ非常ノ慘害ヲ被リテ今ヤ住民政府ノ保護ヲ仰ギ荒蕪ノ地ヲ棄テ、他ノ土ニ移住スルノ止ムヲ得ザルニ至レリト云フ鴻嘆ノ至リナラズヤ

伊多利領チロリー州ノ如キモ往古ハ農事發達セシガ漸ク濫伐ノ轍ヲ踏ミ、屢々、洪水旱魃ノ被害ノタメ百年以來途ニ耕地ノ四分ノ一以上ハ荒廢地ニ變ゼシト云フ、其他西班牙葡萄牙希臘等ノ諸國ノ皆此濫伐ノ覆轍ヲ演ジ山林保護ノ必要ヲ忘レシ結果田園荒廢四顧凄愴一時富強ヲ誇リシ諸國ノ今ヤ貧弱國ノ悲境

ニ沈メリ、般鑑遠カラズ思ハザルベケンヤ、之レニ反シ獨乙、佛蘭西、等ノ列強諸國ノ今日霸權ヲ宇内ニ爭フテ得ル所以ノモノハ何ゾヤ他ナシ、是レ林業農業並進發達ノ實ノミ、就中佛國ノ南方ナル砂漠ノ地ニ曾テ大ニ樹木ヲ植シガ今ハ森々タル茂林トナリ國民ノ財源トナリシガ如キハ賞賛ノ外ナルベシ、況ンヤ其市街村落、荷モ、樹木鬱葱タラザル所ナシ之レヲ本邦濫伐ノ弊ヲ踏ミシ今日ニ比スレバ霄壤モ霄ナラズ、噫々歐洲列國ノ富強ヲ致ス、豈ニ偶然ナリトセンヤ

畢竟山林ノ盛衰ハ直チニ土地ノ興廢ニ關ス、撒巴拉ノ大砂漠モ昔ハ鬱葱タル綠林平野相連リシニ濫伐ノ結果竟ニ彼レガ如キ悲境ニ變ゼリ、桑海ノ變何ゾ獨リ怪ムニ足ランヤ

吾人ノ屬精ナル祖先ガ經營慘憺或ハ利害ヲ講究シ或ハ收支ヲ計算シテ開墾スベキ土地ハ開墾シ、殆ド余地ヲ余サバリシニ非ズヤ、而ルニ小利ニ眩惑シテ開クベカラザルモノ迄ヲ拓キ耕スベカラザルモノ迄耕ス宜ナリ河水ノ欠乏ヲ感ズル本郡ノ如キモ亦然リ、此處彼處ノ低地若シクハ岡巒ノ間ヲ堰キテ數十百ノ溜池ヲ作りテ僅ニ一縷ノ給水ニ旱天ノ災ヲ免レンコトヲ期ス、抑モ亦迂策ナラズヤ、聞クガ如クンバ本郡一年ノ雨量、五尺九寸四分即チ一町歩毎ニ九萬八千九百二十八石ナリト、若シ夫レ山林繁茂シテ水源涵養セラレンカ、一町歩ニ付一日凡ソ二百七十一石ノ水ハ常ニ緩々流出シテ廣ク田圃ヲ滋潤スベシ、何ゾ苦シンデ溜池ヲ堰ンヤ

曾テシユワイツ國ローテンバツハ市ニ於テ千八百九十三年仲夏連日旱天金ヲ銷シ石ヲ炒ルノ時水源ヲ異ニスル二三ノ河流ニ就テ試驗シタルコトアリシニ其禿山ヨリ出ヅルモノハ其年ノ九月三十日ニ至リテ最低トナリ、其半ハ森林ヲ以テ蔽ハレタル山ヨリ發スルモノハ翌年一月十三日ニ最低トナリシモ鬱鬱タル山林ヨリ出ヅル水流ハ竟ニ最低ニ至ラズシテ持續シ翌年四月十三日ニ至リ始メテ其最低水ニ達セシト云フ、勿論山林ノ種類ニヨリテ其水ヲ含ムニ多少アリ、杉、樟、椎、櫟、赤楊等水ヲ含ムコト最多クシテ能ク霔間濕潤ノ地ニ生育スベシ、上來陳述セシ森林ノ効用ヲ約言セバ、森林ハ水源ヲ涵養シ土砂ヲ扞止シ空氣ヲ清涼ニシ温度氣候ヲ調和シ、雨雲ヲ醸シ土地ヲ沃饒ナラシムル等最モ主トナルモノナリ、今

ヤ本郡ノ如キ地力衰へタル土地ニ森林ヲ造營セントセバ最初ヨリ他樹ヲ植付クルモ其繁茂難キヲ以テ先ツ松林ヲ繁殖セシメ、落葉採集ヲ禁シテ漸ク地力ノ恢復ヲ待チテ樟、椎等ノ雜樹ヲ挿植シ以テ百年乃至二百年ニ至ラバ森林繁茂シテ其澤ノ及ブ處少ナラザルベシ或ハ漁業ニ或ハ農業ニ或ハ工商業ニ各種ノ發達日ヲ期シテ待ツベク邦國ノ富強庶幾スベシ

之レヲ概論スルニ本郡ハ魚附林ノ關係ヨリ水源ノ涵養ヨリ一般人生ノ利益上ヨリ將タ國土保安上ヨリスルモ林業改善ハ焦眉ノ急務ナリ、官民協同一致シ銳意之レガ經營ニ從事シ濫伐ハ固ヨリ開墾落葉下草ノ採收等一時之ヲ禁停シテ以テ除々ニ地力ノ恢復ヲ講ゼザルベカラズ、否ラザレバ竟ニ彼ノ歐州ノベルシヤシ、リール島ニ於ケルト同一ノ悲劇ヲ演ジテ終ニ此前途有望ナル土地ヲシテ秋風落葉ノ悲境ニ陥ラシムルノ虞ナシトセズ、諸君夫レ大ニ奮勵努力セズンバアルベカラズ

記者曰ク博士ノ斯學ニ蓋與ナル詳々數萬言、聲玉振ノ妙アリ而モ説ク處一ツトシテ今世ノ急務ニアラザルナシ生等、謝勇自ラ度ラズ、忘ニ筆記ノ任ニ膺ル惜シムラクハ此金王ノ辭ヲシテ遂ニ瓦礫ニ化セシムルヲ齒牙ノ責固ヨリ生等ニアリ看者諒セヨ

(明治三十二年十一月)

移栽シタル植物ニ於ケル人工的根壓ノ應用

武田總七郎

植物ヲ移植シテ枯死スルコトアルハ其根ノ水分吸収一時杜絶スルガタメ葉ノ蒸發スルトコロノ水分ヲ補フコト能ハザルニ依ルコトハ人ノ知ル處ナリ、イーエス、コッフ氏ハ人工ヲ以テ根ニ根壓ヲ起サシメ水分ヲ吸収シ体中ニ液流ヲ起サシメ以テ其枯死ヲ防ガントシ之レガ試驗ヲ施行セリ、其法少量ノ蒸溜水ヲ容レタル器ヲ其樹ト全等以上ノ高サニ支へ、之レヲ細管ニテ導キ一根ノ切斷面ニ接續セシメタリ、而シテ其壓力ノ結果ハ大抵速ニ現ハレ最モ早キハ四十八時間ニシテ已ニ其結果ヲ表ハセリ、千八百九十六年五月下旬ニ試驗シタル樹ハ四月ニ移植シタルモノニシテ移植以後毫モ新芽ヲ出スノ模様ナキモノナリシ而ルニ施術後六日ニシテ芽ハ能ク開展シ充分ニ新葉ヲ見分ク得ルニ至レリ、又四月中旬ニ移植シタル樹

ハ已ニ數芽ハ開展シタルモ其後乾燥ノタメ其芽ハ枯乾シタリ、而ルニ五月中旬ニ於テ施術ヲ行ヒタルニ一週間後ニ於テ數多ノ新芽膨大シ次ノ一週間ニ於テ葉ハ盛ニ發育セリ

千八百九十七年ノ春ニ於テ二十本ノ林檎樹ヲ取り寧ろ瘠薄ナル乾燥土ニ移植セリ、移植前四日間ハ採取リタルマ、放置シ、別ニ注意ヲ與フルコトナク、四月下旬ニ之レヲ移植ノ而ル後隔株ニ施術ヲ行ヒタリ其結果ハ速ニ表ハレ一週間後ニ於テ壓力ヲ與へタル株ハ其新芽ノ展開ヲ始メ二週間ノ後テ各株皆能ク發育セリ而シテ其後ノ二週間ハ乾燥且ツ晴天ナリシニモ拘ラズ、只一株ヲ除クノ外ハ皆其葉ノ展開ヲ繼續セリ、而ルニ施術セザル樹株ノ内只一ハ此時ニ至リテ初メテ新芽發育ノ兆候ヲ呈セシモ他ノ樹種ハ少モ其兆候ナク、其後ニ至リ灌漑ヲ行ヒ土地ヲ濕潤ナラシメタルニ至リテ始メテヨク發育シタルモノ二株ハ遂ニ發育セズ、最モ後ニ至リテノ結果ヲ比較スルニ殆ド其差アラズ、之レニ依リテ見レバ壓力ヲ與フルノ必要ハ發芽ノ始メニ於テ存スルコトヲ知ルベシ

樹ヲ伐採シ之レニ水ヲ注射スルトキハ發芽スルコトハ往々之レアルノ事實ナリ之レ前述スル處ト同理ニヨルモノナラン、右試驗ハ皆三年生迄ノ越年樹ニ付テ行ヒタルモノニシテ其施術ノ裝置方法ハ甚ダ簡單ニシテ只倒置シタル壘ヲ用ヒ之レニ蒸溜水ヲ入レ之レヲ樹側ノ柱上ニ支ヘゴム管ヲ接續シテ之レヲ樹根ニ連絡セシメ而レテ壘ニハ細キ硝子管ヲ挿入シ以テ空氣ノ壓力ヲ受ケシメタリ、如斯シテ根壓ニヨリ根

ノ吸収シタル水分ハ其發芽迄ニ十立方センチメートルヲ超ヘタルハ稀ナリ又生活樹ハ壓力ノタメ能ク幾許ノ高ニ水ヲ其体中ニ上昇セシムルモノナルヤヲ試驗スルタメ氏ハ林檎ノ梢ヲ取り一ハ之レヲ蒸溜水中ニ浸シ他ハ之レヲ五、五乃至五、七五フイート高ニ裝置シタル容器中ノ蒸溜水ニ接續セシメタルニ殆ト十八時間ニシテ水ハ莖中ヲ上昇シテ其頂端ヨリ滴出スルニ至レリ而シテ百十八時間ノ後ニ於テ前者ハ十七%ノ重量ヲ増シ後者ハ二十六%ノ重量ヲ増シタリ此法ノ實地應用上ノ價值ニ關シテ氏ハ左ノ如ク結論セリ樹ニシテ其樹皮ノ凋萎シタルモノ及ビ不時ノ水分欠乏ノタメ芽ノ黒變シタルモノ又ハ乾燥土ニ於テ嚴寒

ノタメ根ノ枯死シタルモノハ此方ニヨリテ救済スルコト能ハズ、而レモ樹ニシテ假ヒ濕氣ノ供給充分ナルニモ拘ラズ、或事情ニヨリ葉ヲ開クコト能ハザルモノハヨク此法ニヨリテ好結果アルヲ普通トス此法ハ殊ニ樹木ヲ移植スル際其枝葉ヲ伐採スルヲ欲セザル場合ニ適用シテ大ニ便利ナリトス

(明治三十三年二月)

本縣ニ於ケル市町村有林野ノ整理ニ就テ

愛知縣技師 三 溝 謹 平

禿山ニ檜ヲ植ヘ空谷ニ杉ヲ挿シ瘠地ニ松ヲ配置スルヲ以テ造林ノ業成レリトナシ天然ノ水路ニ適スレハ即チ材ヲ出シ適セサレハ即チ其腐朽ニ任カシ以テ利用ノ道立チタリトナスモノ比々皆然ラザルハナシ世人ノ林業林學ノ何者タルヲ解セサルヤ誠ニ久矣ト云ヘキナリ彼等ノ檜ヲ植ヘ杉ヲ挿シ松ヲ配置シ以テ能事終レリトナスモノ是レ固ヨリ合理的ノ森林施業ト云フヘカラス合理的ノ森林施業トハ換言セハ林區ノ改正ニシテ恰モ田區改正ノ如キモノ然リ即チ市町村林ノ整理トハ此合理的ノ森林施業ノ謂ニシテ所謂土地其モノニ附帶シタル權利義務ノ關係ヲ解除シ共有地ヲ分配シ散在錯雜シタル土地ヲ合併スル等ノ諸件ヲ實行シ或ハ利用或ハ造林ノ方法ヲ計畫スル是レ之ヲ合理的ノ森林施業ト云フナリ
見ヨ本邦ニ於ル森林中其最モ多數ヲ占ムルモノ是ヲ何トカナス市町村共有林其大多數ヲ占ムルモノナリトス而シテ其最モ荒廢シ或ハ經濟上ノ保護ヲ損スルモノ亦市町村共有林ヲ以テ其首位ヲ占ムルモノト爲スナリ畢竟共有林ハ私有林ト相違シ所有者一人ニアラサルヲ以テ各權利者ハ隨意ニ伐木採草シ爲ニ山林ノ保護怠慢ニ流レ野火入ヲ以テ養草ノ術ヲ得タルモノト誤解シ屢々山頭山腹ヲ禿露ト變セシムルカ爲メ風雨一たび至レバ肥土忽チ流失シ從テ荒廢ニ歸スルモノ其數計ルヘカラス若シ夫レ共有林ノ監視ヲ等閑ニ附シ整理ノ方法ヲ講セサランカ害毒ノ及フ處啗ニ町村ノミニ止マラサルナリ況ヤ市町村共有林ノ整理ハ市町村自身ノ財政ヲ確實ニシ町村ノ發達ヲ促進スル原動力タル以上ハ市町村林野ノ整理豈忽諸ニ付シ

テ可ナラン哉抑モ市町村ハ其町村事業ヲ經營スル爲ニハ必要ナル經費ヲ支出スルノ義務ヲ負擔セサル可カラス從テ其經營ノ公共事業タル以上ハ法律ノ範圍内ニ於テ如何ナル事業ヲモ營ムコトヲ得ルノ特別ナル權能ヲ有スルモノトス社會ノ發達ニ從ヒ市町村事業ノ益々増加スヘキハ理ニ於テ當ニ然ラサル可ラサルノ處從ツテ物價及ヒ各種賃銀ノ騰貴モ亦萬已ムヲ得サルノ處ナリトス即チ同一事業ヲ營ムニ尙ホ年毎ニ經費ノ増加ヲ見ルハ亦免ルヲ得サルノコトナリトス要スルニ今日以後世運ノ進歩ト共ニ市町村ノ負擔經費モ益々増加スルノ傾向ヲ有スルモノナル事ハ吾人カ喋々ヲ要セスシテ既ニ明了ノ事ナリトス夫レ然リ市町村ノ貧富ハ自治分權ノ名實舉否ノ依テ分ル、處市町村收入ノ策ヲ講セサル可カラサル所以其レ茲ニ於テカ必要ヲ見ル借問ス市町村收入ノ方法ハ如何曰ク大別シテ是ヲ二種トス

(一) 公權ニ基キタル收入

(二) 私權ニ基キタル收入

市町村カ私權ニ基ツキタル收入ヲ有セサル可カラザルハ市町村ノ事業ヲ發達セシムルニ最モ必要ナル事項ナリトス蓋シ市町村ノ主ナル收入ハ公權ニ基ツキタル收入即チ市町村稅ヨリ成ル者ニシテ市町村稅ハ必ス町村會ノ決議ヲ經サルヘカラサルモノ代議機關ノ性質トシテ其意思即チ決議ノ屢々變更アルハ數ニ於テ免カルヘカラサル處此變遷圖ルヘカラサル意思ノ爲メニ市町村事業ノ發達ヲ損スル弊害ヲ遮斷シ且ツ限リアル市町村稅徵收ノ不足ヲ補充セントスルニハ各市町村ハ永久不動ニ且ツ私權ニ基キタル收入ニ供スヘキ市町村自身ノ共有基本財産ナルヘカラス而シテ其ノ財產ハ不動產ヲ以テ是ヲ確實ナルモノトス就中森林原野ハ其ノ最モ堅固ナル性質ヲ有スルモノトナスナリ是レ森林原野ハ地盤廣闊財源遠大ニシテ自然ニ共同使用ノ經濟ニ適スル而已ナラス其賣買進退モ自ラ田畑宅地ノ如ク輕便ナラサルニヨリ安リニ其原資ヲ失ハサルノ實アレバナリ
市町村ハ土地森林ヲ所有スヘキヤ否ヤノ問題ニ就テハ舊派經濟學者ノ說ニハ國家及ヒ市町村ノ如キ公共團體ハ土地森林等ノ財產ヲ有スヘカラスト雖モ其說ノ偏頗ニシテ今日既ニ陳腐ニ屬シタルハ明瞭ノ事實

ナリトス今ヤ土地森林ヲ市町村基本財産トシテ所有スヘキノ必要アルコトハ學者及ヒ實際家間ニ於テノ定説トナレリ而モ共有地ヲ町村内各自ニ分配シ之ヲ私有物ト變シタルノ例ナキニシモ非サレ共此共有の組織ヲ變更シ私有地トナスニ付テハ其ノ地ノ經濟ヲ進メ收穫ヲ増ス等ニ付キ勢ヒ已ムヲ得サルカ如キ左ノ特例ヲ除クノ外市町村森林整理ニ付テハ私經濟ノ主義ノミヲ以テ各自ニ分與ヲ許サ、ルナリ

一、森林トシテ使用シ難キ分

二、森林トシテ保有スルヨリ察ロ他ノ目的ニ使用セハ多額ノ利益ヲ永遠ニ期スヘキ見込確定セル分故ニ秣及ヒ肥料採收ニ必要ナル部分及ヒ此目的ニ供スルヲ以テ適當ナル場所ハ之ヲ林地面積ヨリ削除シテ共同秣場トナシ或ハ各自ニ分配スルコトアリト雖モ純然タル林地ニ於テハ林木植栽ノ方法ヲ劃定シテ之ヲ利用シ無產無爲ノ徒ニ事業ヲ與ヘ糊口ノ途ヲ得セシムルト共ニ市町村基本財産ノ増殖ヲ計ルヲ以テ市町村森林野整理ノ本旨ト爲スナリ歐洲ニ於テハ市町村ニシテ廣大ナル森林ヲ有スルモノ尠カラス佛國ノ如キ市町村有森林ハ實ニ二百萬町歩ヲ超ヘ同國總面積ノ百分ノ四ニ當レリ又獨逸ニアリテハ市町村有森林ハ二百十萬町歩ニシテ尙此外ニ森林ト經濟上同質ナル組合所有森林三十五萬町歩アリ此ノ二種ノ森林ハ獨逸總面積ノ百分ノ四半ニ當レリ彼レ歐洲ノ如キ共有地ニ欠乏ヲ訴フルノ國ニシテ特ニ他人ノ所有地ヲ借り或ハ買収シテ共有林ヲ造成スルノ一事ニ徵シテモ其共有林ノ如何ニ必要ナルカハ吾人カ喋々ヲ待タスシテ明カナル事實ナリトス加フルニ森林經濟ハ區々タル小規模ヲ以テセハ其目的ヲ達スル蓋シ遠キニアリ即チ其規模ヲ大ナラシムルニアラサレハ未タ以テ吾人カ目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ市町村有森林ヲ分配シテ私有林ニ變スルノ不得策ナルハ是又明了ノ事實ナリトス本邦ニ於ケル森林即チ市町村共有林ノ傾向ヲ回顧セハ轉々長嘆ノ聲ヲ放タルヲ得サルノ境域ニアリ是レ余カ特ニ市町村森林ノ整理ヲシテ目下ノ急務ト叫フ所以ナリトス

以上述べルガ如ク森林ハ市町村ノ基本財産トシテ生命トシテ甚タ必要ナル而已ナラス國家的經濟上ニ及ホス利害得失又少小ニアラサルナリ既ニ然リ其一般自治ヲ許サスシテ森林法上森林監督ヲ規程セシ所以

ナリトス若シ夫レ市町村森林ノ如キ公有林ニアリテハ益其監督ヲ嚴重ニセサル可カラサルナリ歐洲各國ニ於テハ市町村有森林ノ管理ニ關シテハ其制限尤モ輕キモノト雖モ尙政府ハ市町村ヲシテ森林經濟ノ方案ヲ作ラシメ而シテ後始メテ茲ニ認可ノ指令ヲ下スノ制ヲ設置シアリ其嚴ナルモノニ在テハ當該官吏直チニ市町村有ノ森林ヲ管理シ尙其經濟方法ニ關シテハ毫モ市町村ノ容喙ヲ許サ、ルナリ

本縣ニ於テハ是等監督獎勵ノ方法ヲ折衷シ市町村共有林野ヲ整理スル爲メ來三十四年度ヨリ技術員ヲ設ケ市町村ノ請求ニヨリ森林整理ニ從事セシメ又一方整理ヲ獎勵センカ爲メ特ニ補助金貳千圓ヲ支出スル事ニ決定セリ彼レ歐洲ノ如キ特ニ民權ヲ重スルノ國ニシテ尙同家ハ之ニ干渉スルヲ是認セリ本縣ニ於ケル今回ノ整理方法ハ又適當ノ處置ヲ得タルモノト云ヘキナリ其獎勵補助金ノ如キ森林其物ノ性質トシテ縣民ノ義務トシテ之ヲ負擔スルニ吝ナルヘカラサル者トス彼佛國ノ「ハシチス」「アルプス」地方ニ於テハ森林亂伐ノ爲メ千八百五十六年ニ於ケ大洪水ノ災害ヲ蒙リタリ當時ノ工學者「サレイユ」氏ハ之ヲ救治スルノ策トシテ植樹說ヲ主張セシメ遂ニ四年ノ後ニ於テ政府ハ樹藝條例ヲ發布スルニ至レリ而シテ該法律ノ實施ニ當リ實ニ左ノ二方法ヲ以テセリ曰ク人民ノ植樹スルモノニハ相當ノ保護ヲ與ヘ一方壓制ナル土地沒收規則ヲ設ケ再ヒ森林ヲ栽培セシメタリ又伊太利ニ於テモ森林カ洪水ノ害ヲ防キ又ハ公安上ニ關スル点ヨリ山岳地方ノ造林ニ勉メタリシニ更ニ千八百八十二年ニ至リ法律ヲ以テ漸次荒蕪地ニ造林スルコトヲ布告シ尙費用トシテ一町歩ニ貳拾圓餘ヲ豫算シ又連年ノ保護費トシテ百町歩毎ニ貳百四十五拾圓ヲ豫算シ以テ大ニ獎勵ノ方法ヲ講シタリ其他埃太利獨逸等皆同様ノ手段ヲ以テ是ヲ獎勵セリ即チ本邦ニ於ケル共有林ノ整理造林ニ對シテハ政府ハ國庫金ヲ支出シテ是カ補助ノ道ヲ講シ國家的經濟ノ上ニ於テ無限ノ幸福ヲ收集スルノ策ヲ取ラサル可カラス否ナ吾人ハ政府ノ獎勵補助策ヲ以テ國家ニ對スル至當ノ義務ナリト信スル者ナリ然リ政府ニシテ補助ヲ實行シ縣ハ縣ノ事業トシテ獎勵補助ノ道ヲ講スルニ至ラハ共有林野ノ整理ハ蓋シ至難ノ事ニアラサルナリ吾愛知縣ニ於ル共有林整理方法ハ實ニ本國ニ於ケル模範林ヲ作成スルモノナレハ市町村人民ハ縣ト共ニ氣脈ヲ通シ奮テ百年ノ長計ヲ劃策スヘキナリ而モ森林ニ

投スルノ資本ハ固ヨリ一時ノ消費ニアラス市町村將來ノ公益ヲ進捗シ及ヒ其收入ヲ増加スルノ事業タル以上ハ經費多端ヲ口實トナスヘカラサルハ勿論經費支出ニ餘裕ナキ市町村ニ在リテハ市町村制ノ規定ニヨリ大ニ公債ヲ募集シ或ハ農工銀行ヲ利用スルモ敢テ不可ナカルヘシト信スルナリ夫レ然リ吾人ハ今ヤ本縣下ニ於ケル現況ヲ觀察スルニ國力豊富ニシテ整理費用ノ支出ニ困難ナルモノニアラス即チ此負擔力ニ富ルノ時ニ於テ將來ノ計劃ヲ爲スハ實ニ市町村自身ニ對シ忠實ナル而已ナラス後世子孫ニ對スル至極ノ恩惠ト言フヘキナリ是レ吾人カ市町村有林野整理ヲ主張シ又共有林野ヲ所有セサル市町村ニ對シ他ノ所有地ヲ借入レ又ハ買收シテ此確實ナル基本財産ヲ設備センコトヲ勸誘スル所以ナリ市町村タルモノ區々タル事情ニ拘束サレ共有林ノ整理ヲ等閑ニ附セス着々トシテ其歩ヲ進メ間接及ヒ直接ノ利益ヲ收得シ市町村ニ於ル基本財産ヲ確實ニシ世運ノ進歩ト共ニ益々發達ノ域ニ至ラン計畫ヲ希望シテ止マサル者ナリ (明治三十三年)

我國ニ適當スル外國樹種ヲ紹介ス
附林學博士本多靜六君ノ栽培談

東京 早稻 田 農園

我國ハ寒温二帶ヨリ熱帶ニマデ亘リ四方海ヲ周ラシ山嶽起伏、氣象ノ變甚ダシク、水蒸氣ノ發散夥シキガ故ニ樹木ノ種類又多ク其檜、杉、樟、樺等ノ如キ實ニ世界屈指ノ良樹ナリ然リ日本固良樹多キモ世界ノ大、地球ノ廣、珍木又少カラズ、昔者、僧榮西茶樹ヲ支那ニ得テ今日ノ產ヲナシ、青木昆陽甘藷ヲ紹介シテ邦人タメニ飢ヲ免ル本園不肖唯我國適當ノ外國樹種ヲ紹介セントシテ調査多年遂ニ下文ノ數種ヲ得タリ初本園ガ其適當ト認メタル種類ヲ調査シ終ルヤ幾多専門大家ノ門ヲ叩キ其說ヲ聞リ殊ニ林學博士本多靜六君ハ最モ斯舉ノ國家ニ有益ナルヲ贊シ、終始幫助ヲ與ヘラル、余輩此良樹紹介者ノ榮與ヲ荷フモ其實際ハ先生ニ負フ所最

モ多シ、蓋シ先生ハ我農科大學試驗地ニ於テ夙ニ是等諸樹ノ栽植ヲナサシメ實驗セラレタルナリ余輩ガ撰擇セル種樹尙數種アルモ皆多クハ試驗中ニ屬シ果シテ我國ニ適スルヤ否ヤヲ知ラズ、唯下文掲グル所ノモノハ皆現ニ生成繁茂シ居ルモノナレバ之レヲ我國人ニ勸ムルモ失敗ナキヲ信ズ、依テ余輩ハ此種樹輸入ニ際シ爰ニ博士實驗上ニ係ル談話ヲ乞ヒ之レヲ諸君ニ報ズ

本多林學博士栽培談
第一、ギガント世界爺

是レガ世界中デ一番大キナ針葉樹デアル、尤モ潤葉樹ノ中デユーカリブタスト云フヤツハ矢鱈ニ丈ハカリヒヨロノト長クナル樹デアツテ、濠洲ニアル其一種ノ樹ハ此世界爺ヨリ高サハ高ヒ、併シ其幹ノ太サカラ云フト比ベモノニモナラナイ、畢竟一方ハ身幹モ體驅モ揃ツテ出來タ大關ト一方ハ丈ノ方ガ伸タ瘦力士ノ様ナモノダ、ソコデ面白イコトハ此ギガント世界爺ト云フコトデアル是ハ學語ノ Sequoia Segr. Treeヲ半譯シタノデアルガ、御承知ノ通り此ギガントハ英語デ「ヂヤイガントツク」トカ「ヂヤイアント」トカ申スト同ジ語デ「ヂヤイアントツク」ハ「巨大ナル」恐ロシキ「非常」ナドノ意ヲ含ム「ヂヤイアント」ハ巨人ト云フ事デ巨眼長身聲雷ノ如シ處デナイ、彼ノ小人島ヘ行ツタ朝夷カガリハルスナドノ様ナ人デアロウ

世界爺ハ羅甸語ノ Sequoia ヲ其マ、漢字ニ當ハメタノデアルガ是ハ非常ニ面白イ、即チ爺ト云フ字ハ老爺ト書テ老人ノ事デアル、此爺ノ字ハ老耄シタ意氣地ナシノ老人ニモ使フガ併シ尊重スル時ニ使フノガ本意デアツテ、支那デハ高貴有徳ノ人ヲ尊敬シテ大爺ト云フ事デアル、ソレデ或人ノ云フ事デアルガ日清戰爭ノ頃我國ノ新聞デ李鴻章ノ事ヲ惡ク云フツモリデ「大爺」ト書イタ、ソースルト支那人ハ之レヲ見テ「是ハ面白イ日本ノ人ハ李鴻章ニ最上ノ敬意ヲ表シテオル」ト云ツタ

ソコデ此、ギガント世界爺ハ世界中デ一番大キナ樹デアアルカラ其學語ノセクワイアニ對シテ直チニ世界

爺ノ字ヲハメタノハ實ニ適當デ眞實デ寸分ノ申條モナイ、是ハ僕等ノ尊敬スル田中芳男君ガ譯シタノデアルガ我々モ早速同意シラ之レヲ用フルコトニシテオ

扱話ガ大分横道ヘハイツタガ後ヘ戻ツテ此世界ノ怪物世界爺ノ事ヲ話シマシヨウ

前ニ申シタ通り、此樹ハ針葉樹中ノ一番大キナモノデ其高サハ五百六十六尺ニ達スルモノガアル、此五百六十六尺ハ即チ陸地ノ里程一町三十四間程デアリマシテ此方ノ端カラ彼方ノ端迄ハ随分長ヒモノデアロウ、是ヲ眞直ニタテ、詠メテ見ルト思ヘハ大抵想像ガツクデアロウガ中々巨大デアロウ、此木ノ切株ニ木挽ダノ近所ノ男女老幼ナドガ腰ヲカケタリ立ツタリシテ寫眞ヲ取ツタモノガアルガ、丁度其上ニ三十八人並ンデオル高サ二丈三尺余ノ處マデ此樹ノ皮ヲ剥ンレヲ圓クシテ造ヘタ筒ノ中ニハ大人ガ四十人ト小供ガ百四十人ト其中ヘ又クラビーヤト云フ西洋ノ樂器ヲ入レテ音樂ヲ聞カセル事ガデキル而シテ又此木ノ幹ヲ墜道形ニ穿テハ優ニ二頭立ノ箱馬車ヲ通ズル事ガ出來ル

斯様ニ大キナ樹デモ其實、即チ松デ云フ所ノ松毬ハ誠ニ少サクテ僅ニ鶏卵大シカナクテ、形ハ杉ニ似テオル、其中ニアル種子モ扁平ニ輕イモノデ僅ニ二分位シカナイ、其色ハ黄デ色合ト云ヒ形ト云ヒ總テ「ヒバ」ト杉トノ中間ニオル

此樹ハ命數ハ甚ダ長クシテ二千年前後ノモノモ少クハナイ、心材ハ赤褐色デ甚ダ輕イガ保存期ハ長イ邊材ハ黄地ヲ帶ビ其幅三四寸ニ過ギナイ、樹皮ハ綿狀デ稍杉ノ皮ニ類シ厚サ一尺六七寸ニ達ス、樹ノ形ハ圓錐形ヲナシテ下部ノ枝ハ地ニ沿テ長ク延ビ公園樹トシテ甚ダ立派デアアルガ其老大ナルモノハ枝下三十余間即半町許リ上ラナケレバ枝ガナイホド遙ニ上ニア

此木ガ世界ニ知レタノハ僅カ五十年程以前ノ事デアアルガ其中一二ノ小林ハ共有トシテ保護セラル、事ニナツタ繁殖ハ種子又ハ挿木ニヨリテスルコトガデキル適潤ナ沃地ヲ好ミ土地ノ凍結スルトコロニ於テ直接ニ陽光ト風トヲ受クルトキハ枯死シ易ヒ

此木ノ種子ハ發芽スレバ「杉」ノ形ヲナスガ子葉ハ杉ノ様ニ二個デナクテ三四個若シクハ五個ヲ有シテ

オル、此樹ノ栽培ハ餘程六ヶ敷ガ注意スレバ生育スルデアロウ、發生ハ左程ニ面側デナイ、已ニ農科大學ノ苗圃ニモ育テ、オル、蒔付及ビ栽培法ハ先ヅ杉ト同ジデヨイガ冬ノ霜除ヲ十分ニシナケレバナラン大學デハヨシズデ霜除ヲシテ根本ニ落葉ヲ充タシテオク、然シ之レハ苗ノ間ダケデ後ニハ霜除モイラナクナル、杉ヨリモ暖地ヲ好ム、東京邊カラ南ノ方ハドコデモ仕立ラ

第二、センベル世界爺

此木ハ北米ノ西カリフォルニア洲海岸ニ於ケル最モ廣ク存スル最貴重ナル針葉樹デアツテ北ハサンフランシスコニ至ル迄殊ニ空氣ノ濕潤アル地方ノ適潤ナル地上ニ多ク屢々純林ヲナシテ谷間ヲ沿フテ二千三百尺ノ高ニ及ビ一部ハドクラス梅即コレコンバイント混合林ヲイタシテオル

此木ノ高サハ三百八十尺即一町三間余ニ達シ直徑亦ギガント世界爺ニ譲ラズ、但其枝下ハ前ノモノ、如クニハ行カナイガソレデモ尙ホ二十三丈即三十八間位ノモノガアル

此樹ノ株根ヨリハ數多ノ蘗ヲ生ジ頗ル高木トナル、此木ハ又切株ヨリ萌芽ヲ出シ七百年モ經タ老木カラデサエモ尙萌芽スルモノヲ見ル

心材ハ赤色デ甚ダ輕イガ保存期ガ長イノデカリフォルニアデハ之レヲ建築用材トナシ其他鐵道枕木、指物、酒樽、水中用材、樂器等ニ致スノデア

此木ノ皮ハ長キ纖維狀ニ卷纏シテオル

温体ノ南部カラ暖帶ニ適スルモノデ種子又ハ挿木ニヨリテ繁殖スル事ガデキル

種子ハ我ヒノキノ種子トヨク似テ少シ黒味ガアリ、形モ少シ大キイノミデア

仕立方ハ前種ト同様デアアルガ此種ノ方ガ稍寒地ニ適スルモノデア

第三、ドグラス梅、又オレゴンバイン

ドグラス梅又ノ名ハオレゴンバイン、是ハ日本人ノ耳ニモ限ニモ一番親シイモノデ先年中多ク輸入セラレタ木材デア、樹皮ハ暗褐色老樹ニアツテハ甚ダ厚ク且ツ深キ割目ガアツテ葉ハ日本ノ梅ニ似テオ

此木ノ高サハ二十乃至三十丈(五十間)ニ達スルモ岩石地デハ十丈位ノモノモアリ材質ハ堅ク弾力ニ富ミ保存期ハ甚ダ長イ、其螺旋形ノ纖維ガアルノデ他ノ針葉樹ト直チニ區別スルコトガデキル
 材色ハ薄赤ヨリ黄色ノ間デ邊材ハ殆ド白色デアアルガ是ハ極低ヒ高岸ノ處カラ始メテ海抜一萬尺(富士山ハ五千)ノ高イ處迄生ヘテオルカラ其場所ニ依テ違フノデアアル直段ハ一般ニ赤イ方ヲ貴シトスルノデアアル
 此木ノ大森林ヲナスノハ玄武岩地方ト新火山岩トノ地デ雲霧ノ深イ處デアアル、ダカラ我本州北部ノ西海岸並ニ北海道ノ南部等ニ適スルダロウ、我農科大學ノ見本林ニモ高サ三間ホドニ達シタルモノガアル
 此木ハ世界ニ有名ナ木デ家屋、橋梁、船艦ヨリシテ小ハ指物用材、杭本、燃料等ニモナル、船艦材ニハ最モ必要デアツテ横須賀造船所員ノ説ニヨルト巡洋艦一隻ヲ造ルニハ少クトモ尺ベ計算デ此材一千本チ一トク(印度産)材一千本、日本ノヒノキ、松、杉等ノ材千本ガ入ルト云フコトデアアル、造船所ノ買入レルモノニハ二尺乃至三尺角長十二三間無節ノ角物ナドモアルガ代價ハ一本六圓六拾錢ヨリ貳拾壹圓六拾錢位迄アル

此材ハ多ク老樹デアアルカラ其質ハ堅イガ弾力ガ少イデ折レ易ヒト云フ欠点ガアル、且鋸ノ齒ガ痛ミ易イト云フ事デアアル、近頃ハ汽車ノ客車家屋ノ建築ニ用ヒラレルガ家屋ノ柱又ハ鴨居材トシテ樹脂ガデル事ガアルカラ檜ヤ杉ニハ及ブマイガ其十二三間モブツ通シノ長物ガアルカラ大家屋其他ノ建築ノ用ヒ處ニヨツテハ實ニ貴重ノモノデアアル、大坂ノ難波橋ノ橋板モ此材デアアルト云ノコトダ
 此樹ノ繁殖法ハ我モミ、又ハツガト同様ニシテ宜シイ原産地ハ米國デアアルガ近頃ハ獨乙、佛蘭西、其他ノ諸國ニ造林セラル、事ガ頗ル多イ

第四、ラウソン扁柏一名ニホイヒヤ

此ヒノキハ世界ニ存スル七種ノヒノキ中デ一番壯麗ナモノデアツテ、世界到ル處ニ珍重セラレ公園庭園其他ノ裝飾樹ニハ必要ナルモノデアアル葉形及ビ實ノ形ハヒノキニ似テ高サハ二十五六間カラ三十七八

間位ノモノニナリ枝ハ細長クシテ水平ニ擴張シ少シク下ニ垂レ如何ニモ見事ナモノデアアル

材ハ輕ク緻密デ工作ヲ易ク地中用材トシテ保存期ガ長ク、香氣ノアル樹脂ヲ含ミ絹狀ノ光澤ヲ有シテ

オル、材色ハ白クシテ黄色ヲ帯ビ邊材ハ狭ク且ツ其色タイシテ心材トハカハラナイ
 主トシテ鐵道ノ枕木、垣根ノ枕ナドニ用ヒ又船ノ甲板燐寸ノ軸、家屋内部ノ用材ナド凡テ其材ガ白色清

淨デ保存期ガ長ク節ガナイモノ、ホシイ處ニハ此木ガ最適當デアアル
 殊ニ此材ハ色が美麗ナ計リデナク香氣ガアルカラ虫害ヲ防グノ効ガアルノデ家具材トスルニ宜シイ、尤

モ簞笥ニシテ上等ノ衣裳ヲ入レオクト或ハ脂ノ爲メニ汚サレル事モナイトハ云ヘナイ
 其場合ニ細君ガ小言ガ出デ果ハ早稻田農園カラ種ヲ買ツタカラダト夫婦喧嘩デモ初メテハ迷惑ダロウカ

ヲ豫メ注意シテオクガ善カロウ
 此木ハ何レノ地ニモ育ツガ過度ノ乾燥、又ハ過度ノ濕地等ハ宜シクナイ、元來陰樹デアアルヤ他ノ樹ト

混セ植テ側方ノ保護ヲ受ケサセルノガ宜シイ然モナイト下方カラ枝ガ出デ良材ニナラナイ、氣候ハ温体

ノ全部及ビ暖帶ノ冷部ニ適當スルモノデアアルカラ東京附近ニハ中々ヨク育チ樹容極メテ勇マシク風韻ガ

アル庭園樹ニハ最モ宜シイ
 造林法ハ凡テ日本ノヒノキノ通りデ宜シイ詳シクハ僕ノ造林學各論ノヒノキノ部ヲ見ルベシダ種子ノ蒔

方カラ手入ノ仕方迄スツカリ書テアル
 第五、ストロブ五葉松、又ワイモツ五葉松

此松ノ葉ハ内地ノ五葉松ニ似テ細ク長サハ三寸以上ニ達シ幹ハ凡ソ三十年間位ハ滑カデ綠色ダガ後ニハ

粗皮ヲ生ズル
 此松ノ郷土ハ北米デアアルガ今ヨリ二百九十四年前ニ英國人ワイモツ氏ニヨリテ同國ニ移植セラレ其レヨ

リ獨乙ニ渡リ我農科大學ニモ高三間周圍一尺程ノモノガアル我國ニハ九州カラ北海道ヘマデ適當スルデ

アロウ、殊ニ北海道ノ南部若シクハ本州ノ山地ナドハ最モ宜シカロウト思ハレル、土質ハ何レノ地ニモ

能ク育チ土地ヲ撰ム事ノ少イモノデアアルガ一番ヨイノハ山ノ北腹ナド深キ粗ニシテ適潤ナル粘土質ノ砂地ナドハ彼レノ最モ好ムトコロデアアル

生長ハ極メテ早ク殆ド松ノ類ヨリモ早イ、孤立サセテオイトモ素性ノヨイ伸方ノ單幹ヲスルノデアアル

害敵ノ事ヲ云ヘハ霜害ハナイガ早害ハアル、即チ早天ニハ皮焼ガスル、風雪ニハ恐レナイガ雹ニハマカサレル鹿モ害ハスルガ兎栗鼠モ宜シクナイ種子ハ栗鼠ト鳥ガ食イタガ

作業法、植樹ニヨリテ造林シ皆伐作業ヲスルニ適當スル八十年乃至百二十年ヲ伐期トスルガ尙之レヲ高年迄立テ、オケハ更ニ價値アル材木トナル

單純林ガ多イガ他ノ潤葉樹ト混植シテモヨイ

効用材ハ組織ガ平等デ少シタ光澤ガアリ邊材ハ黃白色、心材ハ赤黃色カラ赤褐色ニマデ至ソテアル

米國デハ家屋ノ建築、帆柱等ニ用ヒ又種々ソ指物、樋、弄物、樂器等ニ用ヒ燐寸ニモナリ、木纖維製造ニモ適當シバンヤデハ燃ヘ方ガヨク火ガ活潑ダト云フノデ此薪ヲ珍重スル

庭園ニ植ヘテモ立派デアツテ殊ニ公園ナドヘ植ヘレハ其風采ハ他ノ樹ノ及バナイ處デアアル

第六、鉛筆ノ木ビルギニ柏楨

是ハ北米ニ産スル有名ナ鉛筆木デ樹狀日本ノ「ビヤクシン」ニ似テ高サハ六丈乃至八丈位ニ迄伸ル米國ノ原産地ニハ其高サ十丈位ノモノモアル、此樹ハ温体カラ寒帶ノ始メニ亘ツテ完全ニ生長ヲナスカラ我國デハ北海道ノ南半ヨリ九州迄適スル（農科大學ニハ三四間ノ高サノモノガアル）材ハ赤味ヲ帶ビ一種ノ香氣ガアツテ又少シク苦味ガアルカラ能ク虫害ヲ免レル鐵道枕木、杭、桶、家屋其他ノ建築用材ニモナルガ併シ一番有名ナノハ鉛筆材トスルコトデアアル

鉛筆ハ專問家ノ説ニヨルト世界ノ樹木モ多イダロウガ鉛筆材トシテ此材程完全ナモノガナイト云ツテオ

此樹ハ乾燥セル土地並ニ岩石地ニモ能ク生長シ海岸ノ砂地ニモ亦能ク生長スル併シ水分ノ多ヒ石交リ又

ハ石炭質ノ地ニ最モヨク生長スル

此種子ヲ蒔クニハ先ヅ同量ノ木灰ヲ混ゼテオクガヨイ、然スルト二三週間デ種子ノ脂肪ガ木灰ニ移ルカラ、其種子ヲ水デ洗ヒ細土ノ上ニ播種スルノデアアルガ其外ノコトハ總テ日本ノヒノキノ通りデ宜シイ

第七、支那サワグルミ

アノ「支那ノサワグルミ」ノ事ヲ大日本山林會報デ見タト中々氣ガツクナ、是ハ日本ノ澤胡桃ニヨク似テオルガ其葉ノ柄ニ副葉ガアルノデ區別ガ出來ル農科大學ニタツタ一本アルギリダガ十二年生デ已ニ高サ八九間周圍四尺余ニナツテオル珍ラシク生長ノ早イ木デ一年ニ四五尺ヅ、生長スル日本ノ澤胡桃ヤ亞米利加ヤマナラシ杯ヨリモ却テ太リガ早ヒ之レヲ造林シタル非常ニ利益デアロウト思ツテイタ、材ハ白色デ燐寸軸木、下駄材、製紙用材、等ニ最モ適當スル

少シ濕リ氣ノアル所ヲ好ミ濕地デモ宜シイ、北海道カラ九州マデ造林スルコトガデキル

栽培法ハ春四月頃二尺ノ畦ニ一寸置位ニ蒔ケハ其年ニ二三尺以上ノ苗トナルカラ、之レヲ山地ニ植出シテ宜シイノデアアル（明治三十三年三月）

基本財産トシテ森林ノ價値

第一 愛知縣力

愛知縣技師 三 溝 謹 平

愛知縣力則チ尾三ノ富力ハ如何是レ吾人ノ夙ニ知ラント欲スル所ナリ、夫レ國家ノ歲計ハ能ク富力ト植衡ヲ維持シ、國家ノ負擔ハ能ク富力ト相應スベキモノタルコトハ猶消費ト生産ト平準セシメザルベカラザルガ如シ、富力ノ如何ヲ察セスシテ縣費ノ増加ヲ冀フハ恰モ瓦山ニ水源ヲ求ムルト一般到底需要ヲ充タス能ハザルベシ

然レモ國運ノ進歩ハ國費ノ膨脹ニ伴フト云ヘハ縣費ノ増加亦止ムヲ得ザル處タリ、社會ノ大勢ハ既ニ國

費ノ増加ヲ促シツ、アリ、此際ニ處スル縣民ノ覺悟果シテ如何
 抱手傍觀ナスナキカ、畜ニ國家ニ不忠ナルノミナラズ、祖先傳來ノ財産ヲ維持スル能ハザルニ至ルアル
 ベシ、去レバ有力ノ者ハ此際奮テ富力ノ増進ヲ企圖セザルベカラザルナリ、而シテ富力ノ増進ヲ企圖セ
 ントセハ先ヅ現在ノ富力ヲ調査セザルベカラズ、是レ縣力ヲ知ラント欲スル所以ナリ、余ハ「マルホー
 ル氏」ノ調査方法ニ準據シテ我愛知縣下ニ於ケル富力ノ計算ヲナサントスレバ、唯今日ノ統計不完全ナ
 ルタメ確實ナル計數ヲ算出スル能ハズシテ其概算ヲ舉グルニ止マレルハ遺憾ナリトス
 「マルホール」氏ハ農工鑛業、山林漁業、商業運輸、家賃、僕婢賃、公務、職業ノ十一項ニ分チテ國民所
 得ノ總額ヲ計算セリ、我愛知縣下ニハ鑛業收入ノ記スベキモノナキヲ以テ之レヲ省キ左ノ十項トセリ

(一) 農業(三十一年度調査)

米	大	小	裸	大	小	粟	稗	藜
	麥	麥	麥	豆	豆	豆		
貳千四百八拾五萬八千九百參拾圓	貳百八拾壹萬四千四百拾圓	百貳拾六萬四百參拾參圓	百八拾九萬五千六百拾八圓	四拾五萬五千參拾五圓	拾萬七千七百四拾五圓	貳拾貳萬六百拾六圓	貳萬九千六百九拾貳圓	貳拾貳萬參千百壹圓

甘	實	葉	葉	葉	葉	葉	製	砂	漆	牛	牛	馬	小	其他以上小計ノ五分	總	所得金(總計ノ六割)
諸	綿	藍	煙草	種	麥	茶	糖	糖	液	乳			計		計	貳千貳百八拾八萬九千九百拾七圓〇壹錢
百拾萬九千六百五拾參圓	參拾五萬八千貳百圓	六拾參萬四千四百拾七圓	六拾壹萬五千四百八拾參圓	五拾九萬八千五百九拾四圓	拾壹萬五圓	貳拾貳萬七千五百參拾八圓	壹萬九千五百七拾五圓	六千八百五拾六圓	拾萬千九拾貳圓	拾七萬八千七百拾圓	四拾九萬七千九百拾圓	參千六百參拾參萬貳拾七圓	百八拾壹萬六千五百壹圓參拾五錢	參千八百拾四萬六千五百貳拾八圓參拾五錢		

備考「マルホール」氏ノ計算法ハ産出總額ノ六割ヲ所得トナセリ故ニ之レニ從フ其他小計ノ五分トハ尙産出スベキモノアルナ以テ見積レ

(一)工業(三十一年度調査)

蠶	絲	四百九拾四萬千八百八圓
綿	絲	四百參拾五萬四百八拾七圓
織	物	千參拾五萬八千九百六圓
陶	磁器	百四拾九萬四千八百六拾四圓
漆	器	拾萬四千五百參拾圓
青銅及銅器		五萬八百六拾貳圓
和洋紙		四萬五千六百貳拾貳圓
疊及筵		壹萬五千七拾七圓
菜種油		五拾四萬五千貳百貳拾壹圓
生蠟		貳百貳拾圓
摺附木		八拾貳萬五千九百九拾八圓
酒		四百四拾貳萬五千百拾六圓
醬油		百萬八千貳百六拾九圓
麥稈		參拾四萬四千五百參拾貳圓

扇 子 貳拾六萬八千五百五拾圓

綿 毛 布 拾九萬六千參百五拾圓

食 鹽 拾六萬九千六百參拾圓

七 寶 拾四萬七千九百八拾七圓

小 計 貳千九百貳拾九萬貳千九百參拾四圓

其他小計ノ一割 貳百九拾貳萬九千貳百九拾參圓四拾錢

總 計 參千百拾貳萬貳千貳百貳拾七圓四拾錢

所得金(總計)千六百拾壹萬千百拾參圓七拾錢

備考全氏ニ從ヒ製産總高ノ五割ヲ所得トセリ

其他トハ猶製産ノモノアリ故ニ小計ノ一割ヲ見積レリ

(二)漁業(三十一年度調査)

漁 獲 物 百拾四萬九千貳百貳拾圓

水 産 製 造 物 四拾八萬九千參拾參圓

計 百六拾六萬八千貳百五拾參圓

(四)森 林

備考全氏ハ漁業ハ産出總額ヲ所得トセリ

主 副 産 物 百五拾萬圓

計 百五拾萬圓

備考全上産出總額ヲ所得トス

(五)家賃

家賃 四百拾八萬貳千六百六拾圓

備考全氏ハ家賃價格ノ六分ヲ見積レリ故ニ比例ニ從ヒ家賃ノ價格ヲ一月平均貳百圓トシ全戸數三十四萬八千五百五十五ニ乘ジ之レニ又六分ヲ乘ジタリ

(六)僕婢賃

僕婢賃 百參拾九萬四千貳百貳拾圓

備考全氏ハ家賃ノ三分ノ二ヲ見積レリ然レモ余ハ三分ノ一トセリ之レ國情異レバナリ

(七)商業

商業所得 貳千萬圓

備考全氏ハ内國商業高ノ一割ヲ見積レリ、此例ニ依リ全縣下ニ於ケル集放高貳億五千萬圓(名古屋商業會議所中村氏ノ談話)ヲ貳億萬圓ト減算シ其一割ヲ見積レリ

(八)運輸

運輸賃 五百萬圓

備考全氏ハ内國商業高ノ二割半ヲ運輸ト積算セリト雖茲ニハ商業所得高ノ二割半トナシテ見積レリ

(九)公務

公務所得高 九拾六萬五千五百八拾參圓四拾錢

備考全氏ハ國家歲入ノ五割ヲ見積リタレモ彼我國情異レバ茲ニハ三割トセリ是レ實際ノ公務費ト大差ナケレバナリ

(十)職業

職業所得高 七百參拾七萬六千九拾四圓七拾壹錢壹厘

備考全氏ハ他項ノ總額一割ヲ積算セリ此例ニ從ヒ以上九項ノ小計一割ヲ見積レリ以上合計左ノ如シ

所得總高

農	業	貳千貳百八拾八萬九千九百拾七圓壹錢
工	業	千六百拾壹萬千九百拾參圓七拾錢
漁	業	百六拾六萬八千貳百五拾參圓
森	林	百五拾萬圓
家	賃	四百拾八萬貳千六百六拾圓
僕	婢	百參拾九萬四千貳百貳拾圓
商	業	貳千萬圓
運	輸	五百萬圓
公	務	九拾六萬五千五百八拾參圓四拾錢
職	業	七百參拾七萬六千九拾四圓七拾壹錢壹厘
總	計	八千七百七十七萬七千六百四拾壹圓八拾貳錢壹厘

備考此諸計算ハ各項ニ付言セル如ク可成充分ノ數ヲ見積リタレバ實際ハ或ハ此計算ヨリ小數ナルモ計リ難シ商業ノ如キハ最モ注意スベキ点ナリトス、余ハ他日ヲ期シテ一層精密ナル計算ヲナサント欲ス

以上諸表ニ依レバ愛知縣ニ於ケル三十一年度ノ所得高ハ實ニ八千七百七十七萬七千六百四拾壹圓余タルヲ知ル

ナリ、是レ即チ現今ニ於ケル縣民ノ負擔力ニシテ所謂富力即チ縣力ナルモノナリ、此縣力ヤ固ヨリ正確ニ或年度ノ所得ヲ精算シタルモノニアラザレバ信據スル能ハザルモノ、如シト云ヘドモ大体上總所得ト見ルモ敢テ大差ナカルベシ

余ハ既ニ縣民所得ノ總額則チ縣力ヲ計算シタレバ猶進ンデ國稅及縣費トノ權衡如何ヲ論ゼントス試ニ三十一年度ニ於ケル諸稅ヲ示セバ次ノ如シ

- 國稅 參百參拾七萬五千五百七拾五圓
- 縣稅 百參拾參萬四千四百四拾圓弱
- 市稅 貳拾參萬參千六百六圓強
- 町村稅 百萬九千七百六拾七圓弱

合計五百九拾五萬參百八拾八圓弱

斯クノ如キ諸稅ハ我縣力ニ相應スベキ負擔ナルヤ余ハ或ル論者ニ聞ケリ英國ニ於ケル國民ノ負擔ハ富力ニ比シテ八分六厘、佛國ハ一割二分、獨國ハ一割〇一厘、米國ハ五分二厘而シテ本邦ノ平均ハ大凡一割二分ナリト然ラバ一割内外ノ負擔ハ當然ノ義務ナリト云ハザルベカラズ、今觀テ我縣ノ比例ヲ見ルニ七分三厘四毛弱ナリ之レヲ米國ニ比スレバ多キコト二分ナリト云ヘドモ之レヲ獨佛ニ比スレバ大ニ下位ニアリ而シテ本邦平均額ヨリ少キコト殆ド五分去レバ今日ノ諸稅ハ過度ノ賦課ト云フベキニアラザルナリ縣費多端縣民ノ負擔ニ堪ヘザルトコロナリ經費ハ節減スベシト單ニ經費ノ節減ヲ論ジテ民力養成タル積極的ノ事業ヲモ阻害スルモノアリトセバ是レ實ニ無謀ノ言ト云フベシ

租稅賦課ノ限度ニ就テハ「ルロワボリユー」氏曾テ云ヘルアリ租稅ハ國民所得ノ五分以上一割以下ヲ以テ限度トス若シ不幸ニシテ一割以上ニ達センガ必ズ國家進運ノ發達ヲ防厭スベシト又英ノ「マルホール」氏曰ク租稅ハ國民所得ノ一割ヲ超過スベカラズ若シ之レヲ超過セバ苛賦酷稅國民其負擔ニ堪フル能ハザルノミナラズ國家ノ進運ヲ防グルモノナリト、二氏ノ說畧一致セルモノニシテ列國ノ財政學者モ亦之レ

ヲ承認セルモノナレバ我縣ノ縣費ハ猶徵收シ得ルノ余裕アリト云フベシ假ニ一割迄徵收シ得ベシトスレバ年々貳百拾五萬圓余ノ増額ヲ得ベシト雖モ今又尾三富力ノ要素ヲ調査スレバ商業ノ多數ハ名古屋市ノ所得ニ過ギザレバ貳百拾五萬圓余ノ經費ハ悉ク之レヲ縣事業ニ使用スベキモノニアラズ、少クトモ數拾萬圓ハ今後名古屋市ニ施設スベキ市區改正及ビ水道排水工事等ニ消費セザルベカラズ又町村ハ其進歩ニ從フ事業ヲ經營スルタメ尙別ニ町村費ヲ積算セザルベカラズ故ニ縣事業ノ要求ニ對シテハ充分ノ供給ヲナス能ハザルベシ、然ラバ如何ニシテ將來益々發達スベキ縣事業ニ要スル諸費ヲ辨ゼン、曰ク縣力ノ増進ヲ獎勵スルヨリ外ナカルベシ(未完)

共有山及私有山林ノ整理

禾田生報

本縣下三河國八名郡山吉田村大字下吉田ニ於テハ今去ル十七八年前即チ明治十五年一月村會ノ決議ニヨリ野火取締規則ヲ設ケ同時ニ私有柴草山等へ樹木植付規則ヲ定メテ山林ノ保護蕃殖ヲ計劃セリ是レ同村ニ於テ從來ノ慣習トシテ共有山ニハ柴草採集ノ爲メニ野火入ヲナセルヲ以テ私有山林ニ延燒スルコト多ク爲メニ共有山ハ勿論私有山ニアリテモ樹木ヲ植栽スルモノナク肥沃ナル山地モ無益ニ放擲セラレシヲ土地ノ豪農豊田某(今年六十余才)之レヲ憂ヒ熱心ニ之レガ豫防計劃ヲ主唱シテ遂ニ此規則ノ制定ヲ見ルニ至リシモノナリ、之レヲ第一期ノ經營ト云フ、其後明治二十一年第二期ノ經營トシテ共有山草柴蒨取場分配ニ付約定書ヲ設ケテ全共有七百町歩ノ内百二十町歩ハ肥料ノタメニ百八十町歩ハ植林ノタメニ都合三百町歩ヲ分配シ、余ノ四百町歩ハ之レヲ共有トシテ植樹スルコトニナセリ後又明治三十年ニ至リ國界火防線植木内規及ビ山林内規ヲ設定セリ、之レヲ第三期經營トス、此國界火防線ハ從來遠州地方ノ草山ヨリ延燒スルコト多キヲ以テ之レヲ豫防スルタメナリト云フ、其經營ノ細目ニ就テハ批難スベキ處ナキニアラザレモ大体上適當ナル處置ト云ハザルベカラズ、否當時ノ處置トシテハ尤モ至當ナリト信ズ、余ハ之レヲ世間ニ紹介スルト共ニ豊田氏及ビ其他有志者ニ向テ謝セザルベカラズ、其詳細ハ次ノ如シ

野火取締規則

第一條

共有山林ニ於テ盗リニ火ヲ焚クヲ許サズ
但シ營業ノ爲メ炭灰焼ハ此限リニアラズ

第二條

前條ノ場所ニ於テ柴草刈採方ニ付山焼セザルヨリ差支テ生ズル場所ハ豫テ期日ヲ定メ各所一時ニ出願ノ上指令ヲ待テ放火スルモノトス

第三條

前二條ノ場所不時ノ出火アルヲ認メタルモノハ直ニ近隣ヘ通知ノ上防禦ノ手配テナスベシ又通知ヲ受ケタルモノモ直ニ防禦方盡力スベシ

第四條

但シ出火ヲ知テ防禦ノ手配ヲナサザリシモノ及ビ本條ノ需ニ應ゼザルモノハ五日以上十日以下ノ日數ヲ共有山下草刈ニ使役ス

第五條

第一條但書ノ者ハ着手前失火ノ患無之檢充分豫防ヲナシ着手スベキモノトス
但シ本條ノ豫防ヲ怠リ又ハ危急ニ依リ失火セシモノハ第三條但書ノ例ニ據リ使役スルモノトス

第六條

第一條ヲ守ラズ濫リニ火ヲ焚ク者ハ違約金トシテ金參圓ヲ出サシム又違約セシモノヲ知テ默許セシモノモ同様金參圓ヲ出サシム
但シ訴ヘ出ツルモノニハ其實トシテ金貳圓ヲ遺ス

第七條

前條ノ如ク定ムト雖モ實地施行上不適當ノ廉ハ村會ノ決議ヲ以テ改正スルモノトス

第八條

右明治十五年一月十九日村會決議全月廿日認可アリシヲ以テ當時實施シ追々補設シ今日ニ至ル、從來私有山ニシテ柴草生ナル場所ハ濫
リニ植木スルヲ許サル、慣例ナリシガ、今ヤ到ル處濫伐ノ弊起リ森林變シテ兀山トナリ、木材薪炭漸ク欠乏ヲ告ゲンタルノ最況アリ
因テ今回村內協議ヲ遂ゲ植樹ヲ計劃スルニ際シ、柴草生ノ如キモ既往ノ慣例ヲ解キ田畑宅地ノ障害トナラザル場所ハ植木セシムルモノ
トシ規則ヲ定ムル左ノ如シ

私有柴草生等ヘ樹木植付規則

第一條

一、私有柴草生等ヘ濫リニ樹木ヲ植付クルコトヲ許サズ

第二條

一、田畑宅地其他障害ナキ場所ヲ植林トナスハ第一條ノ限リニアラズ

第三條

一、第二款ノ如キ障害ナキ場所ハ其理由ヲ詳記シ且ツ四隣持主ノ故障ナキ旨ヲ明記シタル書面ヲ以テ戸長ヘ届出認可ノ上着手スルモノトス

第四條

一、前各款ノ如ク仮定スト雖モ實地施行上差支ノ廉ハ村會ノ決議ヲ遂ゲ改正スルモノトス

共有山植樹並保護規則

第一條

本村共有山ノ内杉檜二種ヲ植付クルニ適當ナリト認定スル場所ヲ指定シ一戸毎二年々五十本ヲ植付ケ所有權ヲ共ニシ永安ノ基本ニ供ス
ルモノトス

第二條

村民ノ公議ヲ以テ植林委員六名ヲ置キ前條ノ場所指定法及植樹並ニ手入法等一切ノ事務ヲ處辨セシムルモノトス

第三條

但シ植林委員ノ處辨スベキ事務定款ハ別ニ定ムルトコロニヨル

第四條

苗木購入費ハ共有山透伐賣却代金ノ内ヨリ支出スルモノトス

第五條

苗木ノ植付人夫ハ無賃トシ各戸平等ノ負擔タルベシ

第六條

但シ人夫ニ代フルニ費錢ヲ以テスルコトヲ得

第七條

野火防方ハ最寄組合ヲ設ケ組合毎ニ一人ノ取締ヲ撰舉シ該取締ノ指揮ヲ受ケ豫テ防火線路ヲ取設ケ未然ニ防グノ備ヲナスモノトス

第八條

但シ違犯者アルトキハ本村野火取締規則ヲ適用ス

第九條

但シ違犯者アルトキハ本村野火取締規則ヲ適用ス

苗木植付後ノ下別手入等ハ總テ第四條ノ例ニ據ルベシ

第七條

此規則ニヨリ植付タル杉檜ハ成木スルモ自儘ニ伐採スルヲ許サス

第八條

非常ノ災害ニ罹リ一月ノ存亡ニ關スル場合ニ際シ親戚隣保協議ノ上狀ヲ具シテ月長役場ニ願出ヅル并ハ植林委員ノ意見ヲ問ヒ全部若クハ其幾部分ノ伐採ヲ許可スルコトアルベシ

第九條

前條々ヨリ伐採シタルトキハ一株ニ付苗木三本ノ割ヲ以テ植林委員ノ指揮ニ從ヒ植繼ヲナスモノトス但シ植繼ノ苗木ハ自辨タルベシ

第十條

前條々ノ如ク定ムト雖モ實施上差支ノ廉ニハ其時々村會ノ決議ヲ經テ改正スルモノトス此條々村民一同遵守スベキ證トシテ茲ニ記名調印スルモノナリ

八名郡下吉田村

森下與作始メ二百四十一名(姓名ヲ略ス)

明治十五年一月二十五日

右明治十五年一月十九日村會決議全月二十日認可アリシヲ以テ常時實施シタリ

植林委員撰舉方法及給額規則

並事務定款

第一章 撰舉方法

第一條

植林委員ハ本村内ニ本籍ヲ定メ相當ノ不動産ヲ有スルモノヲ撰舉スベシ

第二條

植林委員ヲ撰舉スルヲ得ベキモノハ本村内ニ本籍ヲ定メタル月主ニ限ルベシ

第三條

植林委員撰舉會ニ關スル一切ノ事務ハ月長又ハ指令ヲ受ケタルモノ隨時處辨ス

第四條

撰舉人ハ月長若シクハ其指令者ヨリ配付スル投票用紙ニ被撰舉人ノ氏名ヲ詳記シ會場ニ出ヅベシ、月長若シクハ其指令ヲ受ケタルモノハ撰舉人ノ面前ニ於テ開紙シ最多票者ヨリ漸次當撰人トス若シ同數ナレバ年長ヲ取り同年ナラバ抽籤ヲ以テ當撰者ト定ム

第五條

植林委員ノ任期ヲ滿三年ト定ム但シ滿期再撰スルモ妨グナシ

第二章 給額規則

第六條

植林委員中へ酬勞トシテ一年金拾貳圓ヲ支給ス

第七條

植林委員事務上ニ付キ出張スルトキハ手當トシ一日金參拾錢ヲ支給ス但シ本條並ニ第六條ノ給額ハ村會ノ決議ニヨリ増減スルコトアルベシ

第八條

植林委員ノ酬勞手當等ハ總テ共有山植林費中ヨリ支出ス

第三章 事務定款

第九條

植林委員ノ事務定款ヲ定ムル左ノ如シ

第一款

共有山中杉檜二種ヲ植付クルニ適應スベキ場所ヲ選定シ月長ノ認可ヲ得テ區域ヲ定ムルニト

第二款

植樹及ビ手入ノ期日ヲ定ムルコト

第三款

苗木買入ニ關スルコト

第四款

植林地檢査ノ事

第五款

悪木並ニ透伐木等賣却方ノ事

第六款

共有山雑收入ニ關スルコト

第七款

共有山ニ關スル計簿ヲ調整シ金錢ノ出納ヲ明瞭ナラシムル事

第八款

本數及ビ三歴等ヲ調査シ年々明細表ヲ調整スルコト

第十款

前條各款ヲ處辨スルトキハ其時々月長ハ報告スベシ

第十一款

前條各款ノ外尙ホ植林事業ニ關シ必要ナル事件アルトキハ月長ハ意見ヲ陳述ス

前條々ノ如ク定ムト雖モ實施ノ上差支ノ廉アルトキハ時々村會ノ決議ヲ經テ改正スルモノトス

右明治十五年一月十九日村會議決全月二十日認可アリシヲ以テ當時實施シタリ

共有山草柴刈取場分配ニ付約定書

第一條

別紙共有山分配規則ニ依リ各戸草柴刈取場ヲ定メ餘有地ニ樹木ヲ繁殖セシメ當村ノ基礎ヲ立ツベキ事

第二條

地券狀ハ是迄ノ通り村名ニテ存シ地租ハ從前ノ通り共有金利息ヲ以テ上納不足スルトキハ樹木賣却代金ヲ以テ支拂ヒ殘金ハ元金ハ加ヘ各戸ヨリ出金ナカラシムベキコト

第三條

各戸草柴刈取受持場ヲ定ムル趣意ハ第一條ノ通ナレバ草柴ヲ刈取ル權利ヲ有スル迄ニテ地所ヲ左右スル權利無之事

第四條

甲乙受持場ノ界巾一尺トシ相互ニ讓入テナサズ草柴ヲ刈殘シ又ハ中切トシ界ヲナシテ判明セシムルコト

第五條

分地ニ生ズル草柴ヲ見積リ書入買年季賣渡ハ勿論其年ノ草芝ト雖モ生立ノ儘賣渡ス事不相成併シ本人刈取賣却スルハ勝手タルベキコト

第六條

分配ノ地所不便ニ付甲乙交換從來已レ所持ノ山野ニテ草柴ヲ刈取分配地ハ薪山ト成シ度見込ノ者田畑接近地ヲ除キ本人ノ隨意タルベキコト

但シ杉檜ヲ植付ケ又ハ實生ト雖モ成長セザルコト

第七條

草刈肥料ニ用ナク薪山トナシタキ者ハ田畑ノ接續地ヲ除ク外人勝手タルベキコト

第八條

分配地ト雖モ第六條第七條ノ如ク薪山トナシタルモノハ伐採ノ時ニ限リ立木ノ儘賣却ズルコトヲ得レテ書入、買年季賣渡ハ第五條ノ通

第九條

前條ノ如ク規約ヲナシ草柴刈取場ヲ定ムルハ人少又貧弱ニシテ肥料ヲ得難キ者ノ爲ニシ且ツ荆棘ヲ除キ手入レテ成セバ隨テ草柴増殖シ肥料ニ富シメ且ツ余地ニ樹木ヲ繁殖セシムルノ見込ナレバ數年ヲ經ル后ト雖モ決テ地所分割各自ノ地券狀トナスノ議ヲ發スルコトヲ許サズ如何トナレバ地所分割地券狀ヲ各自ニ渡ストキハ確乎タル約定ヲナシ賣ルベカラズト約スルモ所有權ヲ持タシムルトキハ身代限ノ所分、又我儘者出來リテ約束ヲ用ヒズ該地ヲシテ書入買等ノ事出來ルトキハ終ニ富有者ノ手ニ歸シ甚ダシキニ至リテハ他村人ノ所有トナリ草柴ヲ刈取肥料トナス事ヲ得ズ如斯場合ニ至リテハ農事ヲ勉強スルニ由ナク貧村ニ至リ後悔スル證ナシ今他村ノ既往ヲ見ニ確タル約束ヲナシ賣ルベカラズト約セシモ人情ヲ欠キ破約スル者アリテ金滿家ノ手ニ入ルニ至ルアリ飯令百年ノ后ト雖モ此規約ヲ守リ決テ分

第十條

今後所有山林無之者又入寄留者ト雖モ薪ニ差支候者有之時ハ一ヶ年二度二月九月農間ヲ見計ヒ植林委員ノ許可ヲ得テ山林ノ下刈ヲナシ各自ノ都合ヲ得セシムベキコト

但シ植林委員ノ指揮ニ背キ用水ニ害アルトキハ入林ヲ禁止スル事アルベシ

第十一條

共有山林雜木賣却ノ跡手入レテ下草ヲ刈取肥料ニ供シタキ者ハ植林委員ノ許可ヲ得日時ヲ定メ刈取ルコトヲ得

但書第十條ニ同シ

第十二條 村内ニ新戸取設ケ又ハ他村ノ人ト雖モ移住等ニテ本籍ヲ定ムルトキハ一般人民ト同ク草刈場ヲ貸與ス退轉者アルトキハ村内ヘ引戻シ共有トスベキコト

第十三條

第十五條第八條ニ違反シ貸借ヲナシタル者有之發見スル時ハ分配地ヲ村方ヘ引戻シ一般ノ共有トシ違約者ハ該山ニ入ル事ヲ禁ズ悔悟ノ體現ハルハニ於テハ更ニ貸與スルコトアルベシ此場合ニ於テハ債主損毛タルベキコト

明治二十一年十月十二日

仲原 仁吉
外二百四十五人記名調印

共有山分配規則

第一條

共有山分配委員ハ村内各組一名宛合十名ト定メ五人組ト協議ノ上各五組ヨリ抽擧投票一通ヲ差出シ多票者ヲ以テ當擧ト定ムルコト

第二條

當擧者五擧ヲ以テ委員長三名ヲ定ムルコト

第三條

委員長ハ一日金拾五錢委員ハ金拾四錢臨時雇ハ金拾錢時雇ハ金拾錢ノ日當テ付與スルコト

第四條

各戸ヘ分配スル山ノ立木ヲ賣拂割山入費ニ充テ若シ不足スルトキハ各戸ヨリ割出シノコト

第五條

最初各戸人民ノ便宜ニ依リ字何處(舊字何處又上下)ニテ草刈場申受度ト銘々望ニ依リ經ノ書付(用紙半紙部)ヲ其部ノ委員ヘ出サシテ其望ハ員ト反別ヲ參考シ一時ニ多ノ反別ニ分タメ一反歩或ハ二反歩ツトシ各所ニ殘地ヲ存スベシ

第六條

第五條ノ如ク割賦ヲナシ猶甲乙反別ニ多少アルトキハ其小歩ナルモノニ何處ニテ不足ノ分ヲ申受タキテ問ヒ再ビ書面ヲ出サシメ不足反別ヲ割渡スベキコト

第七條

第五條第六條ニ依リ第一回ノ割賦公平ヲ得タル後第二回望テ各戸ヨリ出サシメ第五條第六條ノ手續ヲ以テ配當ナシ公平ヲ得タル後第

三回四回ト手数ヲ厭ハズ數度ニ割充テナシ人民ニ便利ヲ得セシメ不公平ナカラシムルコト

第八條

委員ノ權利ヲ利ヲ以テ此處維持ト定メズ抽籤法ヲ以テ定ムルコト
但シ抽籤ノ後十日ヲ限リ双方ノ都合ニヨリ甲乙交換スルハ隨意タルベシ尤モ金錢ヲ出シ穩意立木ヲナスコトヲ禁ズ

第九條

第一回ノ分配ヲナシ再度ノ申込書ヲ出サシムルニ付テハ其部ノ委員ヨリ殘地ノ所在ヲ示シ見込ヲ立シムベシ第三回四回ニ至ルモ同様懸高ニ殘地ヲ指示スベキコト

共有山分配委員事務條例

第一條

委員長ハ一村ヲ惣括シ委員ヲ指揮シ分配ニ不公平ナカラシメ速ニ事務整理センコトヲ勉ムベシ

第二條

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ組内ノ事務ヲ總括シ委員長ノ事務ヲ補助シ速ニ整理センヲ勉ムベシ

第三條

勤務時間ハ日出ヨリ日没迄トシ必ズ賈食ヲ持參スベシ委員長ニ於テ毎日ノ出勤ヲ記載シ半日或ハ何分ト明記スベキコト

第四條

割山ニ關スル金錢出納ハ人民惣代ニ協議シ委員長ニ於テ負担スベキコト

山林內規

第一條

下太田共有山(大字)道々伐木又植付ケタル場所モ手入行届カズ荒廢ニ至ルニ時節柄且ツ子孫ヘ對シ面目ナシ依テ今般字黒淵小字田ノ島ノ内重兵衛作リヨリ奥銀山ヘ杉檜(見積凡一萬本)ヲ植付ケ道々其他ニ及ボシ並ニ前年(第一期經營)植付ケタル場所ノ切レテ下刈等ヲナシ繁殖セシムルコト
但シ將來植付山地ハ何等ノ事情アルモ賣却セズ樹木ハ伐採ノ時期ニ至レバ山林委員區長ト協議村長ノ許可ヲ得賣却スベシ

第二條

前條ノ事業ヲ成就セシムルト大字公共財産ノ増殖ヲ圖ル爲メ山林委員三名ヲ設クルコト
但シ一名ハ改方ニオクモノトス

第三條

植付ハ人物ヲ撰ミ其年相當ノ賃錢ヲ以テ雇ヒ入レ町寡ヲ極メ枯損木ナカラシメ下刈ハ入札又ハ示談受渡時宜ニ依ル尤植込下刈雇人受買ナキトキハ地方ノ便利ニ依リ該組長ハ協議指名出動ヲ促スコトアリ如斯都合ニ於テハ無異議出動スベキコト

第四條

植林費用支辨ノタメ一ケ年金參拾錢ツ、各戸ヨリ毎年三月、九月金拾五錢兩度組長ヘ十ケ年間引續キ出金組長ハ其組取撫メシ受委最寄員ヘ差出スコト

第五條

山林委員ハ春秋兩度山林並ニ苗圃ヲ巡視植付ケ下刈手入等ニ注意シ並ニ區長ノ會計決算報告等ニ立會スルコト

第六條

山林委員酬勞ハ一年金參圓ツ、山林其他ヘ出張ノ時半日以上ヨリ其年人夫雇賃金同様ノ日當ヲ支給スルコト

第七條

共有山(大字有)樹木殖繁加害者及ビ盜伐人、放火人ヲ取押ヘタルモノニハ賞トシテ金五圓ヲ遣ハスコト

第八條

山林ハ火災防禦之レヲ必要トス就テハ隣村ト規約ヲ結ビ實行斟酌セザルコト

第九條

山野出火ノ時ハ見付ケ次第最寄組長山林委員ヘ急報即刻觸レ示シ一戸一人ツ、早々吾山消防スベシ、大火ノ時ハ其地方男子十七才以上六十才迄出動スベシ、自己ノ我儘ニテ出動セザルカ又ハ闊レテ聞キ遲參セシ者ハ該組長區長山林委員評議ノ上金五錢以上金參拾錢以下ノ價金ヲ出サシムル事

第十條

但シ都合ニ依リ婦女出動スルモ妨ナシ

第十一條

共有山出火ノ時消防ニ盡力非常ト認メタル時ハ該組長區長山林委員評議ノ上酒二升以上一斗以下ノ賞ヲ與フルコト

山林委員ハ大字人民ニテ大字山地使用權ヲ有スルモノトス任期ハ最初六ケ年ト定メ一人ハ滿四年經過ノ片抽籤ヲ以テ交替一人ハ滿五年同斷以後ノ任期三ケ年トシ順次交替ノ事
但シ滿期再撰スルモ妨ケナシ

第十二條

山林委員任期中順番一ケ年ツ、主任トナリ金錢出納並ニ帳簿ヲ整理スルコト

第十三條

山林委員撰舉ハ三月中旬各五組協議ノ上五長ニ於テ投票組長取撫メ最寄山林委員ヘ可差出事

第十四條

大字財産會計ハ區長ノ分業事務ナリト雖モ今般協議ノ上林業ニ關スル會計ハ特ニ山林委員ニテ取扱ヒ毎年度限リ出納決算及ビ山林ノ狀況ヲ四月中ニ報告スル事

但シ決算報告書調製ハ區長ノ立會ヲ請フコト

右發起人區長組長評議ノ後各戸人民ヘ協議取極候條堅ク相守リ違背致問數候事

明治三十一年二月廿一日

發起 八 七 名

區長同代理者組長等廿四名連署

國界防火植木内規

第一條

毎年遠江ヨリ野火延燒スル三遠國界字大森城山黒淵ノ内、田ノ島區ニ貸渡シ約定濟四ヶ辻界迄第二ノ火防線ヲ作リ其内部ノ植木ヲ繁植セシメガタメ貸渡スベキヤ否協議候處大字下吉田各戸同等人夫ヲ出シ明治三十一年春ヨリ向フ五ケ年間ニ長五十一町十間市二十間ノ處松檜ヲ植ヘ野火預防ノタ、毎秋彼岸前後下刈ヲナシ火防線タルベキ森林ヲ作ルベキコトニ評決候事

第二條

但シ市二十間ト定マルト雖モ山林委員ノ見込ニヨリ伸縮スルコトアルベシ

第三條

毎年春植付ノ時一人秋下刈ノ時一人合二人工各戸平等出動スルモノトス然レモ、植込下刈ノ場所ニヨリ便利ト損益ト計リ山林委員ノ見込ニヨリ區長組長ヘ協議ノ上一地方ヨリ引續キ出動ヲ促シ或ハ指命出動等時宜ニ依リ取計フト雖モ五ケ年平均損益ナカラシムルコト

以テ支拂ヒ又ハ本節苗圃生育ノ分ヲ請求下附アルニ於テハ各戸主ヘ割當テ各組ニテ生育セシメ植付ノ時銘々持參スベキコト
但シ人夫賃代價ハ其年相當賃金並ニ出サシムルコト

第四條

植付下刈ノ時各組々長ハ勿論五長ニ於テ毎組出勤時間ヲ督促引率シ山林委員ヲ補佐事業ヲ整理セシムベキコト

第五條

立木賣却代金ハ各戸同業ニ分配スベシト雖モ此起業ニ組ミセズ又ハ半途ニシテ出勤セズ代價金ヲ出ササルモノハ自ラ棄權スルモノナレバ分配金ヲ與ヘズ已消ノ人夫賃ハ返却セザルコト
但シ分家ハ其年ヨリ出金スベシ

第六條

方今中二十間ト定ムト雖モ野火豫防ニ足ラズ該事業成就ノ後今二十間ヲ増植シ繁茂ノ後最初植込ミ該樹成長ノ後殘リ二十間ノ立木ヲ賣却スベシ如斯交互賣却スルトキハ利益ヲ收メ野火防禦ニ足ルベケレバ五ヶ年經過ノ後更ニ協議繼續スベキ事

第七條

第八條第九條第十條ハ山林内規ニ同シ
明治三十年四月十五日

發起人七名

區長同代理者組長等廿四名記名調印

(明治三十三年八月)

森林ノ開墾ニ就テ

禾田樵夫寄稿

獨乙國博士男爵テ、コルツ氏著農業經濟論ニ云ヘルアリ、人口多キ國ニ於テ耕作ニ適スル土地ノ大部ヲ專ラ所有者ノ愉快ヲトルタメ遊園或ハ事業上ノ觀察ニ於テ適當ト見ルヲ得ザル方法ヲ以テ之レヲ利用スルガ如キハ其國ニ對シテ常ニ忠實ナラザルモノナリト、實ニ然リ、土地ハ常ニ最大ノ利益ヲ有スル施行ヲナササルベカラズ、即チ耕作ニ適スル土地ハ常ニ自國住民ノ需用ヲ充タスタメニ利用スルヲ以テ最

要ノ本分トス、今農業上使用セラル、地域ヲ圖示スレバ左ノ如シ

本圖ハ實ニ經濟的土地使用上自然ノ順序ナリ、人口繁殖シテ之レト共ニ食物及ビ其他ノ必要ナル農産物ノ需用増加スルニ至レバ隨テ農産物ヲ培養スルタメ從來未墾ノ土地ヲ開墾スルノ必要ヲ生ジ、且ツ又開墾スルモ充分ノ利益アルニ至ルモノナリ、換言スレバ豐饒ナル土地ハ早ク開墾セラレ之レヨリ豐饒ノ度劣リタル土地ハ遅ク開墾サル、ニ至ル所以ナリ氣候非常ニ惡シキタメニ植物ノ生育ニ不適當ナルノ地ハ論外トシテ論ゼザレバ一國中如何ナルモ全ク農業上ニ利用スルヲ得ザルノ土地ハ殆ド之レナキモノナリト、歐洲プロイセン國ノ統計ニ依レバ千八百六十六年以前ノ領地範圍ニアリテハ全ク不毛ノ地ハ全國面積ノ〇、二プロチエントナルノミナリト云フ、我國ハ地勢上大ニプロイセン國ニ異ルアルベシト云ヘドモ其不毛ノ地ハ甚ダ少ナルベク、從テ開墾シ得ザルノ地モ蓋シ僅少ナルベシ、去レバ今後益々土地ノ開墾増加スルハ自然ノ勢ナリトス今愛知縣ニ於ケル明治十年後耕地開墾反別ヲ擧グレバ次ノ如シ



明治十年現在	尾張		三河	
	反別	一戸平均	反別	一戸平均
明治三十二年現在	七五、六六、五〇二	〇、三九六	六四、三三、二六二	〇、四四二
明治三十一年現在	七九、四二、七〇〇	〇、三五八	六八、三六、一〇〇〇	〇、五五〇

本表ニ依リテ見ルトキハ二十一年間ニ於ケル農作地ノ増加ハ尾張ニテハ三千五百四十六町歩余、三河ニテハ四千〇六十七町歩余ニシテ愛知縣全体ノ増加ハ平均年々三百六十二町歩余ナリ而シテ猶本年十月末

ニ至ル開墾出願件數ハ實ニ二千余通ニシテ其反別二百余町歩ナルノミナラズ、當時ノ情勢ヨリ察スルハ此一月當リ四反乃至五反部ノ農田ハ到底一家計ヲ立ツル能ハズ、殊ニ最近二十年間ノ統計ニヨレバ尾張ニ於テハ戸數千四百七十六、三河ニアリテハ二百八十六戸ノ割合ヲ以テ年々増加セリ、故ニ今後英國ノ如ク工業ヲ盛大ニシ其不便ヲ避ケザル以上ハ自耳義ノ如ク他國ニテハ棄テ、願ミザルノ土地ト云ヘドモ尙資本ト勞力ト加ヘテ之レヲ開墾セザルベカラザルノ止ムヲ得ザルニ至ルベクレバナリ然レハ地勢上リリ之レヲ論ズルトキハ開墾ハ隨意ニ之レヲ擴張シ得ザルモノニシテ自ラ限界アリトス左ノ如シ

土地利用上ノ限界

傾斜度	傾面ノ長サ	農地ノ種類	保持法
八度	三十間	田圃或ハ果樹園	段階ヲ設ケ或ハ堤塘立木生垣
十二度	二十間	果樹園或ハ牧場	堅牢ナル堤塘
十四度	十五間	牧場	二間或ハ三間毎ニ段階ヲ設ケ或ハ堅牢ナル堤塘ヲ造ル
十七度	十間	牧場或秣場	高昂ナル堤塘ニ猶生垣或ハ樹木ヲ列植ス
二十一度	七間	秣場或矮林	灌水ノ便アル地ニ限り樹木ノ間ニ秣場ヲ設ケ
二十四度		矮林或ハ喬林	地質輕鬆或ハ礫礫ナルトキハ喬林トナス
二十七度		喬林	地質ハ輕鬆或ハ瘠惡ナルトキハ擇伐作業ヲナス
四十五度		禁伐林	

即チ傾斜ノ度ニヨリテ其限界ヲ定ムレバ田圃耕作ヲ完全ニナシ得ベキハ傾斜度五度マデニシテ七八度ニ至レバ其面積廣ク其地質輕鬆ナルモノニアリテハ相當ノ設備ヲ要ス、既ニ二十度内外ニ至レバ其地質ノ如何ニ關セバ田圃耕作ヲナス能ハズ僅ニ果樹園トナスヲ得ルノミ、農家ハ宜シク此等ノ關係ニ注意シテ開墾ヲ企圖シテ自己ノ利益ヲ作ルト共ニ國益ニ注意セザルベカラズ夫レ一人ノ利ハ以テ万人ノ害ニ換フルコト能ハズ十年ノ益ハ以テ百世ノ損ニ換フルコト能ハズ若シ風土氣候水害等ニ關シ森林荒廢ノタメニ邦國ニ大害ヲ及ボサントスルノ虞レアルニ當リテハ公利、公安ヲ保持スベキ義務ト權利ヲ全有スル國家ニシテ何ヲ以テ之レヲ放任シオクヲ得ンヤ邦土ノ形勢、山林ノ實況ヨリ風土國情ニ至ル迄我國ニ相似タリト云フ、彼ノ伊太利國ノ森林法ヲ見ルニ曰ク森林及ビ樹木ナキモ栗樹帶最上ノ境界外ニ存在セル山頂山腹ハ之レヲ保安林トシ又其位置ト地質トニ從ヒ或ハ斷崖絶壁ノ地或ハ溪谷又ハ凹窪ノ地或ハ土砂堆積シテ阜陵トナルノ地其他天變地異ニヨリテ河流ヲ變更シ或ハ土壤ノ素質ヲ敗損シ或ハ公衆ノ衛生ヲ妨害スルノ土地モ總テ之レヲ保安林ニ編入シ一切斫伐開墾ヲ禁セリ然レハ若シ所有人ニシテ災害ヲ防遏スルノ處法ヲ豫定シ其處法タルヤ地方森林會ノ認定ト地方衛生會ノ許可ヲ受クルニ於テハ之レヲ斫伐開墾スルノ許可ヲ與フルコト、セリ其他歐洲各國共ニ森林開墾ノ制限ヲ設ケザルハナシ佛國ノ如キハ所有財産ノ利用ニ對シテハ深ク制限ヲ置カザレバ森林開墾ニハ制裁ヲ設ケタリ且ツ森林ヲ開墾シテ耕地トナシタルモノニハ同格ノ耕地ヨリ四分ノ一ノ重稅ヲ課セリ又巴威里ニ於テハ森林所有主ハ唯目前ノ利益ノミニ汲々タレバ之レヲ保護スルタメ其開墾ヲ許ス場合ハ森林ヲ變テ耕地トスルトキハ從前ヨリ一層大ナル利益ヲ得ルノ時アリ又僅ニ一二年間農業ヲ行ヒ地力ヲ衰弱スルノ土地嶮岨地雪崩レノ恐アルノ地暴風雨ノ農業地及ビ他ノ所有主ノ森林ヲ侵害スル場所、飛砂地、水源ノ存在スル場所、河岸崩壞スル場所ハ政府ニ於テ森林ヲ農地ニ變換スルコトヲ許サズ、且ツ皆伐ヲ禁止セリ而シテ總テノ開墾ハ森林警察上ノ檢査ヲ受ケ森林家ノ意見ニヨリテ許否セラル、故ニ假令ヒ所有主ハ開墾ヲ正當ナリトスルモ森林官ノ否認スルトキハ之レニ服從セザル

ベカラズ自由ヲ以テ誇ル歐洲諸國ニシテ森林開墾ヲ恐レ其所有權ヲ抑壓スルコト此ノ如シトスレバ其危害ノ大ナルモアルコト知ルベキノミ我國ニ於テハ森林ノ開墾ハ明治三十年四月六日法律第四十六號森林法第六條ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケザルベカラザルコトナセリ、而シテ其森林法ニ開墾ト稱スルハ地租條例ニ所謂開墾(第二類地即池沼山林、牧場原野雜種地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地即田畑宅地塩田鑛泉地トナスモノヲ開墾ト云フ)ノ外加フルニ燒畑切替畑並ニ地目變換(第一類地又ハ第二類。地目變換スル地目變換ト云フ)ヲ以テスル者ニシテ其意義甚ダ廣シトス、當局者ハ如何ナル程度ニ於テ此廣意ナル開墾ヲ許否ヲ取捨セントスルカ開墾ノ許否ハ一ニ當局者ノ頭腦ニヨリ決定セラレ他ノ容喙ヲ許サザルナリ故ニ從テ之レヲ許否スル處ノ標準ハ各府縣ニ於テ異ルベク其間自ラ寬嚴アルベシト云ヘドモ今日ニアリテハ寬ニ失セシヨリハ寧ロ嚴ナラザルベカラズ、是レ我國ニ於テハ維新以降森林ノ荒廢甚ダシク各地共ニ風水害ニ苦シミ薪炭及ビ用材ノ供給ハ需用ヲ充タスニ足ラズ植林ノ必要目前ニ迫レリ加之ナラズ保安林ノ區域未ダ確定セズ森林ハ益々荒廢セントスルノ傾向アリ何ア其荒廢ノ誘因タル開墾ヲナスノ余地アラシヤ、故ニ余ハ先ヅ保安林ノ地域ヲ確定シ植林ヲ獎勵シ設備全ク成ル後ニ於テ開墾ノ許否ヲ決定スルヲ以テ國家ノ利益ナリト信ズ、若シ其施設ノ前ニ於テ強テ開墾ヲナサントスルキハ止ムヲ得ズ、其制限ヲ一層嚴重ニナサザルベカラズ、是レ國家生存上必要ナル處置ナリトス、土地ノ開墾ハ古來官民共ニ無上ノ國民利福ト信ジタリ、故ニ森林開墾ノ危害ヲ他ニ及ボスコトニ思ヒ到ラズ、往時ノ各藩競フテ開墾ヲ獎勵シ只其及バザルコトヲ憂ヒヨルノ狀アリ、其餘弊猶今日ニ存シ其利害ヲ考究スルモノ少シ實ニ慨嘆ニ堪ヘザルナリ、之レ余ガ本論ヲ草シ縣下ノ同胞ニ告グル所以ナリ、若シ夫レ年々巨萬ノ經費ヲ河川改修及ビ砂防設備上ニ消費スルノ止ムヲ得ザルヲ思ヘバ誰レカ余ガ開墾制限論ヲ否認スルモノアラシヤ (明治三十三年十二月)

市町村有林野ノ整理

禾田生稿

山背ニ檜ヲ植ヘ空谷ニ杉ヲ挿シ瘠地ニ松ヲ配置スルヲ以テ造林ノ業成リ天然ノ水路適スレバ即チ材ヲ出シ適セザレバ即チ其腐朽ニ任シテ利用ノ道立チタリトナズ嗚呼世人ノ林業林學ヲ解セザルヤ久シ是レ決シテ合理的ノ森林施業ニアラザルナリ、合理的ノ森林施業ハ之レヲ換言スレバ林區改正ニシテ恰モ田區改正ノ如キモノナリ即チ市町村有林野ノ整理トハ合理的施業ノ謂ニシテ再言スレバ土地ニ附帶シタル權利義務ノ關係ヲ解除シ共有地ヲ分配シ散在錯雜シタル土地ヲ合併スル等ノ諸件ヲ實行シ或ハ收穫ヲ豫定シテ利用造林ノ順序方法ヲ計畫スル是レ合理的ノ森林施業ト云フ

見ヨ本邦ニ於ケル森林ノ多數ヲ占ムルモノハ市町村有林野ニシテ而シテ其尤モ荒廢シ或ハ經濟ノ保續ヲ損シタルモノハ亦市町村共有林野ナリトス、是レ共有林野ハ私有林野ト異リ所有主一個ニアラザルヲ以テ權利者ハ各自隨意ニ伐木採草ニ從事シ保護怠慢ニ流レ野火入ヲ以テ養草ノ術ト誤解シ屢々山頭山腹ヲ禿露スルヲ以テ風雨ノタメニ肥土流失シ從テ荒廢スルモノ多シトス故ニ若シ共有林野ノ監視ヲ等閑ニ附シ整理ノ方法ヲ講ズルニアラザレバ其害毒ノ及ブトコロ當ニ町村ノミニ止マラザルナリ且ツ市町村共有林野ノ整理ハ市町村ノ財政ヲ確實ニシ市町村ノ發達ヲ促進スルモノナレバ市町村林野整理豈忽ニスベクシヤ抑モ市町村ハ其事業ヲ經營スルタメ必要ナルトコロノ經費ヲ支出ス而シテ此經費ハ市町村ノ負擔スル處ナリ、現行市町村制ニ依レバ苟モ市町村ノ公共事業ニシテ市町村ガ自己ノ費用ヲ以テ經營スベキモノナレバ法律ノ範圍内ニ於テ奈何ナル事業ヲモ營ムコトヲ得ルナリ、是レヲ以テ社會ノ發達スルニ從テ市町村事業ノ益々増加スベキハ亦疑ナ容レズ殊ニ世運ノ進歩スルニ從テ物價及ビ賃銀ノ騰貴スルアリ、爲メニ同一事業ヲ營ムニモ尙ホ年々經費ノ増加スルコトハ止ムヲ得ザルノ事情ナリトス、之レヲ要スルニ市町村ノ經費ハ次第ニ増加スルノ傾向ヲ有スト斷言スルモ敢テ不可ナカルベシ、故ニ市町村ノ貧富ハ自治分權ノ名實擧否ノ由リテ分ル、所ナリ市町村收入ノ必要是レニ於テカ起ル

市町村ノ收入方法タル之レヲ分類スルトキハ大約二種トナル

一、公權ニ基キタル收入

二、私權ニ基キタル收入

而シテ町村ガ私權ニ基キタル收入ヲ有スルハ市町村ノ事業ヲ發達セシムルニ最モ必要ナリ、蓋シ市町村ノ主ナル收入ハ公權ニ基キタル收入即チ市町村稅ヨリ成ルモノニシテ市町村稅ハ必ズ市町村會ノ決議ヲ經ザルベカラズ、代議機關ノ性質トシテ其意志ノ屢々變更スルコトアルハ固ヨリ其處ナリ、此變遷圖ルベカラザル意志ノタメニ事業ノ發達ヲ害スル弊ヲ防ギ且ツ市町村稅ノ徵收ニハ限リアレバ之レヲ補充スルタメ市町村ニハ永久不動ノ收入ヲ供スベキ財產ナルベカラズ而シテ其所有財產ハ不動產ヲ以テ確實ナルモノトシ就中森林原野ヲ最モ堅固ナル性質ヲ帶アルモノトス是レ森林原野ハ地盤廣闊財源遠大ニシテ自然ニ共同使用ノ經濟ニ適應スルノミナラス其賣買進退モ自ラ田畑宅地ノ如ク輕便ナラザルニヨリ安リニ其原資ヲ失ハザルノ實アレバナリ

市町村ハ土地森林ヲ所有スベキヤ否ヤノ問題ニ就テハ舊派經濟學者ノ說ニハ國家及ビ市町村ノ如キ公共團體ハ土地森林等ノ財產ヲ有スベカラズト云ヘ其說ノ偏頗ニシテ今日既ニ陳腐ニ屬シタリ、今ヤ土地森林ヲ基本財產トシテ所有スベキコトハ自ラ學者及ビ實際家ノ間ノ定説トナレリ又共有地ヲ町村内ノ各人ニ分配シテ之レヲ私有物ニ變ジタルアリ此共有地ヲ廢シテ私有地トナシタル處置ハ其地ノ經濟ヲ進メ收穫ヲ増スノ利益アルヤ疑ヲ容レズト雖モ他ノ一方ニ於テハ可及的多額ノ純益ヲ期スル私經濟主義ノミヲ以テ此處置ノ得失ヲ決スベキ標準トナスベカラザルコトアリ換言スレバ寡クモ斯ル共有地ヲ保有セシムベキ理由アルナリ故ニ市町村林野整理ニ於テハ左ノ場合ヲ除クノ外決シテ共有地ノ分配ヲナサザルナリ

一、森林トシテ使用シ難キ部分

二、森林トシテ保有スルヨリ他ノ目的ニ使用スレバ多額ノ利益ヲ永遠ニ期スベキ見込ニ確定セル部分

故ニ秣及ビ肥料採收ノ必要ナル部分及ビ此目的ニ供スルヲ以テ適當ナル場所ハ之レヲ林地面積ヨリ削除

シテ共同林場トナシ或ハ各自ニ分配スルコトアリト雖モ純然タル林地ニ於テハ林木植栽ノ方法ヲ制定シテ之レヲ利用シ無産ノ徒ニ事業ヲ興ヘ糊口ノ途ヲ得セシムルト共ニ基本財產ノ増殖ヲ計ルヲ本旨トス歐洲ニ於テハ市町村ニテ廣大ナル森林ヲ有スルモノ樹ナカラズ佛國ノ市町村有森林ハ二百萬町步ヲ超ヘ全國總面積ノ百分ノ四ニ當レリ獨乙ニアリテハ市町村有森林ハ二百萬町步ニシテ其外ニ此森林ト經濟上同性質ナル組合所有森林三十五萬町步アリ此二種ノ森林ハ獨乙全面積ノ百分ノ四半ニ當レリ彼ノ共有地ニ欠乏セル都市ガ殊更ニ他人ノ所有地ヲ借り或ハ買收シテ共有林ヲ造成スルヲ見テモ如何ニ共有林ノ必要ナルヲ知ルニ足ル而シテ森林經濟ハ其規模ヲ廣大スルニアラザレバ目的ヲ全フセザルモノナレバ既ニ此一事ヲ以テモ市町村有森林ヲ分配シテ私有ニ變ズルノ不得策ナルヲ知ルベシ、然ルニ本邦ニ於ケル共有林ハ益々減少スルノ傾向アレバ市町村林野ノ整理ハ實ニ目下焦眉ノ急ナリ

以上述べブルガ如ク森林ハ市町村ノ基本財產トシテ必要ナルノミナラズ國家ノ安寧經濟ノ得失利害ニ繫レリ此点ニ關シテハ決シテ一般ノ自治ヲ許ス能ハズ又普通ノ財產ト同一ノ監督ヲ以テ満足スルヲ得ズ茲ニ於テ森林法ニハ森林ノ監督ヲ規程シ殊ニ市町村林ノ如キ公有林ニアリテハ其監督ヲ嚴ニセリ、歐洲各國ニテハ市町村有森林ノ管理ニ關シテハ制限ノ最モ輕キモノト雖モ尙政府ハ市町村ヲシテ森林經濟ノ方案ヲ作ラシメ之レヲ認可ス、其嚴ナルモノニアリテハ政府ノ官吏直ニ市町村有森林ヲ管理シ其經濟方法ニ關シ市町村ノ啄ヲ容ル、ヲ許サズ、本縣ニ於テハ之等監督獎勵ノ方法ヲ相折衷シテ市町村共有林野ヲ整理スルタメ來ル三十四年度ヨリ技術員ヲ設ケ市町村ノ請求ニヨリテ林野ノ整理ニ從事セシメ又一方ニハ整理ヲ獎勵スルタメ補助金貳千圓ヲ決定セリ彼ノ歐洲ノ如キ特ニ民權ヲ重ンズル邦國ニシテ一時放任主義盛ニ行ハレタルニモ拘ラズ尙國家ノ之レニ干渉スルヲ是認スルヲ見レバ本縣ニ於ケル整理方法ハ適當ノ處置ニシテ其獎勵補助金ノ如キハ森林其モノ、性質トシテ縣民ノ負擔スベキ義務アリトス聞クトコロニ依レバ彼ノ佛國ノ「ハンス」アルプス」地方ニテハ森林亂伐ノタメ西曆千八百五十六年大洪水ノ災害ヲ被リタリ當時工學者サレイユ氏ハ之レヲ救済スルノ策ハ唯植樹ニアリト主張シタリシガ遂ニ四年後

政府ハ樹藝條例ヲ發布セリ而シテ此法律ノ實施ニ當リテハ二個ノ方法ヲ以テシ其一法ニハ人民ノ植樹スルモノニハ相當ノ保護ヲ與ヘ他ノ一法ニハ壓制ナル土地沒收規則ニヨリテ森林ヲ再ビ栽植セシメタリ又伊太利ニ於テモ森林ガ洪水ノ害ヲ防ギ又公安上ニ關スル点ヨリ早ク山岳地方ノ造林ニ勉メタリシニ更ニ又一千八百八十二年法律ヲ以テ漸次荒蕪地ニ造林スルコトヲ布告シ其費用一町歩毎ニ貳拾圓余ヲ豫算シ尙他ニ連年ノ保護費トシテ每百歩ニ付キ貳百四十五拾圓ヅ、ヲ豫算セリ、其他壤太利獨乙等ニ於テモ同例ノ實施アリシコト枚擧ニ暇アラズ、故ニ余ハ尙ホ進ンデ共有林野ノ整理造林ニ對シテハ國庫ノ補助ヲ希望シテ止マザルナリ、否政府ヨリ獎勵補助スルヲ以テ至當ノ處置ナリト信ズルモノナリ、政府ハ之レガ獎勵補助ヲ實行シ又縣ハ縣ノ事業トシテ獎勵補助スルニ至ラバ共有林野ノ整理ハ至難ノ業ニアラザルナリ、本縣ニ於ケル共有林野整理ハ實ニ此模範ヲナスモノナレバ余ハ縣下ニ於ケル市町村ト共ニ勉勵策シテ充分ニ利用セラレザル地利ヲ發掘セントス而シテ森林ニ投ズル資本ハ固ヨリ一時ノ消費ニアラズ、市町村將來ノ公益ヲ進捗シ及ビ收入ヲ増加スルノ事業ナレバ經費多端ヲ口實トシ或ハ經費ヲ支出スベキ餘裕ナキ市町村ニアリテハ市町村制ニヨリ公債ヲ募集シ或ハ農工銀行ヲ利用シ以テ其負擔ヲ後世子孫ニ分ツノ方法ニヨリテ整理ニ着手スルモ敢テ不可ナカルベシト信ズ、然ルニ縣下ニ於ケル現況ヲ視察スレバ國力豊富ニシテ整理費用ノ支出ニ困難ナルニモアラザレバ此負擔力ニ富メルノ時ニ於テ將來ノ計劃ヲナスハ町村ニ忠實ナルノミナラズ子孫ニ對スル恩惠之レニ過グルモノナカルベシ、是レ余ガ市町村有林野整理ヲ主張スル所以ニシテ共有林野ヲ所有セザル市町村ニハ或ハ他人ノ所有地ヲ借り或ハ買收シテ此確實ナル基本財産ヲ設ケルコトヲ勸誘スルモノナリ

大宰紙氏曰ク即時ニ其利ノ見ヘザルコトニハ人ノ心趨カズ五十年ノ後ニ其利ノ見ユベキコトヲ思ヒタラシニハ決シテ同心ノ人アルベカラズ必ズ其効ノ見ヘザルヲ疑ヒ人夫ノ勞ト金錢ノ費トヲ恐レテ事ヲ創ムルノ人アルマシキナリト實ニ然リ去レバ植樹ノ如キ永遠ノ事業ニアリテハ之レヲ放任スルトキハ荒廢ニ陥ルハ數ノ免レザルトコロナリ、況ンヤ森林事業ハ小地主ノ力ノ及バザルコト多ク現在ノ樹木ヲ維持セ

シムルコトストラ困難ナルニ於テオヤ是又余ガ林野整理造林ノタメ獎勵費トシテ補助金ノ下附ヲ主張スル所以ナリ古語ニ曰ク山高故不貴以有木爲貴ト市町村タルモノハ區々タル苦情ノタメニ此有益ナル共有林野ノ整理ヲ等閑ニ附セズ着々歩ヲ進メ直接及ビ間接ノ利益ヲ收得シ併セテ市町村ノ基本財産ヲ確定シ市町村ノ財政ヲ整理シ世運ノ進歩ニ伴フ市町村ノ發達ヲ計畫セラレントヲ希望シテ止マザルナリ之レ敢テ秃筆ヲ奮フ所以ナリ (明治三十四年三月)

瀬戸ノ陶磁器及燃料ノ調査

愛知縣技師 三 溝 謹 平

陶磁器窯ニ五種アリ曰ク陶窯曰ク丸窯曰ク古窯曰ク素燒窯曰ク錦窯之レナリ陶器窯ハ則チ粘土燒窯ニシテ丸窯ハ則チ石燒窯ナリ古窯或ハ小窯ト云ヒ小形ナル陶磁器窯ナリ而シテ現今瀬戸町ニ存在スル各種ノ窯數ヲ擧グレバ左ノ如シ

明治三十二年調査

製 造 戸 數	登		窯		備 考		
	陶窯		古窯				
	登	間	登	間			
三九六	六	七六	二〇	七四	八〇	二六〇	瀬戸町ノ外上下品野及赤津村ニテ百三十四戸ノ製陶者アレ此ニ畧ス

等松材ヲ見ルニ直徑五寸乃至六寸ノ幹材ニ割或ハ三四割セル赤松材多シトス、黒松ハ同形同大ニシテ其價格亦松ヨリ三四分低廉ナリ即チ黒松ハ赤松ニ比スレバ燃燒シ難シト稱スレモ思フニ古來ノ習慣ニ依リナルベシ

燃料ノ産出地方

薪材ハ主トシテ名古屋市ヨリ供給シ僅ニ三河國西加茂郡ヨリ直輸入スルモノアリト云ヘドモ其割合ハ全量ノ二割ニ過ギズ

其一、名古屋市ヨリ供給スルモノハ伊勢及ビ紀伊熊野地方ヨリ産出スルモノト三河國豊橋及ビ新城地方ヨリ産出スルモノ汽車或ハ汽船ノ便ニ依リ名古屋市ニ集ルモノナリ

其二、三河國西加茂郡ヨリ直輸入スルモノハ大凡五六里ヲ隔離セル舉母地方ヨリ産出スルモノニシテ其區域狭ク且ツ荒廢地ニ屬セリ以上二方面ヨリ輸入スルモノモ上中下ノ三者アリテ其品質一定セズ殊ニ近來ハ赤松材大ニ減少シテ黒松材ヲ増加セリ、材長ハ一尺ニシテ周圍五尺ノ竹輪ヲ以テ束トナス、乾材ノ目方凡ツ五貫目アリ本年ノ相場ハ金壹圓ニ付四束半即二十二貫五百目ナリトス、之レヲ百貫目ニ換算スルトキハ金四圓四拾五錢弱ニ當ル今最近六ケノ價格及ビ産出地方ノ割合ヲ示セバ次ノ如シ

年 度	壹圓ニ對スル束數		産出地方ノ割合		備 考
	名古屋市	近郷其他	名古屋市	近郷其他	
二十八年	七束	五束	五分	五分	近郷其他トハ接近セル村落及ビ三河國西加茂郡ヨリ輸入セルモノニシテ二十八年頃ニアリテハ尙東春日井郡ナル近村ヨリ産出シタレ此一兩年ハ産出スルトコロナク唯三河國ヨリ輸入スルノミ
二十九年	六束半	六分	六分	四分	
三十年	六束	七分	七分	三分	
三十一年	六束	七分五厘	七分五厘	二分五厘	
三十二年	五束	八分	八分	二分	

三十三年

四束半

八分

二分

此表ニ依リ檢スルトキハ明治二十八年ニアリテハ金壹圓ニ付三十五貫目即チ百貫目貳圓八拾六錢弱ナリシモノ僅カ五年後ノ今日ニ在リテハ百貫目ニ付金四圓四拾五錢弱ノ高價ヲ表ハスニ至レリ、是レ或ハ諸種ノ物價騰貴ニ伴フ價格ナリト推定スルモノアルベシト雖モ實際ハ然ラズシテ其原因ハ近傍山林ノ荒廢ヨリ生ズル結果ナリトス左ニ各地方松材ノ價格ヲ舉グレバ左ノ如シ

各郡松薪價格表(明治三十三年九月調査)

郡 名	百貫目ニ付最高價		全 最低價		全 平均價格		郡 市 名	百貫目ニ付最高價		全 最低價		全 平均價格	
	最高價	最低價	最高價	最低價	最高價	最低價		最高價	最低價	最高價	最低價	最高價	最低價
八 名	一、三三〇	一、〇五七	一、一四五	一、一四五	三、四四〇	二、八六〇	羽 栗	三、四四〇	二、八六〇	三、一五〇	三、一五〇	三、一五〇	三、一五〇
南 設 樂	二、六五五	一、九五一	二、三〇三	二、三〇三	三、〇〇〇	二、八〇〇	栗	三、〇〇〇	二、八〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇
北 設 樂	一、五〇〇	一、四〇〇	一、四五〇	一、四五〇	四、五四〇	四、三四〇	島	四、五四〇	四、三四〇	四、四四〇	四、四四〇	四、四四〇	四、四四〇
渥 美	二、〇〇〇	一、六六〇	一、八三〇	一、八三〇	三、一四〇	三、一四〇	東	三、一四〇	三、一四〇	三、一四〇	三、一四〇	三、一四〇	三、一四〇
東 加 茂	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、	一、	海 西	一、	一、	一、	一、	一、	一、
西 加 茂	三、四〇〇	二、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、七〇〇	四、四〇〇	東 春日 井	三、七〇〇	四、四〇〇	四、四〇〇	四、四〇〇	三、五五〇	三、五五〇
寶 飯	一、六六六	一、四二九	一、五三八	一、五三八	三、一四六	二、四四二	西 春日 井	三、一四六	二、四四二	二、四四二	二、四四二	二、七九四	二、七九四
額 田	三、〇〇〇	二、三〇〇	二、六五〇	二、六五〇	二、六三〇	二、三三〇	愛 知	二、六三〇	二、三三〇	二、三三〇	二、三三〇	二、四九〇	二、四九〇
碧 海	二、二二二	二、一七五	二、一七五	二、一七五	二、五〇〇	二、二五〇	知 多	二、五〇〇	二、二五〇	二、二五〇	二、二五〇	二、三三五	二、三三五
播 豆	三、六〇〇	三、二〇〇	三、四二五	三、四二五	三、〇〇〇	二、三〇〇	名古屋 市	三、〇〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、六五〇	二、六五〇

本表ハ郡役所々在地ニ於テ調査セルモノニシテ林地ナキ中島郡ハ最高價ニシテ運搬ノ便ナル名古屋市ハ西春日井郡及ビ海東郡ヨリ低廉ナリトス之レニ依テ森林ノ有無及ビ運搬ノ便否ハ如何ニ材價ニ影響ヲ來スカヲ知ルベシ、即チ瀬戸燃料ノ騰貴ハ森林ノ荒廢其一因タルヲ證スルニ足ル

松材ノ消費高

陶磁器ノ各窯ニ就テ其消費高ヲ區別シ精細ニ計算セント欲スレハ是レ容易ノ業ニアラズ如何トナレバ陶窯ハ大凡年ニ四回ニシテ九窯ハ五回古窯ハ七回素燒窯ハ毎月七回錦窯ハ毎月三十回等ノ割合ナリト云ヘハ是又確定セルモノニアラズ、且窯ニ大中小アリテ其使用燃料一定セザルヲ以テ到底精確ナル調査ヲナス能ハザルナリ、依テ左ニ瀬戸町陶磁器組合事務所ニ於テ調査セル總消費高ヲ舉グルコト、セリ

年 度	東 數	價 目	價 格
二十八年	一、〇〇七、〇〇〇	五、〇三五、〇〇〇	二〇八、〇〇〇
二十九年	一、一五〇、〇〇〇	六、二五〇、〇〇〇	二一五、〇〇〇
三十一年	一、三八〇、〇〇〇	六、九〇〇、〇〇〇	二二二、〇〇〇
三十二年	一、三四〇、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇
計	一、四〇二、〇〇〇	七、〇一〇、〇〇〇	二五一、〇〇〇
平均	一、二七五、〇〇〇	六、三七九、〇〇〇	二二五、〇〇〇

即チ燃料ノ消費高ハ年々相加ハリ三十二年度ニアリテハ二十八年度ヨリ三十九萬五千束即チ百九十七萬五千貫目ヲ増加セリ若シ今後増加ノ見込ナシト仮定スルモ五ヶ年平均額即チ百二十七萬五千八百束其目

方六百三十七萬九千貫目ヨリ減少スルコトハナカルベシ、今之レヲ實驗ヨリ得タル松生木一尺ノ重量八十五貫目乾材トシテ三割減ナル重量五十九貫五百目ニテ除スルトキハ十萬七千二百十尺ノ余ヲ得之レヲ瀬戸陶磁器用松薪ノ一ヶ年消費額トス今一町歩連年生長量十尺ノ産出スル中等地位ノ森林ヨリ二十年ノ輪伐ヲ以テ之レヲ供給セントスルトキハ年々五百三十六町歩ヲ伐採セザルベカラズ即チ一萬七百二十町歩ノ薪材備蓄林ヲ要ス

薪材 備蓄 林

陶磁器用燃料ノ將來ヲ思フトキハ轉々憂慮ニ堪ヘザルモノアリ、彼ノ供給地タル名古屋市へ輸入スル伊勢及ビ紀州三河地方ニアリテハ近時材價ノ高騰スルニ從ヒ伐採ノ量次第ニ進ミテ連年生長量ヲ超過シ又一方ニハ林地ノ開墾セラル、モノ多シ故ニ若シ此儘ニテ經過スルトキハ薪炭ノ供給ハ俄カニ減退シテ其價格ノ騰貴スルコト火ヲ見ルヨリモ明カナリ、今日既ニ其相場ノ高價ナルニ苦シミツ、アル陶磁器業者ハ將來之レヲ如何ニスベキヤ余ハ其一策トシテ薪材備蓄林ノ經營ヲ勸誘セザルヲ得ザルナリ
備蓄林ハ何ツヤ、陶磁器製造用ニ供スルツメ年々ノ使用料ヲ計算シテ之レニ相當セル材料ヲ有スル森林ヲ造成スルニアリ、顯ミテ瀬戸地方ノ山林ヲ檢スルニ荒廢其極ニ達スルモノアリト雖モ地質ノ然ラシムルトコロカ松樹生育ニ不適當ナルノ地少ク松樹ヲ植栽スルトキハ一町歩ニ對シ八尺以上ノ連年生長量ヲ有スルニ至ルハ現生長ノ有様ニヨリテ推定シ得ベシ、故ニ伐期ヲ三十年トシテ松林ヲ經營スルトキハ適當ナル製陶磁器用ノ薪材ヲ得ル容易ナリトス、然レハ三十年伐期トシテ連年作業ヲナサントスルトキハ薪材ノタメニ少クモ一萬町歩ノ森林ヲ備蓄セザルベカラズ、之レ或ハ瀬戸ニ接近セル西加茂愛知兩郡及ビ東春日井郡ノ一部分ニシテ充分ナリト云ヘドモ此等ノ計劃ハ縣全般ノ力ニ依ラズンバ到底其望ミヲ達スルヲ得ズ、余ハ速ニ本縣林政ノ改善ヲ斷行シテ此計劃ヲ實行シ勉メテ薪材恐慌ノ緩和ヲ計ルト共ニ間接ノ利益ヲ享受セントス

林業上ヨリ觀察シタル瀬戸ノ改良

林業上ヨリ瀬戸陶磁器業ヲ觀察スルトキハ目下ノ狀況ヲシテ永遠ニ持續シ所謂國寶(舊藩時代ニハ陶磁器ヲ國寶トシテ保護セリ)ヲシテ永ク名聲ヲ博シ得ルハ夢ニモ思ヒ及バザルトコロナリ
 森林ノ荒廢ハ益々林産物ノ欠乏ヲ來タシ獨リ燃料ヲ騰貴セシムルノミナラズ間接ニハ生活費ヲ高ムルヲ以テ從テ職工賃錢ノ暴騰トナリ遂ニ陶磁器製造業ヲ掣肘シ遂巡進ム能ハザルニ至ラシムベシ、之レヲ既往ニ鑑ミ將來ヲ推考スレバ豈杞人ノ憂ノミナランヤ
 本縣重要物産ノ一タル陶磁器業ノ前途此ノ如シ今ニ於テ之レヲ保護之レヲ救済スルノ方法ヲ講ゼザレバ臍ヲ喘ムノ悔アルベシ、茲ニ余ハ左ノ三策ヲ提出セリ

- 一、窯ノ改良
- 二、精巧品ノ製造
- 三、山林ノ蕃殖

其一、窯ノ改良
 瀬戸ノ陶磁器窯ハ古來ノ構造法ヲ因襲セルモノニシテ粗放的ノ構造タル驚クニ堪ヘタリ、炭燒窯モ改良セントスルモノアルニモ拘ラズ此貴重ナル陶磁器ヲ製造スル窯ノ改築ニ企及セザルハ何故ク燃料ノ過多ナル古昔ニアリテハ窯ノ構造ハ別ニ意ニ介スルニ足ラザリシト云ヘドモ今日ノ如ク薪材欠乏シテ製品價格ノ殆ド四割ヲ燃料ニ消費シ其高騰ニ苦シム、アル當業者ハ宜シク薪材ヲ減少シテ製産價格ヲ騰貴セシムルノ方法トシテ窯ノ改良ヲナサザルベカラズ或人曰ク窯ノ改築ヲ實行セントスレバ寧ロ石炭窯ニ改ムベシト之レ陶磁器業者ノ望ムトコロナルベシト雖モ巨額ノ資本ヲ要スルノミナラズ其結果未ダ知ルベカラザルモノアルナ如何セン故ニ余ハ石炭窯ニ進ムノ順序トシテ現今使用シツ、アル粗製窯ハ改築シ薪ノ削減ヲ企望シテ止マザルアリ、若シ窯ノ改築ニシテ實行セラレ薪材二割ヲ減少シ得ルトセバ瀬戸町ニ於テ實ニ五萬圓ノ増收入ヲ得ルニ至ルベシ、去レバ一割ノ利子ヲ生ズル資金五拾萬圓ヲ使用シテ改築シ遂グルモノトスルモ猶多少ノ利益アリトス窯ノ改築豈蔑視スベケンヤ

其二、精巧品ノ製造

現今日本陶磁器中瀬戸物最多ノ部分ヲ占メ製品又巧妙ナリト稱スレバ美術思想ヲ闕如セルハ美術家ノ嘆惜スルトコロナリ當業者ハ宜シク注意研究セザルベカラズ近來殊ニ粗製品ヲ製出シ製造個數ノ夥多ナルニ比シテ收入價格少ク燃料ノ消費ハ割合ニ増進セリ是レ尤モ憂フベキコトナリト左ニ輸出品及ビ内國ノ割合ヲ擧グレバ

年 度	金 額	荷物ノ數	亞米利加及ビ歐洲	清 國	内 國
廿八年	二七、八四五	100、一六	六分五厘	一分	二分五厘
廿九年	一、三三〇、四九	101、四〇〇	六分	二分	二分
三十年	一、一七〇、一四九	107、一五	五分	三分五厘	一分五厘
卅一年	一、三三五、八六四	101、二五〇	三分五厘	三分五厘	三分
卅二年	一、八六、五〇四	110、六八	三分	四分五厘	二分五厘

本表ハ明カニ精良品ヲ減少スルト共ニ其產出個數ノ割合ニ總價格ヲ減少セルヲ示セリ、即チ亞米利加及ビ歐洲へ輸出スル多量ナル時ニアリテハ收入ヲ得ル從テ多額ナリト云ヘ凡清國輸出増加スルニ至リテハ大ニ所得金額ヲ減少セリ、清國向ハ西洋向ニ比シテ粗製品ナレバナリ粗製品ハ製造シ易シ數ヲ以テ「コナセ」ノ算法ヨリ自然清國向ヲ製造スルニ至リシモノカ、果シテ然ラバ大ナル誤解ト云ハザルベカラズ、燃料多量ニシテ且ツ職工賃銀低廉ナル舊昔ニアリテハ此目的ヲ以テ利純ヲ攫取スルヲ得タリト云ヘ凡高價ナル燃料ヲ消費シ多額ノ賃銀ヲ支拂フテ職工ヲ使用スル現時ニアリテハ一定時間ト一定量ノ薪材ヲ以テ比較的多額ノ純收入ヲ得ルニ注意セザルベカラズ况ンヤ近來陶土原料ヲ減少セルニ於テオヤ、壹圓ノ

茶器モ拾錢ノ茶器モ薪材及ヒ工費ヲ要スルニ至リテハ大差ナカルベシ、故ニ粗造品ヲ多量ニ製造セシヨ
リハ寧ロ精巧品ヲ少量ニ製造スルヲ以テ得策ナリトス、換言スレバ清國へ輸出セシヨリハ西洋諸國ニ輸
出スルコトヲ計畫セザルベカラズ、是レ今日ノ急務ナリトス
其三、山林ノ蕃殖

山林ノ蕃殖ハ薪材ノ供給ヲ潤澤ニシ最モ低廉ニ需用スルヲ得ルニ至ラシム、薪材ノ低廉ナレハ獨リ陶磁
器業者ニ利益ナルノミナラズ一般住民ノ利益ナリトス、若シ現況ヲ永遠ニ維持スルモノト仮定スレバ如
何ナル家ニテモ毎月金貳圓以上ノ薪材ヲ要スベシ貳圓少額ナルガ如シト云ヘドモ中等以下ノ住民ニアリ
テハ遂ニ燃料ニダモ堪ヘザルニ至ルベシ、殊ニ當業者ニアリテハ年々燃料ノ價格ヲ増加シ慘憺タル悲況
ニ陥ルヤ明カナリ、今瀬戸町地籍ニ屬スル山林ヲ調査スルニ民有反別殆ド百町歩之レニ御料林反別百六
十余町歩ヲ合算スルトキハ實際面積三百町歩ノ余ニ達ス、三百町歩ノ山林ヲ以テ瀬戸町ノ燃料ヲ充足ス
ル能ハザルベシト雖モ此林地ニシテ規則正シク經營セラル、ニ至レバ其薪材價格上ニ影響スル些少ニア
ラザルベシ仮リニ三十年伐期ノ松林ヲ仕立ツルトセバ年々十町歩ヲ伐採シ得ベク十町歩ノ材積ハ少クモ
二千四百尺ベ即チ二十萬四千貫目ヲ產出スルニ至ルベシ而シテ本材積ハ昨三十二年消費額ノ三分ニ當ル
ヲ以テ七千余圓ノ利益アリトス然ルニ瀬戸地方ノ山林ハ此荒廢殆ド其極ニ達シ肉落チ骨現ハレ薪材ノ產
出ナキノミナラズ瀬戸地方ニ害毒ヲ流シツ、アリ彼ノ瀬戸ノ中央ヲ貫通セル瀬戸川ノ如キ往昔ハ深川ト
稱シ深キ細流ナリシト云フヲ聞キテモ如何ニ山林ノ荒廢ハ土地ヲ損傷シ地方經濟ヲ攪亂スルカチ知ルベ
シ、然レモ此山林モ其施設ヲ確實ニシ着々歩ヲ進ムルニ至ラバ前既ニ述ブルガ如ク三十年伐期ノ松林ニ
シテ七千余圓ノ連年收穫ヲ得尙間接ニ土砂ノ流出ヲ抑止シ水流ヲ平順ニナスノ効力アリトセバ瀬戸ノ林
業豈輕忽ニ看過スベケンヤ
以上ノ理由ニ依リ余ヲシテ極論セシムレバ瀬戸地方ノ農田ハ寧ロ之レヲ森林ニ變換スルノ事業簡易ニシ
テ且ツ利益アルニ如カザルナリ、是レ陶磁器業ハ其直接及ヒ間接ニ供用スルトコロノ薪材ヲ廉價ニ得ル

ヲ以テ始メテ成ルモノナリ穀物ハ遠方ヨリ輸入スルモ難キニアラズト云ヘ共燃料ニ至リテハ決シテ然ラ
ザルモノナレバナリ

今瀬戸地方ノ田畑反別ヲ合計スルトキハ九十余町歩アリ、之レヲ三十年伐期ノ松林ヲ仕立ツルトキハ年
々三町歩ヲ伐採スルコトヲ得、然ルニ此土地ハ肥沃ナルヲ以テ想フニ連年生長量ハ殆ト二十尺ニ至ル
ベシ即チ總計千八百尺ベ目方十五萬三千貫目百貫目ニ付金四圓トスレバ年々六千六百貳拾圓ヲ得一町歩平
均貳千四拾圓ナリ、故ニ一町歩植栽費百圓トシテ八朱ノ重利法ニヨレル三十年間ノ元利合計千六圓貳拾
七錢ヲ差引キ尙ホ千參拾參圓七拾參錢一年ニ對シ金參拾四圓四拾五錢余ノ純收入ヲ得、大和吉野杉林ノ
純收入金貳拾九圓九拾貳錢ニ比較シテ利益多シトス今日ノ營業ハ果シテ比純收入ヲ收得スルヤ實ニ疑ハ
シキモノナリ、瀬戸森林ノ蕃殖ハ一日モ忽ニスベカラズ

結論

陶磁器ノ製造ハ必ラズ薪材豐富ノ土地ニ於テ營業セザルベカラズ且ツ其燃料ハ松薪ニ依ラザルベカラザ
ルヤ明カナリ、將來或ハ石炭窯ヲ設置スルモノアルベシト雖モ多數ノ製造家ハ尙薪材ヲ使用スベシ、況
ンヤ本縣ハ薪材ヲ產出スルノ土地饒ニシテ其施設ノ如何ニ依リテハ東春日井、西加茂兩郡ノ山林ニシテ
今後二三十年ヲ經過セバ林產物ノ供給大ニ増加シ廉價ニ之レヲ需用シ得ルノ見込充分ナルモノアルニ於
テオヤ、瀬戸陶磁器業者ノ將來ヲ想ハバ瀬戸ノ人何ゾ奮起セザル、陶祖加藤四郎左衛門氏(第十二)及ヒ加
藤民吉氏(第十七)ノ功蹟ヲ追慕スルモノハ陶磁器製造業ノ一大敵タル薪材ノ欠乏ヲ排除シ供給ヲ潤澤ナラ
シメ瀬戸ヲシテ益々其名聲ヲ專ニセシムベシ嗚呼之レ誰レノ責任ヅヤ

縣ハ又縣ノ事業トシテ林政ヲ改善セザルベカラズ如何ナル工業モ林產物ノ恐慌ハ大ニ其進歩ヲ妨害スル
モノナルヲ知ラバ此工業ノ隆盛ナル將來モ尙工業ヲ以テ隨一ノ殖産事業トナサザルベカラザル本縣ニ於
テハ宜シク其施設ヲ確實ニシ林產物恐慌ノ緩和ヲ計ラザルベカラズ若シ夫レ林業經營及ヒ窯ノ改築ヨリ
燃料ヲ低減スルコト、相俟チテ五圓ニ至ラシムルヲ得バ瀬戸ニ於テハ今後年ニ拾貳萬余圓ノ増益アリト

茶器モ拾錢ノ茶器モ薪材及ビ工費ヲ要スルニ至リテハ大差ナカルベシ、故ニ粗造品ヲ多量ニ製造セシヨ
リハ寧ロ精巧品ヲ少量ニ製造スルヲ以テ得策ナリトス、換言スレバ清國へ輸出セシヨリハ西洋諸國ニ輸
出スルコトヲ計畫セザルベカラズ、是レ今日ノ急務ナリトス

其三、山林ノ蕃殖

山林ノ蕃殖ハ薪材ノ供給ヲ潤澤ニシ最モ低廉ニ需用スルヲ得ルニ至ラシム、薪材ノ低廉ナレハ獨リ陶磁
器業者ニ利益ナルノミナラズ一般住民ノ利益ナリトス、若シ現況ヲ永遠ニ維持スルモノト仮定スレバ如
何ナル家ニテモ毎月金貳圓以上ノ薪材ヲ要スベシ貳圓少額ナルガ如シト云ヘドモ中等以下ノ住民ニアリ
テハ遂ニ燃料ニダモ堪ヘザルニ至ルベシ、殊ニ當業者ニアリテハ年々燃料ノ價格ヲ増加シ慘憺タル悲況
ニ陥ルヤ明カナリ、今瀬戸町地籍ニ屬スル山林ヲ調査スルニ民有反別殆ド百町歩之レニ御料林反別百六
十余町歩ヲ合算スルトキハ實際面積三百町歩ノ余ニ達ス、三百町歩ノ山林ヲ以テ瀬戸町ノ燃料ヲ充足ス
ル能ハザルベシト雖モ此林地ニシテ規則正シク經營セラル、ニ至レバ其薪材價格上ニ影響スル些少ニア
ラザルベシ仮リニ三十年伐期ノ松林ヲ仕立ツルトセバ年々十町歩ヲ伐採シ得ベク十町歩ノ材積ハ少クモ
二千四百尺ベ即チ二十萬四千貫目ヲ產出スルニ至ルベシ而シテ本材積ハ昨三十二年消費額ノ三分ニ當ル
ヲ以テ七千余圓ノ利益アリトス然ルニ瀬戸地方ノ山林ハ此荒廢殆ド其極ニ達シ肉落チ骨現ハレ薪材ノ產
出ナキノミナラズ瀬戸地方ニ害毒ヲ流シツ、アリ彼ノ瀬戸ノ中央ヲ貫通セル瀬戸川ノ如キ往昔ハ深川ト
稱シ深キ細流ナリシト云フヲ聞キテモ如何ニ山林ノ荒廢ハ土地ヲ損傷シ地方經濟ヲ攪亂スルカチ知ルベ
シ、然レモ此山林モ其施設ヲ確實ニシ着々歩ヲ進ムルニ至ラバ前既ニ述ブルガ如ク三十年伐期ノ松林ニ
シテ七千余圓ノ連年收穫ヲ得尙間接ニ土砂ノ流出ヲ抑止シ水流ヲ平順ニナスノ効力アリトセバ瀬戸ノ林
業豈輕忽ニ看過スベケンヤ

以上ノ理由ニ依リ余ヲシテ極論セシムレバ瀬戸地方ノ農田ハ寧ロ之レヲ森林ニ變換スルノ事業簡易ニシ
テ且ツ利益アルニ如カザルナリ、是レ陶磁器業ハ其直接及ビ間接ニ供用スルトコロノ薪材ヲ廉價ニ得ル

ヲ以テ始メテ成ルモノナリ穀物ハ遠方ヨリ輸入スルモ難キニアラズト云ヘ共燃料ニ至リテハ決シテ然ラ
ザルモノナレバナリ

今瀬戸地方ノ田畑反別ヲ合計スルトキハ九十余町歩アリ、之レヲ三十年伐期ノ松林ヲ仕立ツルトキハ年
々三町歩ヲ伐採スルコトヲ得、然ルニ此土地ハ肥沃ナルヲ以テ想フニ連年生長量ハ殆ト二十尺ベニ至ル
ベシ即チ總計千八百尺ベ目方十五萬三千貫目百貫目ニ付金四圓トスレバ年々六千六百貳拾圓ヲ得一町歩平
均貳千四拾圓ナリ、故ニ一町歩植栽費百圓トシテ八朱ノ重利法ニヨレル三十年間ノ元利合計千六圓貳拾
七錢ヲ差引キ尙ホ千參拾參圓七拾參錢一年ニ對シ金參拾四圓四拾五錢余ノ純收入ヲ得、大和吉野杉林ノ
純收入金貳拾九圓九拾貳錢ニ比較シテ利益多シトス今日ノ營業ハ果シテ比純收入ヲ收得スルヤ實ニ疑ハ
シキモノナリ、瀬戸森林ノ蕃殖ハ一日モ忽ニスベカラズ

結論

陶磁器ノ製造ハ必ラズ薪材豐富ノ土地ニ於テ營業セザルベカラズ且ツ其燃料ハ松薪ニ依ラザルベカラザ
ルヤ明カナリ、將來或ハ石炭窯ヲ設置スルモノアルベシト雖モ多數ノ製造家ハ尙薪材ヲ使用スベシ、況
ンヤ本縣ハ薪材ヲ產出スルノ土地饒ニシテ其施設ノ如何ニ依リテハ東春日井、西加茂兩郡ノ山林ニシテ
今後二三十年ヲ經過セバ林產物ノ供給大ニ増加シ廉價ニ之レヲ需用シ得ルノ見込充分ナルモノアルニ於
テオヤ、瀬戸陶磁器業者ノ將來ヲ想ハバ瀬戸ノ人何ヲ奮起セザル、陶祖加藤四郎左衛門氏(第十二世紀頃)及ビ加
藤民吉氏(第十七世紀頃)ノ功蹟ヲ追慕スルモノハ陶磁器製造業ノ一大敵タル薪材ノ欠乏ヲ排除シ供給ヲ潤澤ナラ
シメ瀬戸ヲシテ益々其名聲ヲ專ニセシムベシ嗚呼之レ誰レノ責任ヅヤ

縣ハ又縣ノ事業トシテ林政ヲ改善セザルベカラズ如何ナル工業モ林產物ノ恐慌ハ大ニ其進歩ヲ妨害スル
モノナルヲ知ラバ此工業ノ隆盛ナル將來モ尙工業ヲ以テ隨一ノ殖産事業トナサバカザラザル本縣ニ於
テハ宜シク其施設ヲ確實ニシ林產物恐慌ノ緩和ヲ計ラザルベカラズ若シ夫レ林業經營及ビ窯ノ改築ヨリ
燃料ヲ低減スルコト、相俟チテ五割ニ至ラシムルヲ得バ瀬戸ニ於テハ今後年ニ拾貳萬余圓ノ増益アリト

ス豊大ナラズヤ (明治三十四年六月)

三河國寶飯郡ノ東南部松ノ平坦林ニ就テ

愛知縣立農林學校教諭 北 村 正 夫

諸君。寶飯郡ハ三河ノ南部ニアリ西北ハ山岳ヲ以テ額田郡ニ界シ東方ハ東北ノ一隅南設樂郡ニ接スルノ外三河國第二ノ大河タル豊川ヲ隔テ八名郡ニ接シ南ハ渥美灣ニ臨ム面積一三、六方里ニシテ人口七萬七千百餘人ヲ有ス地勢西北ハ一帯山岳地アリ東南ハ弘漢タル平地ニシテ當調査ノ松林ハ此ノ平坦地中ノ未ダ農地ニ開墾セラレザル部分ナリトス

(地勢)殆ソド傾斜ナキ平坦地ニシテ通路縱横ニ通シ官設鐵道ハ御油蒲郡ノ二驛ヲ私設豊川鐵道ハ豊川一ノ宮長山東上ノ四驛ヲ置キ外ニ豊川ノ水運アリ運搬ノ便間然スル處ナシ

地質及土壤 ハ大部分供積層ニシテ一部ニ沖積層アリ甲ハ礫質壤土ニシテ乙ハ壤土質ナリ地味深ク適潤ニシテ松林地ハ肥沃ナラズト雖理學的性質良好ナリ

(林況)樹種ハ黒松及ヒ赤松ニシテ黒松ハ人工植栽ニ掛リ赤松ハ天然造林ニヨル單純林ナキニ非ズト雖モ概テ混淆ス

作業ハ皆伐法ニシテ伐採後地ニ若干ノ長木ヲ保殘スルモノアリト雖モ甚ダ小數ナリ

伐期ハ元ヨリ一定セズ各所有者ノ都合ト材價ノ高價下等ニヨリ二十乃至四十年ニ伐採シ百餘年ノ老木ハ稀有ナリ

林相ハ各所有主區々ノ經營ヲナシ地況又相等シカラザルモノアリ元ヨリ一樣ナルヲ得ズト雖モ一般ニ間伐枝打等其度ニ過ギ立木數ニ比シ閉鎖密ナラズ加フルニ落葉下草ノ採取甚酷ナルガ爲メ林地乾燥シ生長シカラズ(視察中十年生内外ノモノニ強キ枝打ヲナセルモノヲ見タリ)

林齡前記ノ如ク凡四十年生以下ニシテ殊ニ二十年内外ノモノ最モ多シ蓄積ハ林相一樣ナラザルヲ以テ宜

全一林齡ノモノト雖モ大差アルヲ免レズ次表ハ凡中様ノ林地ニ於ケル法正林ノ蓄積ヲ想定セシモノナリ但シ面積一町歩ニ付テ示ス(尺²)

林齡	材積	連年生長	平均生長
一〇	七〇	三二〇	七〇
二〇	三九〇	四七〇	一九五
三〇	八六〇	二二〇	二八七
四〇	一、〇八〇	一五五	二七〇
五〇	一、二三五	一	二四〇

(成立)皆伐後地ハ翌年舊曆一月中ニ黒松二年苗ヲ一町歩三千本宛ヲ植栽シ翌年三年苗ヲ補植ス但シ赤松ノ天然下種造林(黒松ハ天然下種ニヨリ發生スルモノ少シト云フ)ヲナスモノアリト雖モ造林后ノ生長遲緩ナルヲ以テ植栽スルノ利益ナルニ若カズト云フ

新植后地ハ雜草ノ害少キヲ以テ之ヲ放置シ五年目ニ至リ枝打ヲ行ヒ爾后二年乃至五年毎ニ枝打ヲナシ又二十年ニ至ル迄凡ソ五年毎ニ間伐ヲ行フ尙ホ新植后十年目ヨリ年々落葉下草ノ採集ヲナス

(伐採)前記ノ如ク概二十年乃至四十年迄ニ於テ皆伐シ直經五寸以上ノ通直ナルモノハ用材トシテ他ハ薪材トナス

薪材ハ長一尺ニ切り二ツ乃至四ツ割トシ次ノ如ク荷造ス

直經二寸内外ノモノ(割ラザルモノトシテ)

同 三寸内外ノモノ(同) 二本

同 四寸内外ノモノ(同) 一本

五束ヲ一把ト云フ此束ハ繩ニテ結ビ把トナストキワ内周四尺五寸ノ竹環(タガト稱ス)ニテ結ビタルモノニシテ生木重九貫目内外乾重五貫目内外ナリ(視察中第一日ニ瀬戸町ニ到リシ際燃料トシテ松薪ヲ竹環

ニテ結ビタルモノアリシハ即チ之ナリ)
 枝葉ハ凡二尺乃至三尺ノ長サニ切り三尺繩ニテ結ブ之ヲ粗朶ト稱ス
 (需用地)薪材ノ需用ハ主トシテ尾張國瀬戸其他ノ陶器製造地ニシテ豊橋其他ノ市場ニ出ヅルハ其一部分
 ナリトス尙年々ノ産額ハ統計ノ微スベキモノナケレバ知ルニ由ナシ
 以上ハ現實ノ狀況ナリ而シテ此林地ノ沿革ヲ探ルニ
 (平坦地ノ沿革)此平坦地ハ元一帯ニ總稱シテ本野ケ原ト稱シ地味豊沃ニシテ最モ古クヨリ開ケシモノナ
 ルベク往古ノコトハ知ルニ由ナシト雖モ傳フル所ニヨレバ一種民族渥美灣ニ漂流シ來リ茲ニ土着シ始メ
 テ部落ヲナシタル由(一説ニ二千余年前秦ノ徐福此地ニ來リシモノナリト云フ)爾來耕シテ豊田沃圃ヲ開
 キ然ラザル地ハ燒キ拂ヒシモノニシテ松林ハ其後地ニ成立セシモノナラン而シテ此ノ松林ノ經營法ニ付
 テ七十年前已ニ伐採后地ノ天然生ノ苗ヲ撫育シ又發生セザル地ハ植栽セシト云フ但シ豊川町ノ北方ニ方
 リ現時字本野ケ原ト稱スル所ハ昔時十二ヶ村ノ入會秣草場ニシテ今ヨリ二十年前分割ヲ行ヒ黒松ヲ植栽
 セリト云フ

(收支ノ計算)(一反歩ニ付キ) 之等松林ノ收支元ヨリ大差アリト雖モ從來實行セシモノ、平均數ヲ揭
 レバ次ノ如シ
 但シ北村正夫氏ノ調査書ニハ詳細ノ記載及計算等アルモ省畧シ只其結果ノモノヲ記ス且ツ此計算ニ伐
 期ヲ三十年トシ年利率五ベルセント、ナス

伐期收入	六五〇〇〇	造林費	三三三八八
間伐收入	七、〇四九	土地資本金子	一三二、八七六 <small>(一反歩四〇、〇〇)</small> <small>(三十年間ノ利子)</small>
枝條收入	六、五五九	諸税金	五、三八一
落葉下草收入	一三、八八八	計	一四一、六四五

收入後價 支出後價

計 九二、四九六 差引不足 四九、一四九

資本利子五%トシテ計算スルトキハ一伐期間(三十年)ニ於テ四拾九圓拾四錢九厘ノ損失トナリ之チ一ヶ
 年ノ收支損益ニ改算ヘルトキハ

收入年額	一、三九二
支出年額	一、三三二

差引平均一ヶ年間ノ損失 〇、七四〇トナル
 即チ資本金五%ノ利率ニシテ計算スルトキハ毎年〇、七四〇ノ損失ヲ生ズ之レ畢竟土地賣買價ノ甚ダ
 高貴ナルガ故ニシテ若シ前記四拾圓ノ半額貳拾圓ナリトセバ若干ノ利益ヲ生ズベシ
 今比較ノタメ附近ノ畑作ノ收支ヲ述ベシ
 此ノ收支ヲ計算スル前此地方ノ農業ノ狀況ヲ述ザルベカラズ乃此ノ地方ノ畑作物ノ種類ハ非常ニ多シト
 雖モ其最モ利益大ニシテ農民ノ最モ多ク耕作スルハ生姜及桑ニシテ殊ニ近年ニ至リ生姜非常ニ騰貴シ利
 益甚デ大ナリト云フ而シテ生姜ハ連作ヲ忌ミ一年乃至二年ヲ隔テ耕作シ其間ハ普通薩摩薯ヲ耕作ス又冬
 作ハ殆ド麥作ヲ耕作ス依テ畑作ノ最モ利益大ナル生姜ノ耕作ニ付收支計算ヲ示サン
 (此ノ計算モ詳細ハ省畧シ結果ノミヲ記ス)

作物ノ種類	第一 年	備考
夏作生姜	收入總額 五五五〇〇	支出總額 一九五一五〇
冬作大麥	八、八三三	一〇、九三八
		一、九六〇
計	六四、三三三	三二、〇四八
差引利益	三二、二八五	

第 二 年
 夏作薩摩薯 一二、五〇〇 八、七三〇
 冬作大麥 八、八三三 九、四三八
 一、九六〇

計 二一、三三三 二〇、二二八

差引利益 一、一〇五

此二ヶ年ノ平均利益ヲ見レバ

第一年ノ利益 三二、二八五

第二年ノ利益(前價) 一、一四八

33,433 ÷ 2 = 16,717...

此田地一反歩地代百八拾圓ニ對スル利息(5%)九圓ヲ差引クトキハ一反歩ニ付キ毎年七圓七拾壹錢七厘ノ起業利益アリ(資本ニ5%ヲ回シタル上)

此ク大利益ヲ生ズルハ全ク近年生姜ノ非常ノ好影氣ナルニ因ス若シ第二年月ノ生姜ナキ年ノミニ付テ計算セバ土地資ニ對スル利息ヲ差引クトキハ實ニ七圓八拾五錢貳厘ノ損失トナル

(結論)如上ノ計算ニヨレバ農業殊ニ生姜耕作ノ利益遙ニ林業ノ上ニアルヲ見ル然レドモ單ニ此計算ノ結果ノミニヨリ林業不利益ナリトハ斷定スベカラザルベシ此斷定ヲナスニハ少クモ尙次ノ數項ニ注意ヲ要スベシ

(一)農業ノ利益大ナルハ近年生姜ノ俄ニ好價格トナリシ爲メニシテ大麥甘藷等ハ到底林業ノ利益ニ及バズ

(二)生姜ヲ耕作スルニハ土地甚ダ肥沃ナルヲ要ス現在ノ林地ノ如キ惡地ヲ開墾シ生姜ヲ耕作スルヲ得セシムルニハ幾何ノ改良費ヲ要スルカ

(三)林地平坦ニシテ作業甚ダ便運搬又至便ニシテ枝葉根株ニ至ル迄好價格ヲ有シ林業地トシテハ至高ノ收利ノ事業ヲ行ヒ得ベク土地ノ理學的性質不良ナラズ經營其當ヲ得バ更ニ良林地トナシ得ベク從ツテ將來良樹種ヲ造林シ更ニ收入ヲ増加シ得ベキヤ疑ヒナシ

之等ノ事項ヲ精密ニ決定スルニハ尙ホ深キ調査ヲ要スベシト雖モ彼是ヲ相合シ且ツ東京府中ニ林業ヲ營ミ農業ニ數培スル利益ヲ獲得セルヲ考フレバ當地方ノ林業又決シテ非認スベキニアラザルベシ然レドモ其經營ノ法當ヲ得ズンバ勿論此限リニ非ズ (明治三十六年十月)

牧草栽培談

本縣技師 三 溝 謹 平

長馬ハ槽櫃ヨリ育ツト云ヘル如ク長馬ヲ產出セントスレバ飼料ニ十分ノ注意ヲ拂ハナクテハナリマセン去レバ本縣ニ於ケルガ如キ馬匹育生地ニアリテハ是非トモ牧草ノ栽培ヲ獎勵シ又牧草ノ改良ヲ企圖セテバナラヌコトデス、唯馬匹ノ改良ヨリ牧草栽培ノ必要ヲ感ズルノミナラズ農業改良上ヨリスルモ牧草改良ノ必要ナルハ世人ノ既ニ認ムルトコロデアリマス、即チ作物種藝ト家畜生産ヲ併行セシムルハ農業經濟ヲ増進スル唯一ノ方法デアリマス、維新前ニアリテハ我邦ノ農業モ大抵ハ家畜生産ト作物種藝ト相併行スルノ傾向ガアリマシタ、然ルニ維新後世運ノ進歩ト共ニ駄牛馬ハ荷車ト變リ爲メニ牛馬ヲ飼用スルモノ減少シ此長風ハ段々退歩シ今日ハ家畜ニ就テ彼是レ申シマシテモ耳ヲ傾クルモノ少キ有様トナリマシタ、併シナガラ農業經濟上ドウシテモ家畜飼養ヲ獎勵シ家畜生産ヲ饒ニセテバナリマセン、去レバ是非共其飼養スル牧草ノ栽培ハ忽ニスルコトハデキマセン是レ農業改良ヲ企圖スルモノハ牧草栽培ニ盡カスルハ恰モ其花ヲ養ハントシテ其根ニ培フト同コトデス、而シテ又牧草ノ改良栽培ハ林業獎勵上ニ向ツテ大ナル關係ヲ有スルハ目下本縣ニ於ケル一般ノ狀態デアリマス、故ニ我々林業家ハ林業獎勵ヲナスノ傍ラ牧草ノ栽培改良ニ盡力セテバナラヌコト、思ヒマス、殊ニ林業家トシテ牧草ノ栽培ヲナスコトハ西洋ニモ例ノアルコトニシテ専門外ノ事ニ啄ヲ容ル、所謂餅屋ガ酒ノ講釋ヲスルトハ大ニ其趣キヲ異

ニ致シマス、彼ノ佛國アルプス山ノ山中ニテハ灌水アル地ヲ撰ビ牧草地トシテ之レニ灌水シ牧草ヲ栽培シテオルソウデス、之レヲ稱シテ養草森林家ト云フ即チ牧草ノ需用多キ地ニ於テハ適當ナル土地ヲ撰ビテ牧草ヲ栽培スルハ亦林業家ノ任務ト思ヒマス

林業獎勵上何故ニ牧草ノ改良必要ナルカト云ヘハ農業者ハ久シキ間ノ慣習ニテ原野ニ樹木ノ植栽ヲ勸ムレバ即チ曰ク牛馬ノ飼料ヲ失ヒ又肥料ヲ減ズ云々ト敢テ植樹ヲ肯ンセズ劣等ノ芻草ヲ天然ニ放任シテ漸々不毛ノ地ヲ増加スルノミ若シ之等ノ地ニシテ乾草ヲ四百貫目得ルトセバ之レニ灌水スルハ千五六百貫目乾草ヲ得ル割合ナリ又良種ノ牧草ト自然生ノ雜草トハ其牧草トシテ含有スル養分ニ大差アルハ多年試驗ノ證明スル所デアリマス故ニ自然ニ放棄セル牧草地ハ灌水肥培セル改良牧草地ニ比較スレバ一ト五トノ比ニシテ自然ノ牧草地五町歩ハ灌水肥培地一町歩ニ相當スル割合ナレバ今日苜草地トシテ必要地視セラル、地積ニ牧草ノ改良栽培ヲ獎勵シテ良種ノ牧草ヲ撰擇シ灌水肥培ナラシムルハ百町歩ノ苜草地ハ六七十町歩迄樹木ヲ植栽セシムルコトヲ得テ一舉兩得ノ策デアリマス、是レ彼ノ森林ヲ以テ有明ナル獨乙國ガ往時苜草地ノ弊害ヲ除去スルタメ政府ハ百方力ヲ盡シテ苜草ニ代用スベキ肥料ヲ索メタリシガ其勞空シカラズ今日ニテハ南米地方ヨリ夥多ノ馬糞ヲ輸入シ或ハ自國ノ地中ヨリ「ボッター」ヲ掘採シテ山林原野苜草採收ノ不幸ヲ免ルニ至レルガ如ク同一筆法ト思ヒマス、去レバ牧草ノ栽培ハ一日モ延バス「ガデキ」ノデス、牧草ノ改良栽培ハ今日ノ急務デアリマス

本縣ニ於ケル牧草ハ如何ナル種類ヲ撰ベキカ吾輩ハ第一「クローバー」ヲ御勸メイタシマス、御承知ノ通り苜草ノ栽培人彼ノ又獨乙國農業進步ニ對シ非常ニ効力アル影響ヲ及ボシ其苜草耕耘ニ關シテ殊功ヲタテタル「ヨハンクリスト」シユアアルト「氏」ハ「ヨセフ」第二世ヨリ苜草園ノ貴人ナル名ヲ賜ハリ貴族ニ列セラレマシタ又某米人ノ述ベマシタコトニ

苜草ハ一方ニ於テハ多量ノ收穫物ヲ得ルノミナラズ他方ニ於テハ「ボッター」磷酸窒素ノ供給者タルノ働キチナスガ故ニ實ニ苜草程重要ナル作物ハ他ニ比類ガナイ若シ吾々ガ米國ニ於ケル農業ノ有様

ヲ標示セントスレバ其圖ノ中心ニハ必ズ苜草ノ葉ヲ書カクテハナリマセン又若シ農業ノ福音ト題シテ説教スルモノガアレバ是非苜草ノ葉ヲトリテ之レヲ賞揚讚美シ農業上ノ凡テノ祝福ハ其源ヲ此苜草ノ小葉ニ發スルヲ論究セテバナラヌ(小川氏牧草論ニヨル)

以上ノ如ク苜草ノ農業進步ニ關係スル事實ニ大ナリト云フベシ而シテ此西洋苜草ニハ二種類アリマス、即チ紅苜草、白苜草(通常「ツメグサ」ト稱ス)デアリマス、紅苜草ハ苜草トナシテ夏間及冬間ノ飼料ニ共スルニ最モ必要ニシテ白苜草ハ其繁生連續スルガ故ニ放牧場ニ適スルノミナラズ堤防等ニ適セリ(本邦從來ノ苜草即チ「ムマゴヤシ」トハ大ニ異レリト雖モ「ムマゴヤシ」ヲ栽培スルモ宜シトス)故ニ土地ノ状態ニヨリ紅苜草ヲ栽培シ或ハ白苜草ヲ栽培スルガ宜シクアリマス又米國ニテハ農作上綠肥即青草肥トシテ此苜草ヲ使用シツ、アリマス恰モ紅苜草二千斤ハ肥料トシテ之レヲ畑地ニ鋤キ込ムトキハ普通ノ厩肥一萬二千斤ニ相當ス「アンモニア」ヲ供給スルヲ得而シテ苜草ノ乾草ハ之レヲ動物ニ食セシムルモ其胃腸ニヨリテ吸收セラル、窒素ノ量ハ僅ニ五分乃至一割ナルヲ以テ一度動物ニ與ヘテ後肥料トナスモ窒素ノ料ニ於テ大ナル損失ナキトノ事デアリマス

又苜草ハ豈科植物ニ屬シ(紫雲英ノ如ク)其根ハ深ク土中ニ入り能ク瘠地ニ生長シテ多クノ養分ヲ吸收シ且ツ空氣中ノ遊離窒素ヲ攝取スル作用ヲ有スルヲ以テ砂地ニ生長スルコトガデキマス、即チ苜草ハ其根ニ小粒アリ此小粒ハ全ク一種ノ「バクテリア」ノ栖息スル處ニシテ其内ニ生存スル「バクテリア」ハ空氣中ヨリ盛ニ遊離窒素ヲ吸收シ自ラ其体ヲ養ヒテヨク繁殖シ且ツヨク肥大シ苜草ハ之レニヨリテ滋養液ヲ化成シ以テ其質ヲ養フ故ニ他人ノ植物ノ生長スル能ハザル地ニモヨク生長スル事ヲ得マス、是レ牧草改良トシテ苜草栽培ヲ唱導スル理由デアリマス

併シナガラ唯牧草栽培法ヨリ論ズルトキハ牧草ハ各種相播混スルヲ可トスル如クナレバ其邊ノ土地ノ狀況ニヨリ牧草專家ニ就テ講究スルガ宜シクアリマス、而シテ土地ノ狀況トハ如何ン栽培スベキ地ハ如何ト申セバ「スプレニデル」氏ノ説ニ依レバ「シユワイツ」チロー「ル」ニ於ケル最良ナル牧草地ハ十五度以

上ノ傾斜チ有スルモノナリ二十度ヲ超過スル傾斜地ハ牧場ノ外使用スルコト能ハズト又「ベルク」氏説ニ依レバ二十度ノ傾斜地ハ犁ヲ用ヒテ耕作スル能ハズ三十度ハ牧場ノ極限ナリト去レバ牧草地ハ二十度以內ニ於ケル傾斜チ有スル地ニシテ左ノ個所ニ設クベキモノト思ヒマス

- 一、牧草地ハ時々水流ノ浸入スルカ或ハ地底水ノ甚ダ高キガタメニ耕作チナスヲ得ズ又之レチナスモ善良ノ結果ヲ望ミ得ザル谷間及ビ低地ニ存在スルモノナリ
- 二、牧草地ハ其固有ノ性質トシテ氣候ノ宜シカラザルガタメ或ハ作土甚ダ淺ク且ツ砂石混合多キタメ或ハ住所ヨリ隔リタルタメ耕作チナシ得ザル地ニ存在スルモノナリ
- 三、牧草地ハ天然ニ規則正シキ灌水ノ便アルカ或ハ多量ノ費用ヲ要セズシテ人工灌水チナシ得ベキ地ニノミ設クベキモノナリ

本縣下ニ於テハ牧草栽培ニ適スベキ地積廣シ即チ南北設樂東西加茂額田渥美寶飯ノ七郡ノアル部分ハ勿論其他各郡ニ於ケル或ル部分ハ牧草栽培スベキ土地ニシテ又牧草ノ栽培ヲ獎勵スルチ利益アリト思考スレバ當業者諸君ハ宜シク注意シテ先ヅ西洋苜蓿ノ播種チナシ逸スルコトナキ様希望ノ次第デアリマス (明治三十七年七月)

植樹ヲ實行セラレヨ

愛 溪

樹木ヲ栽培スルハ最モ趣味アル最モ愉快ナル事業デアアル比較的ニ心ヲ勞スルコト少イ何等ノ業務ヲ問ハズ其業ニ當シメバ愉快チ感ズルニ相違アリマセン試ニ一樹木ヲ庭前ニ植ハンカ枝ヤ梢ハ一時元氣ヲ失フモ忽チ回復シテ生々新榮ヲ競フニ至ラバ曩ノ勞苦ハ忘レテ朝ニ夕ニ注意シテ保護スルノ念チ起シマス、保護注意チ怠リ萎靡セシチ咎メ枯死セシチ怒ルハ又無理デアアル殊ニ山野ニ栽植スル林木ノ如キハ一層ノ愛撫保育スルニ非ラザレバ良材美林ヲ造成スルコトハデキナイ林業ノ如キハ農業ニ比シ疎放的ニシテ何人ト雖モ之レヲ經營スルコトヲ得テ公共的事業ニ尤モ適當デアアル今ヤ征魯ノ師連戰連捷世界ノ各邦ヲシ

テ後ニ睦着タラシメタルノ手際頗ル愉快デ壯哉快絶デハナイカ此時ニ當ツテ慎重ノ態度チ以テ遠ク將來ヲ慮リ好個ノ紀念ヲ設置シテ後世ニ貽スハ大國民ノ襟度デ長ク後世ニ當時ノ壯烈ナル快舉ノ光彩チ森林ニ顯彰セントスルハ國民ノ精神上ニ感化チ與フル多大ノモノデアロウ

說者曰ク紀念ノタメ山野ニ植栽スルハ萬口一辭贊成デアアルモ適當ナル山林原野ナシト如何ニモ一理デアル何ニモ杉扁柏松等ノ五六種ヲ植栽スルノミデナク土地ノ肥瘠氣候ノ寒暖地勢ノ難易等土地ノ狀況ニヨリ適當ノ樹種ヲ撰定スレバ確カニ生育スルモノデアアル故ニ今日迄禿山嶺峯不毛ノ地トシテ委棄顯ミザリシ土地ヲ利用シテ植栽スルニ於テハ其利益少クナイ血ヲ以テ義勇公ニ奉ズル將士ヲ想ヒ鐵ヲ以テ立ツ吾人ハ一層奮勵千村萬落趣味アル事業ニ力ヲ盡スニ至ラバ曩ノ禿山ハ化シテ森々タル林相ヲ呈スルニ至ラシ蓋シ征靈紀念ニ對シテ百年ノ長計ヲ慮ラバ不知不識ノ裡ニ財產蓄積スルチ得テ實業軍ノ凱歌ヲ奏スルコトハ確カニアル貪富ハ天ノ支配ニアラズシテ全ク人ニアリマス

吾愛知縣下ニ林業ニ於テ卓識アル先輩ヲ紹介シマシヨウ市川正好世々尾ノ徳川氏ニ仕ヘマシテ祿三百石ヲ食シマシタ正好人トナリ正直デ吏事ニ長ケテオリマシタ寶永享保ノ間木曾ニ奉行チヤリテ居リ林務ノ全カラズシテ欠漏多キヲ慨シ遠圖ノ規劃チナシマシタ洵ニ木曾森林中興ノ偉業デアアル後數職ヲ經テ勤務六十八年老ニ及ンデ間モナク没シマシタ實ニ寶歷三年丁巳ナリキ夫レ木曾森林業ハ帝室ノ財源デアアル元和元年徳川家康其子義直チシテ木曾ヲ領セシメタ正好林務官トシテ銳意巢山留山五木ノ禁伐チ設ケ輪伐ノ業ヲ興シ全土石高ヲ檢シ懇荒ノ度ヲ定メ森林ヲ區劃シ森林ニ刷新チ加ヘマシタ此時制度一變頗ル民情ニ違ヒマシタケレモ正好省ミズ斷シテ之レヲ行ヒ藩モ又令ニ背クモノハ處スルニ刑典ヲ加ヘマシタ正好其人ガ出ヅルニ非ザレバ木曾森林ハ一ニ花剛砂山デ終タニ相違ハアリマセン正好其人ハ人ノ言ハザル時ニアツテ之レヲ云ヒ人ノ慮ラザル時ニ出デ之レヲ心配シマシタ國家ノ遠圖其功蹟ト云フモノハ永ク森林史上ニ特筆セラレテ永久ニ繰リ返サレマス

古橋暉兒三河北設樂郡稻橋村ハ森林ニ富ンデラツタケレモ伐り出ス方ガ多ク天賦ノ森林モ斧ト火トニ攻

メ立テラレ禿山ニナリカケタ古橋翁慨然トシテ山林ヲ回復蕃殖シテ郡中ノ富ヲ計リ且ツハ凶荒豫備ノタ
 メ一戸千金ヲ收入スルノ目的ヲ創メ一村共有地ヲ分ケテ杉扁柏榧等ヲ植付マシタ其方法一戸ニ付二千株
 ナ植ルモノトシ一株ノ價金五拾錢則チ二千株ノ價金千圓ヲ得ルノ計畫ヲ苗木ヲ買入レ之レヲ分ケ與ヘタ
 ケレ目目前ノ利ガナイカラ村民ハ之レヲ嫌ヒマシタケレ中々屈セズ天保九年始メテ植樹セシ以來明治
 三年迄毎戸息リナク栽植培養シマシテ遂ニ現今ノ林相ニナリマシタ然ルニ近來桑茶ノ産業ニ轉セシモノ
 アルヨリ植樹ノ業ハ一時中止ノ姿ニ至リマシタ翁大ニ見ル處アリテ益々志ヲ勵シ意見書及ビ取換セ規約
 書等ヲ編シマシテ一年一戸ニ付百株ツ、百年間植付クルモノトシ其食料ヲ分與スルノ方法ヲ設ケドシ、
 杉扁柏等ノ植栽ニ着手シマシタ翁ノ如キハ人ニ先テ憂ヒ人ノ樂ミニ後レテ樂シム偉ヒ人デアリマセン
 カ

新美應助翁(愛知縣勸業雜誌ヨリ採萃)

諱未詳應助ト稱ス新美ハ其人ナリ累生尾張國知多郡阿久比莊植村ニ家ス先新美長左衛門ナルモノアリ
 享祿天文ノ間豪族ヲ以テ顯ル君ハ則チ九世ノ孫ナリ故アリ記事ヲ欠クヲ以テ口碑ニ傳フル所ヲ蒐錄ス其
 出生其年月ハ今之レヲ詳ニスル能ハズト雖モ蓋シ延亨寛延ノ間ニアル可シト云フ君人ト爲リ温厚篤實英
 邁ニシテ遠慮アリ未ダ弱冠ナラザルニ推薦セラレテ里正トナル其公務ヲ整理スルヤ勤勉ニシテ公平ニ其
 自己ヲ奉ズルガ如キハ常ニ泊如ク是レヨリ先村所屬ノ官林盜伐ノ弊盛ニ行ハレ古來ノ森林殆ト荒廢ニ
 屬シ畜ニ一村ノ炊用ニ欠乏ヲ告ゲシムルノミナラズ用水ノ涵源亦將ニ乾涸セントスルノ傾向アリ君就職
 ノ初メニ深ク之レヲ概嘆シ百方匡救ノ策ヲ講テ遂ニ官ニ請フトコロアリ更ニ杉苗數十萬株ヲ植栽ス爾後
 自ラ官林ニ跋涉専ラ力ヲ培養ニ盡シ生長發育ヲ妨グル蛛網荆棘ノ如キモノハ日夜ニ之レヲ芟除シテ歇マ
 ズ且十數名ヲ以テ之レガ撫護ニ充ツルニ至ル其狀恰モ慈母ノ赤子ヲ愛スルガ如キナリ或ハ之レヲ迂遠ト
 ナスモノアリ君毫モ之レヲ意トセズ自任益々厚ク會テ一日モ管守ノ念ヲ怠ルコトナシ松樹稍生長スルニ
 及ビテハ昔時ノ習慣再ビ起リ盜伐ノ弊又行ハレントスルヲ憂ヒ精勵之レヲ防止シテ僅マズ數年殆ト一日

ノ如シ常ニ村務ヲ了スルヤ日暮例ノ鉄杖ヲ携ヘ路上ニ徘徊シ山邊ヨリ歸ルモノヲ要シ其運搬スルトコロ
 ノ擔荷ハ一々彼ノ鉄杖ノ尖頭ヲ以テ之レヲ刺シ盜伐ノ有無ヲ檢視ス人皆之レヲ怖レテ而シテ怨嗟ヲ抱
 クモノナシ其心ヲ用ユルノ深キニ至リテハ君嘗テ迎妻ノ日或ハ巡邏ヲ息ルヲ期シ盜伐ヲ行フモノアルヲ
 慮リ婚儀ヲ畢ルヤ直ニ宴席ヲ親朋ニ托シ獨自山邊ニ趣キ終夜之レヲ監視セシコトアリト聞ク寛政ノ季
 年ニ至ツテハ前ニ裁エルトコロノ松樹ハ蔚然トシテ林ヲナシ落葉常ニ地ニ堆ク園村ノ炊用ニ供シテ余リ
 アルノミナラズ或ハ之レヲ他ニ鬻テ以テ貧家ノ生計ヲ支ヘシムルニ至レリ是ニ於テカ曩ニ其迂遠ヲ笑ヒ
 タルモノハ深ク其志慮ノ足ラザルヲ羞ヂ一村モ又翁然トシテ君ノ偉業ニ服スルトコロアリ乃チ官林愛護
 ノ念ヲ生シ彼ノ盜伐者モ又悔悟反正スルニ至ル既ニシテ名聲遐邇ニ聞ユルトコロナリ隣郷又舉テ其美
 事ヲ贊ス官其成蹟ヲ嘉シ之レニ許スニ帶刀ヲ以テス蓋シ特功ヲ賞シテ之レヲ士籍ノ列ニ准セシムルナリ
 君文化甲戌七月十五日病ヲ以テ家ニ沒ス隣邑蓮慶寺ニ葬ル生前斯クノ如ク美績ヲ立テ鴻益ヲ興スト雖モ
 天其繼嗣ニ幸セズ終身男子ナシ故ニ同郡白澤村竹田氏ノ次男某ヲ養ヒテ子トス後年繼嗣某ハ父祖累生ノ業
 ナ保ツコト能ハズ遂ニ其家名ヲ墜スト雖モ君沒シテ後七十年ノ間ハ後輩ヲシテ能ク其偉業ヲ忘レシメズ
 然リト雖モ年ヲ經ルコト既ニ久シク時世變遷ノ致ストコロカ明治革命ノ際ニ當テハ看手モ亦自ラ其法ヲ
 緩メタルガ故ニ濫伐竊盜ノ弊再ビ行ハレ且ツ天保七年明治二年等ノ大風ニ巨樹古木倒サル、モノ夥シク
 蔚々タル深林モ復將ニ荒廢ニ屬シ殆ト舊觀ナ一掃セントス知ラズ君ヲシテ果シテ現時ニアラシメバ或ハ
 啻ニ長歎息ノミニ止マラザルベシ然リト雖モ尙ホ之レヲ地方ノ他林ニ比スレバ或ハ大ニ超越スルトコ
 ロアリ官曩ニ一等官林ノ名稱ヲ附與シ今又松樹二十余萬本ヲ植栽セラル是レ固ヨリ地質ノ美ニ依ルガ故
 ナルベシト雖モ抑モ君ガ偉業ニ基クモノ多キニオルト云ハズンバアラザルナリ蓋シ其人ニシテ既ニ逝ス
 其後ニシテ絶タリ而シテ園村ノ利澤ヲ享クル斯ノ如シ誠ニ惜シム其成蹟ヲ勒シ其紀念ノ祭ヲ執ラズンバ
 口碑モ又恐ラクハ煙滅ニ歸セントスルヲ同郷又此感ヲ共ニスルモノアリ相議シテ本日ヲトシ其祭典ヲ行
 ハントス事縣廳ニ聞ス國貞縣令深ク之レヲ嘉シ親ヲ之レニ莅ミ並ニ金若干ヲ賜テ其儀ヲ資ク嗚呼君生前

既ニ帶刀ノ賜アリ没後再ビ親臨ノ榮アリ今尙地下ニ其靈アラシメバ感應ニオクトコロナカルベシ謹テ之
レヲ勒シテ以テ不朽ニ傳フ

明治十七年二月十三日

紀念祭主唱者端山忠左衛門謹誌之

外國ニ於テモ曠世ノ英雄フレデリック大王ハ銳意植樹ヲ獎勵シマシタ其一節ヲ申上グルトセンカ千七百
五十二年ノ産業規則中樹木ニ關シ左ノ條項ヲ定メテ各村ニ適當ノ樹木學校ヲ設ケ養樹ニ熱達シテ教授
ニ堪ユルモノヲ一名教師トシテ雇入ル事トセリ

此樹木學校ニハ充分ニ果樹ノ苗木貯ヘ之レテ該村人民ノ園苗ニ植ヘ終ニ村落四近ノ路傍空地等ニ及ボス
ベキ方法デアリシ

各人少クトモ十株ノ苗木ヲ植ヘル筈デアツタ
又苗圃中空地アラハ適當ノ蔬菜ヲ栽培スル仕組デアル

千七百五十三年ヲ以テ樹木ニ乏シキ地方ニ左ノ如キ面白キ法令ヲ出セリ

人民中喪中ニ婚姻スルモノハ樹木ヲ左ノ數ニ照シ一ケ年以内ニ植エテ之レヲ培養シ若シ枯死欠乏アルハ
ハ更ニ之レヲ植エ決シテ全數ヲ欠クヲ得ナイ實ニ各方面ニ如才ナク措置セラレタルモノニアラズヤ

有産 女杉 十二 無産 女杉 六

此外總テ新ニ結婚スルモノハ一夫婦毎ニ資産アルモノハ苗木十二株資産ナキモノハ六株ヲ植ユベシ杉ニ

適當セザル地方ハ果樹ヲ代植スベシト
我國ハ古來ヨリ農ヲ以テ國是トナシ森林ナド云フモノニハ余リ重キヲ置カズ却テ厄介視シ火ヲ以テ斧
ヲ以テ退治ノ方策ヲ巡シタノデアアル願レバ今日農家一戸ノ耕地ハ僅カナルモノデ一町歩未滿デアアル一面

ニハ消費力ハドソノ進シテ生産力ト鈞合ガトレヌノデアアルカラ去鄣上都即チ村落ヲ去テ都ヘ都ヘト集
ル弊風ヲ醜惡セシメタ是レハ恐ルベキ現象デアル

山間ノ村落ハ自ラ雅致ニ富ミ朴枿質素ノ風即チ美風良俗ハ都會ニ比スレバ如何デアアルカ兎角都會ノ熱ニ
浮カサレテ實業ヲ厭フテ大失敗ヲ來タシタモノハ澤山アル

林地ハ思フニ初メハ占有權ヨリ所有權ニ變ジテノ何々村持トカ何々區持トカ又分割シテ誰々持トカニナ
リ又賣買讓與轉々シテ來タニ相違ナイ永遠ノ目的ハ思ヒモヨラズ現金主義ニテ遂ニ林地ヲ荒シタモノデ
アル

林業變遷モ農業界ト同一筆法デ昔時封建ノ時代ニハ村落ト都會トハ全ク區別セラレ都會ハ商工業ノ土地
ヲ田舎ハ農業ノ土地デアル此關係ハ種々ナル方面ノ制裁ヲ受ケ商業ヲ營ムモノハ都會ノ地ニ住ミ官ノ特
許テウケタルモノデアアル村落ハ之レト競争スルコトハ出來ナイノデアアルカラ村落ハ保守的都會ハ何モ進歩
的ニナツタノデアアル

郡村ニ事業ヲ企テ起スト云フコトハ肝要デ殖産工業サニ盛ニナレバ續々人ハ集ル景氣ハヨクナルモノデ
アルサレド事業モ土地相應ノ順序ヲ精査シテ確實ナル目的ニ依テ邁往勇進セテハナラヌ

山村ニ於テハ安全鞏固デ行ヒ易ヒ紀念ノタメニ所謂征魯紀念林ヲ設置シテハ如何デアアルカ紀念トシテ好
個ナル此ノ右ニ出ツルモノハアルマイ時ハ間斷ナク進ミテ忽チ松平信綱公ノ日光山ニ於ケルガ如ク後ニ

繰リ返サレル何デモ山ニハ植エサユスレバ種々ナル仕事ガ續々起リマス例之植ユレバ手入スル伐リ出ス
造材スル加工スル等中々人ノ手ヲ要スルコトハ數多イ一面ヨリスレバ強チ紀念ノミナラズ慈善的事業デ
アル是非實行セラレヨ徒ニ空論ニ終ラナイヨウニ切ニ江湖ニ諸彦ニ望ミマス (明治二十七年六月)

苜蓿栽培法

苜蓿ハ紫雲英「ツメグサ」等同シク苜蓿科ニ屬シ從來屢々「ツメグサ」ト混同セラル然レモ「ツメグサ」ト苜

宿トハ全ク別種ニシテ其形態性質ヲ異ニスルモノナリ、即チ苜蓿ニアリテハ花梗短少ニシテ先端ニ小ナル三五花ヲ簇生シ其色黄色ナリ而シテ花後ハ扁莢螺旋シ其外側縁邊ハ柔キ刺ヲ有セリ又此作物ハ紫雲英ニ比シ較濕潤ナル土地ニモ適シ從テ紫雲英ノ生育十分ナラザル濕地ニ於テモ能ク繁茂スルヲ得ベシ其含有窒素ノ如キモ紫雲英ニ比シ多キコト平均五割以上ニ及ビ收量ハ一段歩ニ付キ八百貫目乃至千二百貫目ニ及ブ

栽培法ハ乾田ト水田トノ二様アリ

乾田ニ於ケル栽培法 秋彼岸頃稻ノ株間ニ點播ス其法先ツ一步ニ付キ九株乃至十四株ノ割合ニシテ其局部ノ土面ヲ削リテ草ヲ除キ兼テ土壤ヲ膨軟ナラシメ其處ニ播種ス、播種量ハ每株凡ソ四五合ニシテ一段歩凡ソ八斗乃至一石ヲ要ス種子ハ播種前一晝夜水ニ浸シ藁灰ヲ塗抹シ直徑凡ソ五寸ノ圓形ニ種子(莢ノ儘)重ラザル様散播シ足ニテヨク踏付ケ其上ニ更ニ一株ニ付キ一合ノ割合ニテ燒土ヲ散布シ種子ヲ被フ時ハ一層可ナリ其後稻刈取後三十日以内一段歩ニ付キ一石許ノ藁灰ヲ施シ又春彼岸頃五石許ノ藁灰ヲ施シ播種後乾燥甚ダシケレバ水ヲ灌ギ又生育不良ナル場合ニハ微雨ニ際シ少量ノ稀薄人糞尿ヲ施ス又磷酸肥料ハ苜蓿ニ殊功アリ前肥五貫目内外ヲ用フレバ甚ダ可ナリ
水田ニ於ケル栽培法水田ニ於テハ直チニ田面ニ播種スルコト能ハザルガ故ニ此場合ニ於テハ別ニ苗床ヲ設ケテ播種シ稻刈取後高畦ヲ設ケテ其上ニ移植スルモノトス
苗床ハ水田高畦面積一段歩ニ對シ凡ソ四十歩ヲ要ス九月上旬畑地ニ一尺二三寸ノ距離ヲ以テ畦ヲ切り稀薄人糞尿少許(十歩ニ付三斗位)ヲ施シ一步ニ付種子一升許ヲ幅廣ニ連播シ其上ニ燒土ノ類ヲ薄ク散布シ踏付ク或ハ先ツ種子ヲ播下シ踏付ケ其上ニ稀薄人糞尿ヲ施シ更ニ其上ニ燒土ヲ散布スルモ可ナリ播種前種子ノ取扱ハ前ニ述ベタルトコロノ如シ
移植ハ十一月中旬ヨリ寒中ヲ除キ三月上旬迄ニ行フト雖モ成ルベク早キヲ可トス其方法ハ先ツ苗ノ間ニ生ズル雜草ヲ除キ次ニ唐鋏ヲ用テ連續發生セル苗群ヲ凡ソ七八寸ノ長サノ株ニ分ケ土ノ付タル儘本田ニ

運ブ而シテ本田高畦ハ適宜ノ距離(幅二尺ノ畦ナレバ三四尺ノ距離ニ一列)ニ一尺四方位ノ淺孔ヲ穿チ其中ニ藁灰ト米糠又ハ藁灰ト人尿ノ混合物ヲ凡ソ三合許施シ其上ニ苗床ヲ置キ能ク踏付ク其後四月上旬ニ番肥トシテ藁灰ヲ一株ニ四五合ヅ、施ス
收穫及ビ採種苜蓿(ウマゴヤシ)ハ收穫期ハ其花ノ略ボ終リタル時ニシテ即チ通常五月下旬ナリトス種子ヲ採收セント欲セバ花全ク終リ種子稍褐色ヲ帶ビ來レルキ毎株ノ莖ヲ集メ藁ニテ結束シ直立セシメオキ種子充分熟シタルキ刈取り日光ニ晒シ連架ニテ打チ莖葉ヲ去リ塵芥ヲ除ク (明治二十七年十月)

牧草ニ就テ

小川農學士ハ云ヘリ文明ノ農業ハ動物ノ力ヲ利用シテ營マレ文明農業ヲシテ利純ヲ得シメツ、アル最大秘訣ハ實ニ動物ノ飼育ニアリ而シテ我國ニ於テハ文明農業ニ必要ナル要素タル動物ヲ有セザルナリ更ニ説テ曰ク動物ノ飼育ニ必要ナル一問題アリ他ニアラズ其飼料即チ牧草ノ研究是レナリト實ニ然リ當局者茲ニ見所アリ論達ヲ發シテ牧草ノ栽培ヲ獎勵ス左ニ掲グルトコロノモノハ從來經驗上本邦ニ耕作シテ適當スベシトノ研究結果ヲ得タルモノナリ

チモシ

葉ハ短ク平タク莖ハ長クシテ強ク善キ土壤ニテハ時トシテ二尺乃至三尺若シクハ四尺以上ニ達スルコトアリ收穫シテ幹草トナセバ莖ハ太ク重量重ク外觀甚ダ美ナリ萬一收穫期ヲ誤リ根實ノ成熟スルマデ放任シオキタル場合ニテモ他ノ草ノ如ク著シク品質ヲ損ズルコトナキハ此草ノ長所ナリ

レッドトツ

此草ハ多年生ノ宿根草ニシテ濕地ニ適シ河川ノ附近ニテ時々水流ノ氾濫スル場所ニ適ス穂ハ一般ニ赤紫色ヲ帶ビ花ハ圓錐狀ヲナス此草ニハ匍匐スル地下莖アリ稈ノ高サ一尺乃至二尺ニシテ葉ハ短ク扁平ナリ乾草トナシテ容積ノ割ニハ重量稍輕キモ品質頗ル可ナリ滋養分ハ頗ル濃厚ニシテ米國ニテハ他種ノ牧草

ナ播種セントスルモ土地濕潤ニ過ギテ生長ノ見込ナキ場所ニ此草ヲ播種栽培ス

トル、オード、グラス

此草ハ米國ニ於テ耕作シ今日ニ及ベリ強健ナル宿根草ニシテ高サ二尺以上ニ生長シ時トシテ六尺ニ及バントスル事アリ穂圓錐狀花ニシテ普通ノ燕麥ノ穂ニ似テ稍細シ酷暑旱魃嚴寒ニ耐ユル力アリ收穫ハ二回之レナナスコトヲ得ベク而モ其量チモシニ二倍ス此草ハ濕地ヲ忌ミ適當ニ乾燥セル場所ニアラザレバ結果良好ナラズ米國南部諸州ニテハ冬季ノ牧草トシテハ之レニ勝ルモノナシト云フ其長所トスルところハ早春青草ヲ生ズルコト最モ迅速ニシテ到底此点ニ付キテハ牧草中此ノ種ニ優ルモノ他ニアルナシ此草ノ適地ハヒール氏ノ研究ニ依レバ砂質ノ土壤ニシテ十二年尙夫レ以上モ生長ヲ繼續スト云フ

白色クローバー

極メテ長キ多年生ニシテ莖ハ長シ匍匐ムル性質ヲ有シ其節ヨリ根ヲ生ズ葉ハ葉柄非常ニ長クシテ其先端ニ三枚ノ殆ド圓形ナル小葉アリ花ハ集合花ニシテ色ハ白色或ハバラ色ナルコトアリ六月中旬ニ開花ス適地ハ淺キ表土ヲ有スル土地小丘泥炭地寒冷ナル所濕氣多キ所若シクハ乾燥甚ダシキ所ニ適ス

レッドクローバー

全体ニ多少ノ毛ヲ生ズ小葉ハ稍橢圓形ニシテ長サ半吋乃至二吋細長キ葉柄ノ先端ニ三枚生ズル花ハ淡紅色淡紫色或ハ淡赤白色ニシテ球狀ヲナス莖ハ六吋乃至二尺ニシテ空筒ナル事アリ然ラザルコトアリ葉面ニ白色ノ斑点或ハ形ノ模様アリ此草ハ一年生ノ事アリ二年生ナル事アリ又多年生ナル事アリテ一定セズ此牧草ハ牧場並ニ道側ニ於テ盛ニ繁茂シ又千九百尺ノ高地ニモ春季五月ヨリ九月ニ至ル迄開花ヲ連續スルモノナリクローバー種子ハ窒素捕獲器ナリトノ諺アリクローバー種子ヲ播種スルハ「クローバー」ハ其特有ノ技術ヲ以テ遊離窒素ヲ捕ヘ之レヲ植物ノ吸收シ得ル状態ニ變化セシムレバナリ又他方ニ於テハポツタース燐酸窒素ノ供給者タル働キヲ爲スガ故ニ重要ナル植物ナリト云フベシ

クンタツキープリューグラス

高サ一尺乃至二尺ノ宿根草ニシテ莖ハ圓滑ナリ花穂ハ圓錐形ナリ北亞米利加ニ於テハ芝庭ハ勿論永年牧場用ノ草トシテ盛ニ播種セラレ尤モ賞揚セラレ、種類ナリ土地ノ肥瘠ニヨリテ著シク生長ニ差異アリ此草特性ハ其匍匐スル根ノ生長迅速ニシテ忽チ四方ニ蔓延シアラオニテ之レヲ鋤キ返シテ絶滅セシメントスルモ甚ダ困難ナリ又此牧草ハ家畜ガ其葉ノ先端ヲ食スルニ從テ其元ノ部分ハ漸次延長スルガ故ニ全葉中其先端ガ一番舊キ部分ニシテ幹ニ近キ元ノ部分ガ一番新シキ部分ナリ如斯家畜ガ喫食スレバ喫食スルニ從テ其儘元ノ方ヨリ延長シ他ノ牧草ノ如ク別ニ葉ヲ出スコトナシ此草ハ霜害寒氣等ニ害セラレ、事少シ故ニ旱魃激烈ナル日光家畜ノ蹂躪根際近ク刈リ取ル等ヨリ害ヲ受クルコト毫モナク一度播種セバ殆ド永代牧草地トナルモノト見テ可ナリ

オーチャードグラス

チモセーニ次ギテ有名ナル牧草ナリ葉長クシテ垂レ粗剛ニシテ色淡綠色ナリ牧草中開花期ノ早キ類ナリ「チーバー」氏ノ言ルアリ豊饒ナル土地ニシテ所要ノ濕氣アリ一年ニ二三回收穫シ得ル地方ナラバ「クローバー」又ハ「ブリューグラス」ノ如キ早種ノ牧草ヲ濕植セヨ而カモ種子ヲ稍多量ニ播種セヨト此草ハ春ニ於テ一番早ク秋ニ於テ一番晩ク迄生長スル特性ヲ有ス收穫ニ至リ高サ五尺ニ及ブ

(明治三十七年十一月)

學校栽樹ノ訓令ニ就キ栗樹栽培ノ必要述ブ

岐阜縣城山栗樹試驗場

早稻田大學校友

衣 斐 鉄 次 郎

此頃久保田文相時局ニ就キ各府縣知事ニ訓令スルニ學校栽樹ノ獎勵ヲ以テス眞トニ時節柄適當ノ注意ト謂フベシ

千古未曾有ノ時ニ當リ舉國一致奮勉以テ國富ノ増殖ヲ謀リ百年ノ長計ヲ建ツルハ吾人ノ責任ニシテ又國

家ノ義務ナレハ植樹造林ハ目下ノ最大急務ニアラズヤ
 荷モ慨世ノ士憂國ノ徒タルモノ此際大ニ奮テ是レガ獎勵ニ勉メザルベカラズ我國ノ如キハ山岳重々遠ク
 相連リ岡巒諸々ニ起伏シ河川縱横ニ流通スレバ眞ニ天與ノ造林地ナリ此天與ノ地之レガ利用ヲ計レバ誠
 ニ是レ無限ノ寶藏ナリ余曩ニ淺慮自ラ圖ラズ植樹ノ必要ヲ感シ獨リ私カニ思ヘラケ凡ソ人ノ放資スルニ
 當リ第一ニ欲スル處ノモノハ資本ノ安固ナリ第二ニ欲スル處ノモノハ其事業ノ容易ナリ第三ニ欲スル處
 ノモノハ其利益多額ナリ此三者ニシテ併備センガ誰カ又放資ニ躊躇スルモノアラシヤト千思萬考遂ニ栗
 樹造林ノ如キハ正ニ此三者ヲ併備スルモノナリト推斷確信シ數年來日夜勞心苦慮専ラ本業ニ從事シ着々
 歩ヲ進メ今ヤ漸ク奏効ノ端緒ヲ開キ該業ノ果シテ大ニ有望ナルヲ知ル然リ而シテ今日我國公私ノ植樹造
 林スルトコロヲ見ルニ其最大多數ハ杉ニシテ栗ノ如キニ至ツテハ殆ド絶無ト云フモ亦過言ニアラザルナ
 リ
 想フニ杉ノ需用如何ニ大ナルモ若シ夫レ今日ノ趨勢ニシテ顧慮注意スルトコロアラシカ後年大ニ悔ユル
 ノ時アルベキナ深ク信シテ疑ハザルナリ
 殖林ハ固ヨリ數十年ノ長計ナレバ之レニ從事スルモノ豈夫レ遠望廣察スル處ナクシテ可ナランヤ般鑑
 ハ遠カラズ桐樹ノ濫植ニ懲リタルノ事實ヲ追想スレバ蓋シ思半ニ過ギン
 幸今回學校栽樹ノ訓令ニ就キ栗樹栽培ノ必要ヲ述ベ廣ク府縣ノ小學ヲシテ栗樹學林ノ造成ヲ得ント欲ス
 請フ是レヨリ其必要ヲ述ベシ
 抑モ栗樹ハ人生最有益ナル植物ニシテ世ノ需用極メテ多シ其實ハ天然ノ美味ナル高尚ナル調理乾栗澱粉
 栗飯栗菓子燒栗等ニ用ヒラレ其材ハ鐵道ノ枕木割板屋材家具橋梁川柵塹垣薪炭等ニ用ヒラレ或ハ是レヨ
 リ香草ヲ採ルガ如キ其他葉ハ天蚕ヲ養フノ料トナリ花ハ櫛負ノ藥トナリ皮ハ染料ニ用ヒラル、等利用ノ
 途効用ノ多キ實ニ枚舉スルニ遑アラズ殊ニ況ヤ栗樹ノ栽培ニ就テハ以下ノ利益アルニ於テオヤ
 第一小資本ニテ創業セラル、事

第二資本ノ安固ナルコト

第三事業ノ容易ナルコト

第四收穫ノ多額ナルコト

第五勞力ヲ要セザルコト

第六肥料ヲ要セザルコト

第七土地ノ肥瘠ヲ撰バザルコト

第八生育結實ノ早キコト

第九成期終了後良材ヲ得ルコト

第十種實ノ貯藏ニ堪ユルコト

以上ハ栗樹其物ニ就テノ總括的利益ノ要点ナリ

從是造林ニ付テ一言センニ栗樹ノ造林ニ二種アリ一ハ單純林其主要トスルトコロハ用材ニアリ一ハ種實
 林其目的トスルトコロハ採實ニアリ今造林上二者ノ利何レガ多キヤト云ヘハ固ヨリ種實林ナリ何トナラ
 ハ栗樹ノ成期ハ三十年内外ニシテ閉鎖スルモノナレバ閉鎖後ハ伐リテ良材ヲ得レバ一舉兩得ノ法ナレバ
 ナリ

尙細カニ其利ヲ述ブレバ今仮リニ一反歩ニ七十本ノ栗樹ヲ栽培スルトセンカ一本平均一斗ヲ産シ一升ノ
 價拾錢トスレバ七十本ニ對スル產栗七石ナレバ則一反部ノ收穫七拾圓トス惟フニ是等ノ收益誠ニ容易ノ
 事ニシテ其實際ニ至ツテハ栗ノ成木好ク三斗以上ヲ産スレバ一反部ニ於ケル收利貳百圓内外アルコト決
 シテ疑フベカラザルノ事實ナリ然レモ栽培ノ巧拙精疎ニヨリ其差異アレバ一概ニ之レヲ言フベカラズ要
 スルニ副産業中放資少クシテ收益ノ巨額ナルモノ勞力少クシテ報酬ノ多大ナルモノ蓋シ恐クハ栗樹栽培
 ノ右ニ出ヅルモノナカラン
 今ヤ海外輸出ノ途ハ開ケ其需用益々多キノ今日府縣多數ノ小學ガ此際奮勵一番卒先ヲ以テ天與ノ山野ヲ

利用シ種實栗林或ハ單純栗林造成ニ着手セバ諒ニ國家ノ最大幸福ナラン
附記造林栽培法其他栗樹ニ關スル實驗談等ハ後日又之レヲ述ベン今ヤ栗ノ季節ニ向ヒ又苗木移植ノ
好期ニ向ヒツ、アレバ此際同感ノ士試植アラバ幸甚 (明治二十七年十月)

林業年中行事

一 月

伐 採 伐木ノ好期「皆伐ニアリテハ單ニ周圍ノ木ニ附號ヲ附セズヨロシキモ然ラザル場合ニハ一本毎ニ附號シ倒木ノ方向ハ成
ルベク他木ニ害ヲ與ヘザル様ニシ傾斜地ニテハ決シテ下方ニ倒スベカラス」機槍等ヲ伐採スルニハ斧又ハ鉈ヲ以テシ切
リ口ハ斜ニスベシ枝下シハ可及的温キ日ヲ宜シトス
運 搬 木材ノ流逸スル患ナキ所ヘ運搬スベシ
林道ノ妨ゲヲナス岩石ヲ破壊ス
副産物 割材ハ小川ノ近傍ニ運ブベシ
林地整理、炭燒キ、桤ヲ製ル、樟腦ヲ採ル
保護 積雪ナキ地ニテハ害虫ノ探卵毛虫ノ幼虫ヲ苔蘚中ニ捕殺ス
松林ニテハ松ケムシヲ防グタメ「ペンキ」又ハ「トリモチ」ヲ塗抹スルノ準備トシテ樹幹ニ印ヲ附ス
苗木ハ常ニ注意シテ鬼風ノ害ヲ防グベシ
鼠ヲ毒殺スルニハ「ストリキニ」チ「亞砒酸」等ヲ小麥粉ニ混ヘテ小ナル團子ヲ作り所々ニ置クベシ
免ヲ防グニハ石炭酸ノ稀薄ナルモノト石鹼水トヲ混合シ細ノ周リニ注グベシ

二 月

伐 採 喬林矮林ノ冬季伐採ヲ引キ繼テ行フ
疎伐ヲ行フ薪炭材ノ伐採
針葉樹ノ伐採ヲ始ム
運 搬 前月ニ引キ繼ギテ木材ノ運出雪ノ多キ所ニテハ橋ヲ用フルコトヲ得
管流シヲナス

保 植 栽 耕種シテ播種ノ準備ヲナス機槍ヲ廻リ取り仮植シ植附ノ用意ヲナス潤葉樹苗木ノ生長見込ナキモノヲ抜キトル
前月ニ同シ

三 月

伐 採 矮林伐採ハ冬季ニセラル、針葉樹薪炭林ノ伐採杉扁柏等ノ疎伐根株ノ掘採ヲナス
木材ノ運出前月ニ同シ
篠ノ編成 長キモノハ藤枝丸太ニテ作ル
青森秋田邊ニテハ橋ニテ運ブ管流機槍ヲナス嶮シキ地ニテハ鐵索ヲ張リ運出ス
植 栽 稗ナル日ニ山出シヲナス初メハ潤葉樹ヲナス即チ赤楊「シバクリ」胡桃、楡、シオチ、トチ、桂、ホノキ、クヌキカシ
ハ、ザクロ、梧桐、樟等ヲ出サバ宜シキモノ一本ノ他ハ掘キ捨ツベシ

針葉樹中赤松黒松ノ移植

落葉松、杉、扁柏、樅、ヒバ、アラ、ギ等ノ移植之レヲ春植ト云フ
下旬ニ針葉樹ノ播種ス苗木ハナル可ク肥沃ノ地ニ巾三尺長サ六尺ノ小區劃ヲナシヨク耕シ障害物ヲ去ルコト
子ズコ、杉、ヒバ、サハラ、ビヤクシン等挿木
保護 松毛虫ニ昇リ初ム故ニペンキ、トリモチヲ急ニ塗抹スベシ一度ニシテ功ナキ時ハ時々塗抹スベシ象鼻虫ノ捕獲被害木
ノ伐採剥皮之レヲ捕フルニハ針葉樹ノ樹皮ヲ割ギ巾六七寸長サ一尺一尺五寸ニ切り内面ヲ下方ニ向テテ新植地ニ散布
スルトキハ之レニ集リ來ルニヨリ捕殺ス
野火川岸ノ破損ニ注意スベシ

四 月

伐 採 高山ニアリテハ此ノ月ニス又矮木ヲ伐採ス除伐掃伐ヲスル根株ノ掘採
機槍ヲ作ル道路ノ修繕溝渠ノ浚渫管流シ機槍シヲナス前月ニ同シ
栽 搬 前月ニ引續キテ針葉樹ノ山出シヲナス小苗ノ床替此時松ヲ植ヘントスルニハ掘取り仮植シ月末ニ至リ新芽ノ少シ出ツル
時幹ニ土ヲ覆ハザル様ニ根邊ヲ壓踏シテ植ヘルベシ

五 月

伐 採 高山ニテ夏期ノ伐採ヲナス盤纏等ノ剥皮林ノ伐採ハ東京地方薪炭林ノ伐採ヲ止ム木曾山林伐採ヲ始ム

運植

搬栽

矮林下種伐ヨリ得タルモノヲ運ア
潤葉樹針葉樹ノ苗木ヲ作リ又山出シハ大概終結ス
檜杉松ノ床管ヲナス苗木ヲ見廻リ枯衰木ヲ拔ク

副産

護物

炭燒終ル、筒採集スベシ
林地ノ下草ヲ刈ル(功程男一日八畝—一反部)
檜端ニ又ナル苗木アラバ其強盛ノ檜ヲ殘シ他ヲ伐ル
針葉樹ノ苗木ノ日除溜水杉檜ノ害虫驅除

盜伐及野火ノ注意

森林及ビ森林附近ニテ火災ヲ生ジ易キ行爲ヲ禁止シ林内ニテ焚火ヲナシ或ハ燈火ヲ携ヘル如キ是レナリ西洋ニテハ蓋ナ
キ烟管ニテ喫煙シ又タシガレツトハ禁ズルト森林原野ニ火入ヲナス片ハ森林警察上適當ノ設備ヲナセ我國森林火災ノ發
見者ハ直ニ當局官吏ニ通報スベシ、火災ノ大ナラザルニ先テ消止ムベシ盜伐ヲ破リタル片ハ犯罪共謀者ノ有無ニ注意
シ伐採ニハ槌印ヲ打テ伐採ト區別シ檢證ニ便ニス蓋リニ鑿斧ヲ携ヘテ他人ノ森林ニ入り又通路ニアラザル處ヲ通過ス
ルモノハ注意スベシ

六月

運植

搬栽

夏期ノ伐採ヲ連續シ疎伐ニ掃除ヲ行フ枯損木ハ伐採根株ノ細探
獨逸ニテハ此月ヨリナスモ吾國ニテハ農業トノ關係上ナス能ハズ
ツバキ、サカキ、マサキ、ナマナラシ、ヤナギ、杉等ノ挿木此月上旬ニハ山櫻ノ實熟スルニヨリ採集シ直ニ下種セヨ
苗木除草苗木ノ疎ナル處ニハ落葉切屑ヲ散布シテ雨ノ敵カザル様ニスベシ苗木ニ病苗ニ係リシ苗木アラバ拔キ取リテ燒キ
捨テ後ニ石灰ヲ散布シ近隣ノモノニハボーリド液ヲ注下ス山林植樹時ニ見廻リ蔓草ヲ防グ野火ノ注意松毛虫其他ノ害
出ノタメ損害セラレシ樹木アラバ他ニ移ルニヨリ溝ヲ堀ルカ糞葉ヲ散布シテ集メ燒棄セヨ被害樹ニハペンキヲ塗リア下降
ヲ防グカ木ヲ動かシテ壁ル捕殺ス草刈入ニ注意隣林ノ所有者ト立合境界ノ切開ヲナス

運植

搬栽

前月ニ引續ギタル夏期ノ伐採疎伐掃除伐ヲナシ枯枝ヲ下ス根株ヲ細探スルコト前月ニ同ク
農業繁忙ニシテ充分アキズ

七月

運植

搬栽

秋翌春下種ノ準備トシ苗木ヲ耕耘ス
害草ヲ除去シテ幼木ヲ保護ス火災蟻害ノ注意溜水排水境界並ニ區劃線ニ存在スル林木ノ調査

運植

搬栽

夏期ノ伐採又疎伐掃除伐ヲ施行シ又枯損木ヲ伐ル根株ノ細探前更新ニ伐ルベキ林木ヲ調べ極印ヲ附ス
農業ノタメ防グ道路ノ修理
ツゲ、シダレヤナギ、白楊、楓、水松ノ採集
秋季及ビ翌春ニ設置ス可キ苗木ノ耕鋤下種伐ノ準備水松ノ播種
前月ニ同ク

運植

搬栽

前更新ニ伐採スベキ林木ニ極印ヲ附ス、夏季ノ伐採ヲ引續キ施行ス根株ノ細取、枯枝ノ採集、竹林ノ掘伐
筏流シニ便アリ出水ノタメ道ノ破損スルコトアリ注意シテ修繕スベシ
桂、桐、胡桃、栗、ノ採集、栗胡桃ノ如キハ砂中ニ貯フベシ
翌春苗木ノ準備下種伐ヲナス爲メ土地ノ耕耘苗木ノ除草竹林施肥、下旬ニ胡桃ノ下種
漆液ヲ掻キ初ム松茸、シメジ、ハツダケ、始メテ、發生ス故ニ取締リヲナスベシ、牛馬飼料ノ採集枯枝ノ採集
竹葉樹苗圃ノ日除ヲ除去ス牛馬ヲ放牧スル片ハ注意ス溜水、排水秋ノ下刈

運植

搬栽

此時既ニ前更新ニ伐採スル林木ヲ調べ了ル、薪炭材ノ伐採及ビ準備伐ヲ始ム

運植

搬栽

疎伐ヲ行ヒ又立木ヲ取除ク枝下シヲナス、方法ハ通例樹幹ニ沿フテ枝ノ基部ヨリ伐ルモノトス而シテ之レチ伐ルニハ銳
利ナル刀ニテ幹ト平行シテ垂直ニシ養分直チニ切リ口ヲ養ヒ卷キ込ムコトヲ速ナラシム可シ大和吉野地方ニテハ杉檜等
ハ植付後八九年ヲ經テ二年若シクハ三年毎ニ枝下シヲナシ二十年—二十五年以上ニ至ラバ五年毎ニ之レチ行フ大抵鉈ヲ
用ヒ中枝以下ヲ切り取ルヲ常トス此月下旬ヨリ纖維植物ヲ刈リ取ル
筏流ヲナシ又薪炭材ヲ運ブ道路ノ修繕
此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

運植

搬栽

此月中旬ニハ落葉松、アキニレ、サワグルミ、ノブノキ、シオサヒバ、サワラ、ヒノキ、杉、松、榎、ホノノキ、ウル

植栽 シ、イヌマキ、樟、赤楊シテ、槐、コフシ、ヤシヤブシ、採集機漆樟ハ乾燥ヲ忌ム注意セヨ
 落葉松、柯樹、榎、イヌマキ、ホノキ、ヤシヤブシ等ノ秋蒔ヲナシ又唐檜白檜、イラモシ、等ノ秋蒔ヲナス、竹林
 肥培
保護 漆液ノ蠍キ取り漆蠟質ヨリ蠍ヲ製ス果實澱粉原料蠟類ヲ採集ス
 下柴ヲ刈リ初ム鼠、モグラノ害ノ注意之レテ毒殺スルニハ「ストリキキ」子「元」モヨロシ亞硫酸モ可ナリ之レテ小毒粉ニ
 混ヘテ與フ
 此月下旬ニ至レバ寒害ヲ恐ル苗床霜除ヲナス夫レハ北ヲ低ク南ヲ高ク覆テ作ルベシ尤モ寒地ニテハ此霜除ノ外ニ殺蟲
 袴ヲ苗間苗床ニ散布シテ霜柱ヲ防グベシ盜伐火災ノ注意

十一月

伐採 皆伐前更新ノ冬季伐採薪炭材ノ伐採此時ハ赤楊ヲ伐採シテ直チニ燃料トスルコトヲ得
 降霜ノ時迄疎伐ヲナステ得枝下シテ行フ
 薪炭材ノ運出散在セル枯損木ノ堆積木材ノ川下ダ一般ニ築造事業行ハル
運搬 此月ノ下旬ニハ「モチノキ」アナ「中」旬ニハ金松、ネズミサシ、榎、ビヤクシン、オホナラ、クスギ、檜類クスノキ、柯樹
 マテバシロ、アヘマキ、榎等ノ種實熟シ下旬ニハ唐檜、モミ、榎、シラベ、銀杏樹、朴樹、トチ、ヌルア、ムクロウ、
 等ノ子實ヲ採集但シ榎等ノ如キ殼斗科ノ子實乾燥セザルニスベシ其レハ水漬セシモノヲ細砂ト共ニ蒸氣ノ多カラザ
 ル土中ニ埋ムベシ樟ハ直チニ土中ニ貯フベシ
 但シ「クス」ノ實ヲ輸送セントスルニハ乾スコト五週間計リニテ表面ニ蠍ヲ生ズルヲ度トス
 又荒皮ヲ去ルニハ冬至後或ハ早春ノ候水岡三日侵ニシオキ摘ミ割グ

植栽 榎ヲ掘リ採リ假植ス殼斗科、クスノキ、イテフヲ播ク之ヲ秋播ト稱ス
 落葉、枯枝ノ採集漆液ノ蠍キトリ炭燻本邦古來ノ炭燻ヨリ木醋ヲ製スルコトヲ得、椎茸木ノ伐採
保護 松毛虫ノ幼虫ヲ搜シ殺スベシ、兎鼠ノ害ヲ防グ可シ、盜伐火災ノ注意床廻リノ巡視

十二月

伐採 伐木ヲ充分ニ施行スルコトヲ得、建築材ノ伐採下枝ヲ行フ薪炭材ヲ伐ル
運搬 建築材及ビ薪炭材ノ搬出又前月ノ如ク川下ゲヲナス

種實 此月上旬キワダ子實採集
副産物 紙ヲスキ又澱粉ヲ製造ス、炭燻
保護 松毛虫ノ冬ゴモリスルモノヲ捕殺、有害鳥獸ヲ銃殺ス
 其他十一月ト同シ

挿木ニ適スル樹

- (一) 最モ挿木ニ適スルモノ
 ヒノキ、サハラ、コノテガシハ、ビヤクシン、ヒバ、チズミサシ、イヌマキ、ツバキ、サカキ、モチノキ、トチノキ、ツゲ、クハ
 ヤマナラシ、カナメモチ、サマンカ、サクラ、トチリコ、ヤナギ、ズミ、ナシ、イチヤク、アドウ、グミ、ホフライ
 (二) ヤ、適スルモノ
 カヤ、カウヤマキ、アオギリ、イテウ、クス、キリ、カヘテ、ツマシ、ナンテン、ハンノキ、ユーガリ
- 椎茸樹種**
 (一) 一等材 コナラ、クスギ、クロカシ、カシハ、ンロ、シテ
 (二) 二等材 アヘマキ、オホナラ、カシ、シイ、クリ、クルミ、ノブ、ヤマモ、チムノキ、アセビハゼ、ヤマハゼ、ウルシ、ハン
 ノキ、ナシ、ヌルア、サカキ

山本 技手

樟樹造林及製腦

總說
 樟樹ハ其自然生ノ範圍極メテ狹隘ナル限界ニアリ其現在我國ニ於ケル分布ノ廣柔ハ北緯二十二度ニ起リ
 全三十五度ニ至リテ止ム即チ北ハ常陸ノ國ヨリ南ハ臺灣島蕃署察廳迄ヲ以テ限度トス、元來樟樹ハ温暖
 ナル氣候ニ適スルヲ以テ全ク黒潮ノ流域ニ沿ヒタル南部貿易風ノ圍内ヲ以テ其郷土トス左レハ世界ニ於

(明治三十七年十月)

ケル樟樹ノ分布ハ亞熱帶暖帶ノ範圍ニシテ植物帶ヨリ云ヘハ榕樹帶ヨリ儲帶ノ南部ニ生育ス其郷土ノ主ナルモノハ支那ノ一部タル浙江福建江西ノ海岸ニ多少ノ樟樹生育スレ之レヨリ産出スルトコロノ樟樹ハ一ケ年僅ニ貳參拾萬圓ニ過ギズ他ハ全ク我台灣九州四國山陽道畿内紀伊ノ一部及ビ東海道ノ海岸暖地ニ生育スルヲ以テ主ナル産地トス然レモ人工植栽ヲ施セバ決シテ自然生ノ範圍ノミニ限ラズ熱帶地方ハ勿論合衆國極北地方ノ如キ寒冷ナル所ニアリテモヨク生育シ又能ク果實ヲ結ブト云ヘリ然レモ寒冷ナル地方ニ生育シタル樟樹ハ其含腦量分少キハ勿論ナリト知ルベシ樟樹ガ貴重ナル樟腦ヲ産出スルヲ以テ其栽培ノ有利有望ナルコト一タビ世界ニ喧傳セラレシ以來樟樹ノ造林ハ各地ニ企業セラル、ニ至レリ現ニ英領印度ニ於ケル錫倫島及ビ北米ニ於ケル「カリホルニア州」「フロリダ州」等ノ樟樹栽培業ノ如キ其結果孰レモ奏功シツ、アルモノ、如シ今左ニ其狀況ノ一般ヲ舉ゲントス

英國ハ二十年以來其屬領印度錫倫島ニ於テ樟樹ノ造林ヲ企テ已ニ十五年生位ノ樟樹枝葉ニ對シ數回採試驗ヲ舉行シタリ、然ルニ生枝葉百斤ニ對シ平均一「プロセント」ノ成績ヲ得タルヲ以テ之レガ收支經濟ヲ從來同等ノ主産物タル茶ノ栽培及ビ其製造ニ比較シ詳細ナル計算ヲ立テタルトコロ樟樹ノ萌芽林ハ茶圃ニ比シ其所得優ニ加倍ノ利益アリタルヲ以テ此等收支ノ計算ヲ公表シ專ラ樟樹ノ栽培ヲ獎勵シタルヲ以テ漸次茶圃ハ變ジテ樟樹林トナスノ觀ヲ呈シ來レリ然レモ其樟樹ハ未ダ結果期ニ達セザルヲ以テ之レガ増殖ニ付キテハ一面種苗ヲ我國ニ仰グニ至レリ（現ニ本多林學博士ノ如キハ昨年中ニ於テ苗木一萬本ヲ送致セラレタリト云フ）一面挿木ノ方ニヨリ銳意其増殖ヲ繼續シツ、アリ（熱帶地方ニ在リテハ挿木ノ造林ハ最容易ナリトス）又米國ニ於テハ樟樹ヲ以テ園藝上價值アル樹木トナシ庭樹又ハ道路ノ並木トシテ一般ニ之レガ植栽ヲ獎勵シ尙「フロリダ州」及ビ「カリホルニア州」ニハ萌芽林ノ目的ヲ以テ原野若シクハ畑地ニ造林セラレ已ニ鬱蒼タルモノアリ「フロリダ州」ノ如キハ已ニ二十年生未滿ノ樟樹ノ葉及ビ小枝ヨリ品質善長ナル樟腦ヲ採シタリトテ其成績ヲ公示セリ是レガ製造法ハ秘シテ發表セザルヲ以テ詳ナラザレモ枝葉七十七封（我五十八斤弱）ヨリ腦一封度（我百二十目）ヲ得タリト云フ

枝葉製腦ノ成績ハ枝葉採集ノ仕方ニテ大ニ差異ヲ生ズルモノナリ即チ腦分ハ枝ニ少ナク葉ニ多キヲ以テ母指大ノ枝迄ヲ採集シタルモノヲ以テ採腦比較試驗ヲナストキハ後者ヨリ採集シタルモノハ腦分ノ附方殆ド一倍以上ノ好成绩ヲ示ス、モノナリ今「フロリダ州」ニ於テノ試驗成績ヲ百分率ヲ以テ示セバ枝葉百斤ニ對シ採腦量ハ二「プロセント」余トナル思フニ之レ葉柄以下二三寸ノ所ヨリ採集シタル枝葉ヲ以テ試驗ニ供用セシモノナルベシ、尙採腦ニ關スル詳細ノ事項ハ後章ニ於テ記載セントス

以上英領錫倫島及ビ米國諸州ノ外樟樹ノ植栽セラレアルハ伊太利マダガスカル、ボナスエリ、カナリ、佛蘭西、等ノ各地ニ何レモ二十年生以下ノ樟樹ノ植栽ノ見ル然レモ製腦原料トシテハ未ダ之レヲ充用スルノ程度ニ達セズ

歐米各國ニ於ケル工業用藥用及ビ其他ノ用途ニ使用セラル、樟腦ノ需用ハ年々其増加ヲ示シ殆ド底止スルトコロナカラントス從テ之レガ價格ハ近來大ニ騰貴ヲ來セリ而シテ其供給ハ唯一ノ我日本アル而已ナレバ彼等需用者ガ其原料ヲ豊富ナラシメンガタメニ如何ニ苦心シツ、アルカラ察スベシ、サレバ近來米國ニ於テ人造樟腦製造ノ端ヲ開キ熱心其創始ニ力メ今ヤ其企圖成功ノ域ニ達セントスルヲ傳フ若シ此計畫ニシテ實行ノ曉ニ至レバ實ニ我樟腦ニ對スル一大強敵ト云ハサルベカラズ顧ミテ帝國内ニ於ケル斯業ノ前途ヲ望觀スレバ從來ノ樟樹ハ年々伐採シ盡サレ是レニ替ルベキ其造林ヲ施サハリシ結果内地ニ於ケル採腦ハ目下非常ニ微々タルノ狀況ヲ呈シ唯台灣ニ於テ在來ノ天然生ニヨリ多少ノ原料ヲ供給シツ、アルノ悲境ニ陥レリ若シ漫然之レヲ放任セバタメニ斯業ノ前途ニ及ボスベキ影響頗ル大ナリトスベシ要スルニ人造樟腦製造ノ發達ヲ防壓センガタメ且ツ印度米國等ニ於ケル採腦樟腦ト外國市場ニ競争シ此等ヲ壓倒センガタメニハ須ク樟樹林ヲ増殖シ益々我樟腦ノ産額ヲ増加スルト共ニ一面其價格ヲ低廉ニシテ普ク世界ノ需用ニ應ズルノ計畫ヲサマルベカラズ以下章ヲ追フテ造林及製腦ノ方法ヲ諸君ト共ニ講究セントス

一樟腦ノ性質

樟樹ハ常綠闊葉樹ニ屬シ生長最モ速ナル喬木ナル其種類ハ細カニ分テハ種々アル、ケレモ現今是レヲ大別シテ赤樟青樟ノ二種トシテアル赤樟ハ其特徵トシテ新芽及ビ葉柄共ニ赤ヒ又青樟ハ之レニ反シテ青ヒ何レモ其名稱ハ新芽葉柄ノ色合カラ付ケタモノナル而シテ赤青樟ノ含ンデイル腦量ノ比較ハ四國九州及ビ本土ニアリテハ通ツテ赤樟ニ多ヒ様デアルガ然シ台湾ニテハ最モ多量ノ腦分ヲ含ンデイルモノハ青樟ナル而シテ是レ赤樟青樟ノ區別ハ別段植物學上ノ區分デナイノデ唯應用上外觀ヲ以テ區別シタルニ過ギナイ例ハ全一人間テ多血性ノ人ト貧血性ノ人トノ別アル如キモノナル樟樹ハ大体寒氣ニ堪ユル性ニ乏シキモノナル故ニ霜氣ノ多キ地方デハ霜除ノ設備ヲ行ハチバナラヌノデ、ナクハ苗圃ノ仕立ト云ヒ苗木ノ移植ト云ヒニツナガラ十分ノ好果ヲ收ムルコトハ出來ナイ、然シ之レニ反シ火氣ニ對シテハ彼レ自身腦分ト云フ導火ノ性ヲ帶アルニモ拘ラズ容易ニ火災其他熱氣ノタメニハ枯死セザルモノナル然シ新芽及ビ幼齡ノ苗木ハ此限リデハナイガ兎ニ角火等ニテ其枝葉ノ如キ悉ク燃燒セラレタ場合デモ直チニ幹部若シクハ根部ヨリ新芽ヲ發生シ其新芽ノ旺盛ナル生長力ハ反テ以前ニ倍從スルコトガアル樟樹ノ寒氣ニ堪ヘズシテ温暖ニ適スル事ハ獨リ其生長ノ力計リデナイ含有スル腦分ノ量ニ至大ナル關係ヲ以テオルノナル之レ故ニ温暖地ニ生育シタ樟樹ハ氣候ノ寒冷ナル地方ニ生育シタ樟樹ヨリ其含腦量ノ多イコトハ勿論ナルノミナラズ全一本ノ樟樹デアツテ日光ヲ受クル南側ニハ腦分多ク之レニ反シテ北側即チ日受ノヨクナイ方面ハ腦分ガ少イ事ハ少シク此製腦事業ヲ行フタ人ノ知ルトコロデアアル殊ニ台灣島ニ産スル樟樹ノ中ニハ陰陽樹ト云フテ南方ニ面スル部分ハ多量ノ腦分ヲ含有スルニモ拘ラズ北方ニ面スル部分ニハ一切腦分ヲ含マズ單ニ小許ノ腦油ノミヲ含有スルモノガアル實際暖氣ヲ好ムト云フコトガ之レデヨク了解ガ出來ルノナル今樟樹ノ相對的含腦量ノ多少ヲ比較スレバ大約左ノ如シ

- 一、暖地ニ生育シタル樟樹ハ寒地ニ生育シタルモノヨリ腦分多ク油分少シ
- 二、向陽地ニ於ケル生立樟樹ハ被蔭地ニ生立タルモノヨリ腦分多ク油分少シ
- 三、老木ハ幼木ヨリ腦分多ク油分ナシ

- 四、幼木ノ枝葉ハ老木ノ枝葉ヨリ腦分多ク油分少ナシ
- 五、萌芽枝葉(萌芽枝葉トハ伐採後ニ於ケル萌芽ノ枝葉ヲ云フ)ハ成木枝葉(成木枝葉トハ自然ノ枝葉ヲ云フ)ヨリ腦分多シ
- 六、成長遅キモノハ成長速ナルモノヨリ腦分多シ(但シ樹齡ヲ問ハズ同容積ノ樟樹ニ付テ云フノデア
- 七、枝葉多キモノハ枝葉少キモノヨリ腦分多シ
- 八、材質重キモノハ其輕キモノヨリ腦分多シ
- 九、全一本ノ部分ニ付キ其含腦量等ヲ比較スルハ大約左ノ如シ
 - 一、根部ト幹部トノ接觸点ニハ腦分最モ多ク其上下ヲ距ツルニ從テ漸次含腦量ヲ速減シ更ニ葉ニ至リテ再ビ多量ノ腦分ヲ含有スル
 - 二、日光ヲ受ケル部分(主トシテ南面ノ方)ハ其反對ノ部分ヨリモ腦分多ク油分少ナシ
 - 三、枝ノ幹ニ接觸スル箇所及ビ瘤等ノアル部分ハ之レニ反對スル部分ヨリ腦分多ク油分少ナシ
 - 四、南枝ハ北枝ヨリ腦分多シ
 - 五、枝根ハ腦分少ク油分多シ
- 大畧ヲ舉グレバ左ノ如キモノナル
- 元來樟樹ノ含腦量ハ土地氣候等其他關係ニヨリテ一定セヌガ現今ハ百年生位ナ普通ノ樟樹テ其全部(根幹枝葉共)ノ總斤數ニ對シ百分ノ二、七二又四十年生前後ノモノデハ百分ノ一、二〇位ノ含腦比例ヲ以テ通常トシテアル
- 又枝葉ノミニ對スル含腦量百分率比例モ從來其試驗ノ成績ガ一定シテナイケレモ要スルニ試驗成績ノ長否ハ枝葉ヲ採集スル仕方如何ニ依ルト云フテモ差支ナイノナル即チ製腦ノ原料ニ母指大ノ枝ヲ混合スルコトガ多クレバ從テ試驗ニ好成績ヲ得ルコトガデキナイ、何トナレバ此枝ノ部分ハ原料ノ斤數ガ比較

的多クテ其合腦量が反比例ニ少キヲ以テアル然シ合腦量多キ葉ニ重キヲオキ此原料ヲ以テ試験スレハ其成績實ニ見ルベキモノガアルノデアアル
次ニ専門ノ學者ガ行ハレタ枝葉試験ノ主ナルモノヲ擧ゲテ參考ニ資スル但シ試験成績ハ百分率ニ換算シタルモノデアアル

枝葉焚込斤數
探腦高
試驗擔當者
理學士守屋物四郎氏
農學士森 壬五郎氏
臺灣樟腦專賣局
全上苗栗支局
鹿兒島樟腦事務局
四國方面ニ於ケル製造者ノ實際ノ製腦歩合
右ノ如ク試験ノ成績區々ニシテ一ナラズト雖モ一ハ原料枝葉ノ採集ノ仕方ト二ハ採收ノ時季及ビ採收地ノ氣候等ニ關係ナ有スル様デアアル前ノ表ヲ通シテ枝葉一斤ニ對スル探腦料ハ一斤乃至四斤迄ノ間ニア

東加茂郡有造林經營ノ概況

竹 波 順 之 助

世界ノ公道ヲ保全センガタメ國運ヲ賭シテ起セシ三十七八年戰役ハ實ニ帝國安危存亡ノ係ルトコロニシテ舉國一致軍國ノタメニ盡碎スルトコロアリシニ幸ニ一戰ハ一戰ヨリ最モ光輝アル勝利ヲ得テ終ニ雄大ナル世界ノ強國ヲ懲瑟シ帝國ノ光榮ト武烈トナシテ洽ク八紘ニ赫灼タラシメ諸列強ヲシテ又鼎ノ輕重ヲ問フテ得ザラシム豈愉快絶真ニ是レ曠古ノ盛事ト稱スベシ
此時ニ當リ全國各地到ル處個人ト云ハズ團體ト云ハズ此光榮アル戰役ノ紀念トシテ諸種ノ事業ヲ計畫ス

ルモノ踵ヲ接シテ興リ工業ニ農業ニ將タ植林事業ニ各々好適ナル方法ヲ以テ此千載一遇ノ鴻業ヲ永遠ニ忘レザランコトヲ期セリ

我東加茂郡ニ於テモ亦戰時紀念事業ノ實行ヲ計畫スルノ氣運ニ到リ明治三十八年二月時ノ郡長田中從義氏ニ依リテ發案セラレ遂ニ郡會一致ノ協賛ヲ經テ地ヲ舊金澤村大字御内藏連共有山林ニ相シ爰ニ二十年

計畫ヲ以テ郡有造林五百町歩ノ經營ニ着手スルニ到レリ
抑モ本郡タル其二分ノ二ハ山地ニシテ古來愛林ノ思想稍々發達シ從テ美良ノ森林モ鬱カラズ茲ニ於テ植林事業ハ久シク郡是ノ首腦ヲ幸ニ好期ヲ利用シテ此一大造林ノ實行ヲ見ルニ到リシハ當ニ本郡ノタメノミナランヤ

現今林業ノ發展ハ駭々乎トシテ底止スルトコロヲ知ラズト雖モ其最モ盛ナルハ造林事業ナリトス而シテ全國中一郡ノ力ヲ以テシ五百町歩以上ノ經營ヲナスモノアルハ僅ニ指ヲ屈スルアルノミ之レ本郡ノ最モ榮譽トスルトコロ由來好事魔多シ庶幾クハ有終ノ成果ヲ望ムヤ切ナリ

今左ニ本郡造林ノ一般ヲ摘載シテ大方ノ參考ニ供セントス
一、所在林地及ビ事業ノ狀況本郡有林地ハ足助町ヲ距ル東南約三里加茂村大字御用藏連地内ニアリテ甲乙二圃地ニ分レ甲ハ約四百町歩乙ハ九十餘町歩アリ此全体ヲ二十林班ニ分チ毎年杉扁柏五分ノ割合ヲ以テ一町歩六千七百五十本ヲ新植シ明治五十七年度ニ於テ悉皆終了スベキ予定ナリ

林地ハ基岩凡テ花崗岩ニシテ砂質壤土其八分ヲ占メ僅カニ一小部分ノ礫土ヲ見ル其南方一体ハ有名ナル段戸御料林ニシテ東北ハ本縣農林學校演習林及ビ目下計畫中ニ屬スル縣有林候補地ニ連リ其最高点ハ海拔約一公里ニシテ東方ハ高山巨峯ヲ以テ掩ハレ漸次西方ニ開展シ傾斜二十度乃至三十度ノ間ニアリテ二條ノ大谿川ヲ出ス全山中ノ五分ノ一ハ針濶混淆ノ森林ニシテ老大ナルモノハ百五十年以上ヲ算スベキモ概シテ七八十年生ノモノ多數ヲ占ム昨三十八年四月ヨリ此附近ニ大凡三町歩ノ苗圃ヲ開墾シ茲ニ百有餘萬本ノ苗木ヲ養成セリ本春三月始メテ新植ニ着手シ已ニ三十三町歩ノ實行ヲ了ヘリ之レニ要セシ苗木ハ

扁柏十萬七千本杉十一萬本ニシテ四尺ノ方形植栽ヲ探レリ幸ニ爾來氣候ノ順ヲ得遠般下刈ノ結果扁柏ハ悉皆生着シ杉ニ於テ僅ニ八分ノ枯死ヲ見ルノミ目下事務所新築工事中ニシテ其傍ニ第一人夫小屋ノ設ケアリ常ニ數名ノ定夫居住セリ不日第二人夫小屋ノ起工ヲナス準備中ナリ

林道ハ巾三尺延長五里ヲ毎年十八町ツ、施行シ林内縱橫四通ノ便ニ供シ將來之レヲ延長シテ巾九尺ノ幹線ヲ足助町ニ至ラシムル予定ナリ而シテ林地周圍ハ勿論各林班界ニ巾五間ノ防火線ヲ設ケ以テ火災ノ警防ニ供シ漸次ニ延長シテ六千間ヲ開設スル見込ナリ

一、收支計算本事業地ハ加茂村大字御内藏連ノ共有山林ヲ百ヶ年間ノ地上權ヲ以テ借入レタルモノナルヲ以テ毎年植栽面積一町歩ニ付キ金拾六圓ノ借地料ヲ要シ其植付終了ニ至ル迄合計八千圓ヲ支拂ハザルベカラズ而シテ植栽后二十年目ノ間伐ヨリ皆伐(輪伐齡ハ八十年)ニ至ル迄ノ間伐收入及ビ皆伐立木代價ノ各十分ノ一ヲ土地所有者ニ交付シ他ハ各町村賦課經費支出ノ歩合ニヨリ各基本財産トシテ交付スルモノナリ左ニ其收支豫算表ヲ掲載セン

造林事業費收支豫算表

林地面積五百町歩二十ヶ年計劃

一金拾參萬貳千四百九拾圓	經費支出但借地料含有
一金參拾參萬參千參拾圓	土地所有者へ可渡歩合金
一金參百參拾七萬八千六百圓	收入 金
差引金貳百九拾壹萬參千八拾圓	利益 金
一金五百六拾八萬七千貳拾五圓八拾參錢	百年后ニ於ケル支出元利合計
一金百六拾九萬貳千四百貳拾七圓九拾貳錢貳厘	同上土地所有者ニ可渡歩合金六利合計
一金千六百六拾六萬五千七圓八拾九錢	同上收入元利合計
差引金九百貳拾八萬五千五百五拾四圓拾參錢八厘	

若シ夫レ本事業ニシテ不可杭ノ災危ニ遭遇セズ豫定ノ如ク進行セバ將來本郡ノ利スルトコロ表示ノ如ク頗ル大ニシテ教育費ニ役場費ニ其他一般公共費ニ如何ニ多クテ支出スルモ尚年々多額ノ剰余ヲ生シ欲シテ得ザルナリ成シテ遂ゲザルモノナケン茲ニ於テカ初メテ自治ノ實ヲ舉ゲ民心歡呼鼓舞艱難ノ古ヲ見ルノ盛運モ決シテ遠キ將來ニアラザルベシ加之本郡ニ於ケル一般造林事業ハ演習林ニ町村有林ニ已ニ施業ノ確立セシモノ、外漸次整理造林ヲナスベキ民有山林ヲ概算セバ優ニ三方町歩ノ大植林ヲナスベキ余地ヲ有シ其三河吉野ノ名稱ヲ冠セラル、モ又得難キコトニアラザルベシ況ンヤ此山林ヲ目的トシ有力者間ニ於テ鐵道布設ノ計畫ニ熱中シ已ニ着々進捗シテ大ニ有望ノ状態ニアリト聞ク本郡民タルモノ益々奮ヒ倍々山國民タルノ名實ニ相背カザランコトヲ偏ニ希望スルトコロナリ (明治四十年五月)

大正二年三月十五日印刷
大正二年三月十八日發行

愛知縣

印刷人 杉浦甲子之助

印刷所 名古屋市東區朝日町四丁目五番地
三成社

終